

又大學の教授の内では、あの小金井博士の如き或は甲野君の如き、皆吾輩の常に親しむ所の新潟縣人なのである。又吾輩は殊に新潟縣下の或る一地方とは特別の關係を持つて居る者である、それは何であるかと云ふに、高田地方と吾輩とは——今日世人は一向に知らぬが一種特別なる關係があるのである、而して其關係たる、今日吾輩は此席に述ぶることは致さぬのである、孰れ高田に往く——孰れ高田に往てから其關係を述べやうと思ふのである、兎に角吾輩は従前曾て此新潟地方と云ふものは一步も踏込んだことのないものである、新潟縣人と斯の如き關係を有つて居るものであるに依て、吾輩が諸君の爲めに聊か述ぶる所の言葉には是は少しく信用を置かれることを偏に希望するのであります。

諸君凡そ此社會の事の内には人類が容易に熱心になれることゝ、容易に熱心になれる事との區別がある、如何なる事に人類が容易に熱心なれるかと言ひますると、直接に金の儲かること、直接に金の儲かる事には人が一番熱心になれると吾輩は思ふ、又人が容易に熱心になれる事は權力を握ると云ふことである、政權を握ると云ふ事なのである、金を儲ける事、權力を得る事、此二つの事項のことには人類が極めて容易に熱心になれるものであると吾輩は思ふのである、而して金を儲ける事

の如き、勢力を得ることの如き、共に是は目的ではないのである、唯方便に過ぎぬのである、金を持つて居つて何に成るか、直ぐに飢を救ふ事が出来るか、直ぐに身體を暖めることが出来るか、詰り金は方便である、人をして食を得せしめ、衣服を得せしめ、家屋を得せしめ、其他有らゆる幾ど有らゆる快樂を得せしむる爲めに方便になる、所で錢に依て、即ち金を人が殆ど之を目的の如くに考へて金を得る事には二六時中汲々とする云ふのが吾々人類の人情なのである、權力の如きも亦之に類したものである、權力があれば人を支配することが出来る、我意を行ふことが出来る、將た金儲をすることが出来るのである、故に人類は此二つの事には容易に熱心になれるが、扱て人類のそれ程容易に熱心になることの出来ぬ事は幾らもあるが、其内で最も必要なものもあるのである、容易に熱心にはなれぬが、然れども此事に熱心にならぬければならぬ實に必要な事と云ふのもあるのである、其一を挙げますると云ふと、即ち教育と云ふ事である、教育と云ふことは何人も實に熱心になつて之を求めなければならず、之を發達せしめなければならず、詰り教育程大切なるものはないのであるが、然れども教育に依て得る所の利益と云ふものが、彼の金儲の如く勢力の如く容易に人に知れぬが故に教育にはそれ程熱心なることが出来ぬ

のであると思はれる、社會が進むに従て、人が段々開くるに従て、而して教育と云ふものに人が段々熱心になることが出来るのである、蓋し教育に關する熱心の度の如きと云ふものは、野蠻人なるか、開化人なるかを區別するに最も良い標準になると思ふ、未開人であるか、高等人であるか、高等なる人類、高等なる社會なれば必ず教育と云ふものは熱心であつて熱心に教育事業を盛大に行ふのである、段々未開時代に進むに従て教育と云ふものは不熱心になつて來るのである、それは固より怪しむに足らぬのである、何せであるかと云ふと、原因結果の容易に認められるものは野蠻人も之を認めて、さうして其必要を感ずることもあるが、教育の如きと云ふものは、それ程原因結果が明らかに知れぬものなのである、多數の歲月も要するのである、而して往々は直接には教育の利は分らぬのである、教育が無くても今日の仕事が無々濟で居るやうに見えるかと云ふのが是が一般の情である、夫故に無智なる者、下等なる社會に至ると云ふと教育と云ふものはさう重く見ぬことになつて居るのである。

凡そ國家たるものゝ内で教育の大切なることを最も早く認めたるものは何れの社會であるか、何れの國家であるかと言ひますると云ふと昔の希臘國と昔の羅馬

國である。希臘と羅馬に於ては教育と云ふものは非常に重いものと見たのである、殊に希臘の如きは羅馬よりも古い國であつて、而かも或は羅馬よりも遙に教育は大切なることを認めた國なのである、それで斯巴太であるとか亞典であるとか謂ふ處に於いては各々施す所の教育には異動があつたけれども、而かも各々熱心に教育と云ふものを施し、人爲的淘汰を以て人材を養成し、人の身體精神を發達せしめて往つたのである、それで斯巴太の方では専ら體育に重きを置き、軍隊的教育に重きを置き、亞典は頗る智育に重きを置いたと云ふやうなことであつて、各々非常に多くの人物を生じ出すことが出来たのである、其の教育の結果として當時の社會に於て埃及希臘と云ふものは比較的實に小さいな國であつたが、當時の天下を併呑したのは即ち希臘國民であるのである、當時世界に於て最も雄大な國を作して、最も多數の人口を持つて、或は富の度などに於ては頗る高度なる國であつたこともあるので、彼の波斯の如き、即ち大國であつた、然れども彼の大國であつた波斯は希臘と戰て常に敗北した、希臘の軍勢は毎時でも少くも波斯の軍勢を何分したと云ふものである、十分一——非常に比較的に少いものであるが常に希臘の軍勢が勝つことを爲したのみならず、後には亞歷山時代には波斯國迄遠征が出

來たのは何の徳であるか即ち希臘に於て非常なる熱心を以て教育と云ふものを實行したからのことである其結果として希臘と云ふものが斯の如く強大なる國に成つて天下を壓倒することが出來たのである羅馬は一個の町より起つて遂に全天下を羅馬帝國の領地とする如くに至つたのも何であるかと云ふと即ち教育の結果と思はれるのである即ち昔に於て羅馬と希臘とは教育を施して而して其教育の結果を以て非常なる優勢を極めたと云ふ最も好き例であると思はれる而して是等の國に壓倒せられたる所の人民共は如何なる者であるかと云ふと毎時でも孰れも教育といふ事には重きを置かぬやうな次第であつたのである又教育などと云ふことにはそれ程感念がないやうな人民であつたのである。

我日本人の如きも昔よりして教育と云ふことには非常に重きを置いたのであると思ふのである武家以前王朝の時代などに於ては學問と云ふ——教育と云ふやうな事には頗る重きを置かれたのである武家時代になつても世の亂れて居る時は已を得ぬことであるが世が治て鞏固なる政府の出來た時に至ては教育と云ふものに頗る重きを置いたのであります例へば舊幕の時代徳川氏が政權を握て居つた時に於て武の教育にも文の教育にも獨り徳川政府が旗下の士人を教育す

る爲めに方便を設けたのみならず各藩に於て各々武的教育的の教育を其藩の子弟に授ける爲めに設けたのである斯の如き教育の方便に依て三百年來日本社會に於ける所の士族と謂ふ者が教育を受けて來た其結果として遂に明治の維新と云ふやうな事も能く實行する事が出來たのであらうと吾々は思ふのである若し是が教育といふ事を三百年來徳川氏を始め各藩に於て怠つて居つたならば如何であるか決して今日の如くに近來歐米の文明などを採用して古來吾國に存する所の必要な要素に加へて近來の智識を用ゐて國を開發して今日の如く駸々と進歩して行く事は到底出來ぬことであつたらうと吾輩は思ふのである去りながら教育に重きを置かざるには非ざれども直接金儲の事をして直接權力政權を得るといふことには人の熱心なるのと較べるといふと教育に熱心なる度と云ふ者は實に薄くなつたと謂はなければならぬと吾輩は思ふのであるそれは遠く武家の時代に於けるのみならず明治年間に於ても亦其の通りであつたと思ふのである近年迄といふ者は教育に熱心——教育の進歩の事に就いて圖るといふものは政府と特に教育に専門的に従事して居る者の間に専ら行はれたことであつて一般人民の如きは教育といふ事には割合に不熱心であつたと思ふのである例

へば縣會では如何であるか、當縣の如きは暫らく措いて、往々にして教育擴張に關する案が潰れると云ふ、縣會で否決すると云ふことが是迄度々あつたのである、夫のみならず折角既に存在して居る所の學校などを廢するといふことも従前屢々あつたと思はれるのである、帝國議會に於ては如何であるか、帝國議會の如きも軍費であるとか、或は商業工業に對する所の補助金であるとか云ふ如きことには頗る熱心であつても教育の事に至ると云ふと、今日教員の養成は最も急務であると云ひながら、教員の缺乏は何人も認て居る時であるにも拘らず、高等師範學校の改築などの問題に至ると云ふと如何なる考へもなしに之を否決すると云ふやうなことを爲すのである、我が帝國議會の代議士の如きも往々教育に非常に不熱心なるものもあると云ふことを割合に近頃の議會に於いても既に業に發表して居るではないか、若し教育に熱心なる代議士であつたならば斯の如きことを僅の金高を削減するなどと云ふことは決してある可きでないと思はれる、併しながら教育に眞に熱心になつたと云ふものは西洋諸國に於ても割合に近頃のことであると云つて宜しい。

近頃と云つても凡そ百年頃、百年以前頃……凡そ百年以前頃よりして眞に自覺的

に意思的に教育に熱心になると云ふことが始つたのである、それ迄は随分教育に必要なることを認めた場合もあつて大學などは諸邦に創立されて居つたのであるが、然れども一般人民の教育を……普通教育を並に中學教育を並に大學教育を熱心に秩序整然と之を行はなければならぬと云ふことを認めて是が實行を圖つて來たのは、凡そ百年前頃からのことであらうと思はれるのである、それはどう云ふ所でどう云ふ次第で起つたかと言ひますと云ふと、御承知の通り前世紀の今日に於て、西洋に非常に大擾亂が起つたのである、即ち佛蘭西と謂ふ處には大革命が起つて、實に社會は非常に紊亂を極めたのであるが、其時に古今無双の英雄が出て、此麻の如く亂れた佛蘭西國を一統し、而して歐米諸國と闘て能く歐米諸國の聯合軍に勝つて、世界に非常な勢力を極めた者がある、即ちそれは奈翁一世である、當時奈翁の時には殆ど世界各國が壓倒されたのである、然れども其奈翁の敵の内、以て最も痛む可き敗北を受け、最も侮辱を受け、最も耻辱を受けたのは、何れの國であるかと云ふと、即ちプロイセン國である、今の獨逸帝國の元となつて居る「プロイセン」國である、「プロイセン」國の如きは當時奈翁の爲に非常なる敗北を爲し、非常に苦しめられて、特に其國家が侮辱を受けたのみならず、其帝室も謂ふに忍びざる侮辱を

受けたと云ふやうな次第である、而して其敗北の爲に獨逸に於ては非常なる強い精神を以て教育事業を起したのである、伯林大學と云のは其時に起つたのである。普通教育の秩序整然たるものも、其時より起つたのである、而して獨逸では普通教育に於て中學教育に於て大學教育に於て、凡七十年——六十幾年——七十年の間熱心に教育事業を施したのである、其結果如何なることに至つたかと云ふと即ち千八百七十年に於いて、獨逸と佛蘭西の間に一大戦争が起つたのである、而して其の戦争に於て、獨逸は佛蘭西に連戦連捷、我れが二十七八年の戦争に於て支那帝國に勝つた如くに、獨逸は殆ど前代未聞の大勝利を佛蘭西に對して爲したのである、何に依つて獨逸が能く此勝を得ることが出来たかといふと、則ち獨逸が多年の間——五十年六十年の間、必死を極めて其人民に各種の教育を興へたる結果なのである、獨逸人は自から知つて居る、何の爲に吾々が捷つたといふことは獨逸人は固より知て居る、而して彼よりして此の如き侮辱を受けた佛蘭西人、斯の如く前代未聞の敗北を爲した佛蘭西人の如きも、吾れの斯の如き失敗を爲し斯の如き侮辱を受けたのは何に依るか、彼れ獨逸人が教育を施して居る間に、吾れが教育を惰て居つた吾れが奢りに耽つて教育に惰つて居つた其結果に過ぎぬと云ふことを悟つ

たのである、夫故に彼の戦争以後は佛蘭西人が熱心に各種の教育を施したことは又殆ど獨逸人に譲らぬのである、或場合に於ては獨逸人より優て居る位に熱心に教育をやつたのである、而して獨逸人の如きも教育に依て勝つた者であるといふことは、固より信じて居つて、將來益々教育を擴張せんければ此勢力を維持することが出来ぬといふ事は充分知て居るに依て、佛蘭西より取た所の償金の内の大部分を投じてストラズブルグの大學と謂ふ實に盛なる大學を新たに起したと云ふやうな次第である、而して各種の教育もそれ／＼擴張して往くと云ふ次第であつて、今日佛蘭西と獨逸と互に競て各教育を擴張して居るものであつて、歐羅巴諸國の内でも最も教育に熱心、最も學術の進歩爲して居る——學藝の進歩爲して居る國と云ふのは獨逸と佛蘭西の二つである、と謂つて不適當のことでもなからうかと思ふのである、而して今日では工業でも商業でも益々教育に據らなければならぬと云ふ感念を各國の人民大に覺つて來たのである、殊に獨逸と佛蘭西に於て工業教育商業教育などと云ふものが専ら盛に行はれたのである。

英吉利の如きは大に趣を異にして居るのである、諸君御承知あるかも知らぬが、英吉利と謂ふ國には彼の自由放任主義と云ふ者が頗る行はれたのである、英吉利經

濟家などは常に自由貿易を唱へ、政治論者も往々自由放任主義を唱ふるのが常であつて、教育なども夫故に放任して置く、職工の教育、工藝者の教育と云ふ如きものは、是は我國で行はるゝ所の年季奉公と謂ふやうな種類なもので以て得る事になつて居つたのである。然るに其結果はどう云ふものに立至るか云ふと、佛蘭西であるとか獨逸であるとか云ふ處では頗る熱心に商業工業等の教育は施すことであるに依て成績が能く出来る、それで従前英吉利人が占めて居つた所の商業上の事に於ても、却て佛蘭西人であるとか、獨逸人であるとか云ふものに侵害せらるゝことが現はれて來たのである。是に於て自由放任主義を非常に尊敬して居るやうな英吉利人と云ふ者も、次第々々に此主義を捨てて來て、教育などに於ては段々と干渉主義を採るやうになつたのである。公共主義を執るやうになつたのである。所で公共事業に各般の教育を施すと云ふやうなことになつて來たのである。それで漸く英吉利でも挽回することが出来さうに成つて來たと云ふやうなことになつて居るのである。今日では如何なる種類も秩序整然たる教育が要るやうなことになつて來たのである。各國共に皆之れを認めて、さうして其準備を熱心に爲して來ると云ふやうな事なのであります。其内で就中熱心に此事のみならず、それに

必要なる所の方便を取て工業教育商業教育等を秩序整然とやつて居るのは、今申した所の獨逸國と佛蘭西國であるのである。それで商業に於ても工業に於ても、競争は是等の二國の間及び昔からの株があるに依て英吉利と云ふ此三國並に今日では亞米利加の如きも大に教育を擴張して、又競争場裡に顯はれて來て競争を爲して居るのであるが、是等の國は皆非常に教育を重じて、さうして教育の結果で以て良民を作る政費を出して競争を爲して居るのである。

而して此教育事業を熱心に爲すと云ふことは——歐米諸國に於て教育事業を熱心に爲すと云ふことは、獨り學校教育のみではないのである。教育の方便たるものは如何なる事と雖も、熱心に之を設備するのである。それで學校以外の教育の方便の最も洪大なる最も必要なものと、今日歐米諸國に認められて居るのは何であるかと云ふに圖書館である、日本の如き我帝國の内には圖書館らしいものは殆ど有るか無いかと云つて宜いことであらうと思はれる。東京の文部省の直轄で帝國圖書館と云ふものがあるが、實に微々たる圖書館であつて亞米利加あたり英吉利あたりでは小さな町でも斯の如きものは備へてあると云ふに過ぎぬのである。而して其微々たる圖書館が東京にたつた一つあるのみで他にはないが、これより

して東京以外の市に於てはどうか云ふに、大阪であるとか、京都であるとか、名古屋であるとか、金澤であるとか云ふ處にはあるも、孰れの處にしても、圖書館事業は殆んど間の有様である、例へば此新潟の市にはどうか、少しく何か仕事を調べたい、日本の事でも西洋の事でも何か仕事を調べて見たいと思つても如何にして之を調べる道があるか、吾輩他に於て方便がないことであらうと思ふ、僅か反譯にてもなつて居る所の普通世人の持つことの出来るやうな書物であるとか、或は普通一般に行はれて居る所の雑誌であるとか、新聞であるとか云ふやうなものに就て見るより他に、歐米の事情などは何も見ることが出来ぬ有様である、吾輩は思ふのである、又其必要を感じぬ人民であるに依て、圖書館などは出来ぬと云へば言ふ迄もない、併し必要を感じぬと感ぜぬとは之を設備した上に起つて來るのである、瀛車の如きも之を設けて人が之を利用することが出来れば、瀛車と云ふものゝ必要を感じて、益々瀛車に熱心になつて、益々瀛車を多く拵へやうと云ふことになるが、之を若し放任して置いた日には、何日まで其利を見ぬと云ふやうな事情があつたと同様に、圖書館に於ても亦同じやうなことである、少しも早く之を設備することが必要であると思ふのであります、若し當地などに、中學に熱心な

る如く、將た高等學校の設備に熱心なるが如くに、圖書館の設備にも熱心であつたならば、此新潟縣人の幸福であるのみならず、我日本帝國の幸福であらうと思ふのである。

又圖書館事業であるとか、其他の教育事業に金満家が巨萬の寄附金を爲すことが、歐米諸國には頻りに行はれるのである、殊に其事の盛んなのは、亞米利加國である、併しながら此事に就いては、更に後に至りて精しく御話することに致して置きます。

日本人民の教育に關する熱度の如きも、最前申した如くに近頃は非常に低かつたのである、現に各地方に於て其責任に當て居る者が擴張を計つても、之を却て否決すると云ふやうな事が續々あつたのであるが、近年に至ては大に面目を改めて、我人民の如きも少しく教育に熱心になつて來たやうに見えるのである、それは何に據るか云ふに、獨逸國と佛蘭西國との戦争に依て其結果として教育事業が起つたやうな案排しきに、吾は日清戦争に於て支那帝國——吾より非常に廣大なる所の國と戰て連戦連勝殆ど古今未曾有の勝利を爲したと云ふ、其結果として割合に教育熱が非常に強くなつて來たのであると思はれる、吾れが此小國にして而て彼

れの如き大國を相手にして非常なる勝利を得たのは何に因るか、何の徳に因るか
と云ふと、是れ偏に教育に因るものにあると云ふことを我人民が悟つたのである、
於是教育の尊い事、吾々人民が三四十年來から施した、殊に明治になつてから普通
教育、高等教育、専門教育、大學の教育を熱心に計つたにも拘らず、支那帝國は二千年
三千年前の教育の儘で満足して居つたと云ふ其結果の爲めに、吾は彼の軍艦を亡
すことも出来て、彼の最も強堅なる砲臺も取ることが出来、彼の如何なる陸軍も之
を亡すことが出来ると云ふに至つたと云ふことは全く教育の徳に因ると云ふこ
とは、諸人押なべて何人も之を覺つたのであらうと思はれる、夫故に日清戦争以來
は中學も續々起り、教育を受けるのも、非常に増して來たのである、それでどういふ
ことになつて來るかといふと、各地方に於て、教育の必要なる事を認めたるに依つ
て、中學校といふものが續々起り、生徒が非常に増して來たのであつて、其結果在來
の高等學校では已に足らぬといふ事になつたのである、在來の帝國大學のみでは
決して満足でない、十分でないといふことが起つて來たのである、茲に於て高等學
校の新設が必要であるといふことが起つて來たのである、是に於て帝國大學の新
設が必要であると云ふことになつたのである、所で何人も如何なる縣に於ても高

等學校の必要を認め、帝國大學の必要を認め、帝國大學の必要を認め、たに依つて、茲
に於て各地方の人民の間に競争といふ事が起つて來たのである、其事情と云ふ者は
吾輩よりも諸君等が自から御承知のことであらうと吾輩は思ふのである、即ち
昔はそれ程教育者が熱心に教育事業を主張しても、それ程賛成して呉れなかつた
所でも、何十萬何千圓といふ金を即座に寄附して、政府に請ふて高等學校を設立し
て貰ふといふ事になつたのではないか、例へば本縣に於ては高等學校設立の爲め
に、參拾萬圓といふ金を即座に議決せられたといふ事である、此教育上の熱心に對
しては、吾輩は本縣人の爲めに非常に賀すべき事であると思ふのである、吾輩非常
に賀さなければならぬのである、實に感服の至りである、此位教育に熱心になられ
たといふ事を考へて見ると、教育の將來といふものは非常に頼もしい事になつて
來たのである、然れども吾輩は又本縣人の爲めに、大に遺憾と思ふ事が無いでもな
い、過日高橋君と坂口君より、吾輩に本縣の、即ち新潟縣の教育會へ來て演説をして
呉れと御依頼があつたのである、私は最前申した通り、此依頼を以て非常の名譽のこ
とと存じたのである、即ち御受けをして、其結果今日此席に於て斯く諸君の前に於
て卑見を述べる機會を得たのであります、吾輩が斯く本縣人より厚い思召し

を以てお招きに預かつて参つた以上は、どうか長く此新潟縣人が御記憶下さるやうなことを聊かたりとも述べたいといふのが、私の願ひなのである。只だ一場の演説として御聞流し下さらぬやうな事を申し上げたいといふのが私の赤心であるのであります。それで其考へを有つて吾輩が諸君に聊か吾輩の遺憾と思ふところを述べ、併せて將來に於て諸君に希望する所を述べやうと思ふのであります。

- 第一 吾輩は新潟縣人に對して大に不満足と思ふことを述べなければならぬ。
 - 第二 には高等學校は新潟縣に是非とも起さなければならぬといふ諸君の決心を堅くせしめやうと思ふのである。新潟縣には高等學校といふものは是非とも起さなければならぬ、誰れが起すかといふことは言はぬ、政府で必らず之を起さしめなければならぬといふことは吾輩いはぬ、兎に角新潟縣に必らず高等學校といふものは起るべきものである。新潟縣に一つ高等學校を持て居らぬければならぬといふ決心を諸君に堅くせしめたいと思ふ、それから、
 - 第三 には新潟若くは附近に帝國大學も早晚起さなければならぬといふ決心を諸君に起さしめやうといふ意見を吾輩は有つて居るのである。(拍手)
- 吾輩が此縣へ態々諸君の御依頼に依て出で來たのは只だ有り振れた問題の、高等

學校を何處に起すか、彼れに起すかといふやうなことを演説して、此演壇を降りるといふことは——夫位のことなれば吾輩は本縣まで態々やつて來ぬのである。謹聽々々吾輩は更に雄大なる望みを諸君に屬するのである。近頃高等學校設立のことに就いて、長野縣と新潟縣の間に競争が起つて其結果互に運動をして、互に己れの縣の教育上優つて居ることが是迄あるといふ事を主張して、どちらに就學兒童が多いとか、或は普通教育の——義務教育の就學兒童がどちらが多からうか、こちらは中學兒童が多い、中學校生徒は我縣が多いなど云つて、互ひに優劣を争つて居るといふことは、吾輩認めて居るのである。それで例へばどういふことになつて居るかといふと、普通教育——義務教育に就いては、本縣と長野縣とを較べて見ると長野の方が非常に多いのである。例へば男子の就學兒童の數の上に於ては、長野縣が全國第一等である。長野縣の不就學は極めて少ないのである。逆も新潟縣は夫れと較べることは出來ぬのである。長野縣の男子の就學兒童の如きは非常に多い。女子の就學兒童は割合に少いといふ。茲に不幸な事實がある、而して本縣はどうであるか、男子の就學兒童は少ないのみならず、女子の就學者は中々悪いといふのが本縣の有様なのである。其點に於いて長野に押されて逆も辯解する事が出來ぬか

と思ふのである。去りながら中學の如きは、此縣が中々長野縣より優つて居る、中學兒童の數は多い、今日で二千何百人ある、早晚三千人にするとか何んとかいつて、こちらでは中學生の數に於ては、大に誇つて居るが、こちらが優つて居るか、孰れであるといふことは、吾輩知らぬといふことにして置きませう、其事に就いて詮議立をする必要は無いのである、吾輩は此事件の外に——此事の外に、吾輩一個の考へを持つて、教育に就いて調べて居ることがあるに依つて、これを諸君に御披露しやうと思ふのである。(謹聽々々)

それは何んであるか、諸君は小學校生徒が少ないといふことに對して、中學兒童が多いといふことを誇られる——宜しい——然れども大學の——大學に於ける生徒の數は如何といふことは、諸君は已に研究されたかどうであるか、大學に於ける長野縣人の數は如何であるか、大學に於ける新潟縣人の數は如何であるかといふことを已に研究されてあるか、將た大學に於ける山口縣人の數は如何であるか、佐賀縣人の數は如何であるかといふことを諸君は研究せられたであるか、吾輩は各府縣人の大學生徒中に多いか、少いかと云ふことは、其地方の將來の勢力——發達に非常に大切な關係を持つことと、吾輩は認むるのである、何せ吾輩は斯く云ふ

かといへば、最高等の教育を受けた専門家が次第々々に社會の上流に立つて、最も樞要の位地を占めて來るのである、政治家としても、代言人としても、將た社會の會社の役人としても、最高等の機關——大學を卒業した者が次第々々に其位地を占めて來るといふ事は、必然なる事である、今日は如何である、今日已に見る所の現象に於て如何なる事になつて居るか、政治家として何様、今日では未だ代議士などに學士は少ない、又今日政黨員などの中に其牛耳を執つて居るものにも、大學出身の者は割合に少いかも知れぬ、然れども政府諸官省に於ける大學出身者は如何であるか、大藏省は如何、外務省は如何、内務省は如何、逓信省は如何、農商務省は如何、大臣の如きは未だ大學の學士が其位地を占めた者が無いと云ふかも知れぬ、然れども次官に於て如何であるか、今日各省に於ける次官の多數といふものは即ち大學の卒業者で無いか、逓信次官は誰であるか、古市君では無いか、農商務次官は誰であるか、藤田四郎では無いか、彼れは法學士である、文部次官は誰れであるか、奥田義人である、彼れは法學士である、而して局長以下に就いて考へて見ても如何であるか、文部省の兩局長は誰れである、澤柳政太郎、長野縣人である、澤柳政太郎は文科大學の文學士である、上田萬年、これも文科の文學士である、參事官は誰れであるか、岡田

良平である。文部省の高等官といふ者は、皆な今日は大學の出身者では無いか、大藏省の如きも、阪谷を始め其他比々皆大學の學士である。各府縣の參事官は如何であるか、書記官は如何であるか、多數は大學の學士である。特命全權公使は如何、加藤高明は何んであるか、法學士で無いか、小村壽太郎は何んであるか、彼れ亦大學の出身である。林權助——朝鮮の公使は何んであるか、彼亦法學士である。其の他無任所外交官内田康哉以前は大學の學生である。代官人は如何、増島六一郎は何んであるか、大學の出身である。憲政黨の名士鳩山和夫は如何、彼れは法學士では無いか、大阪に於ける所の代官人中で以て、最高等の位地を占め居る者は誰であるか、砂川雄峻である。彼は亦法學士では無いか、近頃まで日本銀行に居つて最も重なる位地を占めて居る者は誰であつたか、鶴原始め其他下の者は皆法科大學の出身者である。正金銀行の頭取相馬永胤といつて亞米利加の學士である。其下に於て最高等の位地を占めて居る所の三崎龜之助、何であるか、是れ亦大學の學士でないか、醫者社會に於ては固より民間に居る者も政府に居る者も皆大學の出身者で無い者は無いのである。民間にあるもの、彼の北里君を始めとして其他誰彼を論ぜず、本縣などに大學の出身たる所の醫者を措いて、其他に醫者といふ者はあるでは無いか、軍艦を

製造するものは誰であるか、本邦に於て軍艦を製造するものは誰であるか、帝國大學の工學士である。大阪に於て非常に多くの煙筒を觀る、其工場に於て、之れを運轉する各種の工業事業を掌つて居るものは誰れであるか、工科大學の卒業生諸君である。治水の業は誰れが執るか、工學士である。佐渡で金を採て居るものは誰であるか、工學士である。鐵道を築くものは誰れであるか、工學士である。橋を拵ふものは誰れであるか、是亦工學士である。斯くの如く大學の學士たるものが社會に於て已に得たるところの位地といふものは非常なものであつて、將來益々帝國大學の卒業生といふものが、位地を占めて來なければならぬのである。何か最高等學校を卒業した、専門學科を修めて來たものでなければ、我邦の社會では間に合はぬといふやうな結構な世の中になつて來たのである。即ち帝國大學の學生中に幾千の人を有つて居るかといふことは、各府縣に就いて非常に大切なことで無いか如何であるか、況して吾輩はこれに關して聊か調査を爲して居るものである。

今日帝國大學の學生生徒の總數は幾らあるか、最近の一覽に依ると、今日の總數といふものは、二千四百七十六人である。大學の——各府縣の人が大學生徒となつて居る其全數を調べて見るといふと、實に二千四百七十六人なのである。其内で、縣に

依つて多くの生徒を有つて居る所と、少ない生徒を有つて居る所があるのである。一番多いのを有つて居る所が幾人有つて居るかといふと、三百五十人有つて居る、一番少ない所が幾人あるかといふと、十一人である、非常な違ひでは無いか、どちらになりたいか、どちらが宜しいか、十一人の生徒を有つて居る縣となるのが宜しいか、三百五十人を、大學の中で有つて居る縣となるのが宜しいか、それは諸君の御判断に任せやうと思ふのである、而して三百五十人などといふ數を有つて居るのといふのは、多くは無いのである、これは特別事情の爲めに如斯き生徒を有つて居るのであつて、概して言へばもつとつと少ない數を有つて居る、此三百五十人を有つて居るのは、この地方であるかといふに即ち東京である、東京が三百五十人の生徒を大學に有つて居る、而して東京に如斯き多くの生徒があるといふことは、之れは固より驚くに足らぬことである、何せといふと、東京には各地の居留者があつて、夫れが皆東京人となつて居るに依て、其の東京に籍を移した、各地方人などの子弟が這入つて居るに依て、東京の人別がこんなにも多いのである、これは特別の場合として、而して他の府縣に就いて考へて見やうと思ふのである、東京を除いて、其外で一番多く有つて居るのはどこであるかといふと、第一には福岡縣である、福岡縣は

幾ら有つて居るかといふと、百三十七人有つて居るのである、又今讀み上げる數といふものは、これは吾輩が匆卒に調べたのでありますから、一人や二人間違ひはあるかも知らぬ、併しながら數多の間違ひは無いので、大體の所は正確なるものとお考へ下すつて宜いのである、其次、第二が山口縣である、山口縣は百十九人有つて居るのである、第三が新潟縣である、(滿堂拍手)百人有つて居るのである、(拍手)諸君餘り早く手を叩き過ぎては往かぬ、(笑聲)餘り早く手を叩き過ぎると跡で以て悔ゆることがある、(大笑)愛知縣が八十七人、第四番である、長野縣が第五番で八十八人、長野縣より較べると新潟縣の方が多し、(ヒヤ)二十人多し、(笑聲)本縣は百人、長野縣は八十八人、第六が鹿兒島縣七十七人、第七が石川縣七十五人、第八が静岡縣、北海道同數で七十三人、第九が兵庫縣七十二人、第十が佐賀縣七十一人、第十一が熊本縣で六十八人、第十二が山形縣で六十六人、第十三が京都で六十五人、第十四が高知縣で六十四人、第十五が宮城、岡山同數で五十六人、第十六が長崎縣で五十五人、第十七が福島縣で五十二人、と斯ういふことになる、それから段々行きますと、仕舞ひにはたつた十一人といふのがあります、憐むべき少數な所があるのである、幸ひに長野や新潟は其中に這入つて居らぬのである、(笑聲)それで全國の平均は如何、全國の平

均数は幾らになるかといふと、各府縣の平均は五十二人強である——五十二人強といふものが、各府縣の平均数なのである、之に對して今のやうな各府縣に百三十七人もあるし百人もある、斯ういふやうなことになるつて居る、去れば新潟の如きは、第三番に居るところであつて、頗ぶる多くの生徒を出だして居る縣の如くに見ゆるのである、併しながら之れは更らに考へて見なければならぬ、新潟縣の人口は如何である、幾千のものがあるといふところに依つてからして見るといふと、中々百人といつて居られる譯なものでないのである(笑聲)今山口縣の人口に較べると、山口の人口は他の府縣に較べて、山口縣の百十九人といふ生徒の數に對して、各府縣では幾らのものを有つて居らぬければならぬといふことを、諸君に御聞かせ申さうと思ふ。

山口縣の人口——其山口縣の人口に對して、山口縣は百十九人有つて居るのである、然らば其割合でいへば、長野縣の人口に於ては、長野縣が幾千有つて居らなければならぬ、新潟縣の人口にしたなれば、新潟縣人は幾ら有つて居らぬければならぬといふことを、我輩こゝで以て審査しやうと思ふ、夫れで福岡の人口は幾らある、最近の統計年鑑則ち第十七統計年鑑に依つて見ると——それよりもつと新らこ

い統計年鑑があるならば諸君それに就いてお調べなさい、吾輩は第十七統計年鑑に依つて調べたのである、第十七統計年鑑に依ると、福岡縣の人口は百三十一萬四千三十九人である、山口縣は如何、山口縣は九十六萬七千六百二十人である、新潟縣は幾らであるか——新潟縣の人口は幾らである(大笑)百七十九萬七千七百八人である(笑聲)百七十九萬七千七百八人である、愛知縣は如何、百五十五萬七千七百七十一人である、長野縣は如何、百二十一萬二千二百八人である、鹿兒島縣は如何、百七萬六千五百一人である、石川縣は如何、七十八萬二千五百五十二人である、静岡縣は如何、百十七萬三千九百五十三人である、北海道は如何、五十萬八千八百七十人である、兵庫縣は如何、百六十一萬八千八百九十五人である、佐賀縣は如何、六十萬二千二百三十八人である、熊本縣は如何、百一十一萬二千二百九十七人である、山形縣は如何、八十萬八千八百九十八人である、京都府は如何、九十一萬三千三百五十七人である、高知縣は如何、六十萬三百八十四人である、宮城縣は如何、八十一萬七千二百二十三人である、岡山縣は如何、百一十一萬九千二百九人である、長崎縣は如何、七十九萬六千五百十六人である、福島縣は如何、百二萬八千五百三十六人である、人口といふ者は、斯う云ふ割合になつて居るのである、それで此人口に照らして各府縣では、山口縣との割にす

れば幾ら有つて居らむければならぬといふことの恐るべき事實を諸君に示さうと思ふ、山口縣では則ち九十六萬七千六百二十人に對して百十九人を有つて居るのである、其割にすれば福岡縣は幾ら有たなければならぬといふと、福岡縣では實際百三十七人有つて居るのである、今の割合にすると百六十二人強といふものゝ有つて居らぬければならぬのである、然らば福岡縣が山口縣に及ばざる事が二十五人なのである、二十五人だけ福岡縣の方が山口縣より少ないことになつて居るのである、新潟縣は如何、新潟縣は實際百人有つて居るのである、然れども山口縣の割にすると幾ら有つて居らなければならぬか、實に二百二十一人有つて居らなければならぬのである、(拍手)去れば幾らの不足であるか、實に百二十一名の不足なのである、(遺憾々々)「残念」愛知縣は如何、愛知縣は實際八十七人を有つて居るのである、然れども山口縣に比すると百九十一人有つて居らなければならぬのである、夫故に愛知縣の不足は百四人である、長野縣は如何、長野縣は八十人有つて居る、然れども山口縣の割にすると百四十九人有つて居らなければならぬ、故に長野縣の不足は六十九人である、新潟縣の不足は百二十一人である、(大笑)長野縣の不足は六十九人である、鹿兒島縣は如何、鹿兒島縣は七十七人有つて居る、然れども之を山口縣

の割にすれば百二十二人有つて居らなければならぬ、故に山口縣に對して鹿兒島縣の不足は四十五人である、石川縣は如何、實際七十五人有つて居る、然れども之を山口縣の割にすれば九十六人有つて居らなければならぬ、故に山口縣より劣る事二十一人である、之れは中々良い割合である、静岡縣は如何、静岡縣は七十三人有つて居るが、山口縣の割にすれば百四十四人有つて居らむければならぬのである、故に七十一人不足である、北海道は如何、北海道は六十二人有つべき所へ七十三人有つて居るに依て十一人だけ山口縣より優つて居るのである、兵庫縣は如何、兵庫縣は七十二人有つて居る、然れども百九十八人有つべき割であるに依つて兵庫縣の不足は百二十六人である、佐賀縣は如何、七十一人有つて居る、然れども七十三人有つべきなのである、故に二人の不足である、熊本縣は如何、六十八人有つて居る、然れども百三十六人有つべき所であるに依て六十八人の不足である、山形縣は如何、九十七人有つべき所へ六十六人有つて居るに依つて三十一人不足である、京都は如何、百十二人有つべき所へ六十五人有つて居る、四十七人の不足である、高知縣は如何、七十三人有つべき所へ六十四人有つて居るに依つて九人の不足である、宮城縣は如何、百人有つべき所へ五十六人有つて居るに依つて四十四人の不足である、岡山

縣は如何、百三十六人有つべき所へ五十六人であるに依つて八十名の不足である、長崎縣は如何、九十七人有つべき所へ五十五人であるに依て四十二人の不足である、福島縣は百二十六人有つべき所へ五十二人であるに依て、不足が七十四人である、斯う云ふことになつて居つて、山口縣より割の良いのは北海道ばかりである、北海道の割の良いといふことは、又た特別の事情であると思ふのである、依つて北海道は除外として、先づ東京と北海道は別物にして見ると、山口縣が最優等の位地に居つた其他のものは非常に劣つて、此新潟縣の如き非常に山口縣に及ばぬといふ一の縣なのである、諸君此事實は何んと聽かれる、吾輩は本縣の爲めに實に嘆息に堪へぬのである、何故に本縣では如斯く劣等なる位地に居るか、新潟縣は、人口の點に於ては何れの縣よりも多いのである、新潟縣位人口の多い縣と云ふものは外には無いのである、而して又富の點に於ても新潟縣に及ぶものは別には無からうと吾輩思ふのである、諸君は如何に夫れを認められる、我縣は夫程富んだ縣で無いといはれるか、どうであるか、吾輩は新潟縣といふものは、人口も多し、又富も他の何れの縣にも劣つて居らむものであるといふことは、吾輩は認めるのである。

夫れで吾輩の考へに依ると、新潟縣は人口の點に於ても富の點に於ても、山口縣に劣つて居るものとは認めぬのである、人口の點に於ては中々統計が出て居つて決して争ふことの出来ぬのである、又福岡縣も劣つて居る、石川縣も劣つて居るが、長野縣も劣つて居る、鹿兒島縣も劣つて居る、佐賀縣も劣つて居る、山口縣も劣つて居る、高知縣も劣つて居る、吾輩は人口に於ても富に於ても、土地の面積に於ても、此新潟縣といふものは決して他の縣に劣つて居るものでないといふことを斷言するのである、面積の如きは本縣と長野縣が最も大なるものの中である、然れども本縣の如きは長野縣の如くに山又山を以て満たされた國にあらずして、殆ど沃野千里といふ地方では無いが、財源は如斯く雄大なるものを有つて居る、人口も第一等である、而て大學の生徒の數は如何であるか、如何に他縣に劣つて居るかと云ふことは諸君の明に認めなければならぬのである、各府縣の大學生徒の數に、如斯く異同のあると云ふことに就ては大に其原因あり理由があるに違ひないと思ふのである、試に理由の一二を吾輩が掲げて見やうと思ふのである。

第一には概して維新前に大藩強國のあつたときは——強い大藩のあつた地方には、大學の生徒の割合杯が宜しいので、強い大藩の無かつたやうな地方に於ては、大

學の生徒の数が少ないのである。

第二には有力なる元老、先輩、有志者等があつて後進者の教育の爲めに熱心して居るかどうであるかといふことである。若し其地方に於て有力なる元老があり、有力なる先輩があり、有力なる有志者があつて、後進子弟の教育に熱心に従事して居る所であれば、其地方にては大學に多くの生徒を出して居るといふことである。第三には、育英會若しくは獎學資金等の設備があつて、人爲的に後進子弟に教育を授けて人材養成の途を努めて行なつて居る地方からは、大學の學生を多く有つて居るといふのである。

能く諸君は此三事實を認めなければならぬ。能く考へて御覽なさると分かる。それで吾輩は今最も良い例に就いて、これを證明しやうと思ふのである。それは何處であるといふに山口縣である。山口縣が最も良い例なのである。山口縣の人口は如何人口の上に於ては、殆んど新潟縣の半分である。新潟縣は殆んど山口縣より倍の人口を有つて居る所である。然るに山口縣は今申した通り大學の生徒の數に於ては第一等のものである。新潟縣などは足許へも寄せ附けぬ、百二十一名から及ばぬといふ位地になつて居るのが山口縣である。所で山口縣は、どういふ先輩があるか、ど

ういふ元老があるか、諸君考へて御覽じろ。山口縣の元老は誰々であるか、伊藤侯爵である。井上伯である。山縣侯爵である。杉君である。山尾君である。有地君である。其他枚舉に遑あらぬのである。本縣の知事公閣下の如きも亦山口縣に於て有力なる人の一人であろう。吾輩は思ふのである。是等の元勳、是等の元老、是等の先輩が山口縣に於ける少年子弟の教育の爲に、如何に盡力して居るかといふことは、諸君御承知であるか、非常に熱心を以て彼等は盡力して居るのである。山口縣は已に巨額の資金を設けて、今より十年程前に已に一手で高等學校を山口縣人の爲めに設立したては無いが、高等學校を山口縣人の爲めに一手に設立して其高等學校で多數の人材を養成して居るでは無いが、其の結果として大學にも多數の生徒を有つて居るでは無いが、諸君山口縣に於ける教育資金は幾らであるか、實際六拾五萬圓である。諸君斯ういふ夢を見たことがあるか、どうか、然るにこれのみならず——一遍教育の爲めに六拾五萬圓の資金を教育に充てたのみでない、山口縣は縣民有志の爲めに更に、就學獎勵會といふものを起して、こゝにも資金といふものが、又八萬餘圓あるといふことである。諸君此夢も見たことがあるか、如何、山口縣では實に斯ういふ仕掛けにやつて遂げたのである。而して山口縣出身の有志諸君、先輩の熱心とい

ふものは、非常に熱心になつて居つて、山口縣人の爲めに非常な忠義を盡してあるといはなければならぬのである。然るにこれに對して、長野縣人の位地は如何であるか、新潟縣人の位地は如何であるか、新瀉縣人の位地は如何であるか、洵に憐れむべき事實である。云はなければならぬ、各府縣に於ける後進有志に於て、如斯き異同があるに於いては、且つ高等教育を受ける後進子弟の斯くの如き異同があるに於いては、諸君、政黨者流が器々として批難する所の藩閥といふものは、決して絶えるもので無い、藩閥に依つて支配するものは、それには原因があるのである。其根を絶やさんとすれば、先づそれに對するだけの元素を作らねばならぬのである。然るに徒らに彼れが人の上に立つて、妬んで、彼れが高等なる位地を占めて居るのを嫉んで、之れを攻撃し之を非難して、其高等なる位地より引摺り降ろさんとするのは、果して國家の爲めを圖るものであるか否やといふことを、諸君に問はなければならぬ。吾輩は思ふのである。藩閥は獨り政府の中心にのみ重んぜらるゝのみならず、陸軍にも海軍にも、大に重んぜられて居るのである。今日海軍にも陸軍にも、藩閥が多い、而かも高等の位地を有して居るのである。其他商業上にも工業上にも、藩閥の重んぜらるゝのは、已むを得ないことである。然れば教育に必要な方便を設けて、多くの先輩を出してやるとい

ふのは、其地方の爲めに誠に名譽なのである。然るに如斯き點に注意せず、自暴自棄——已むを得ない結果として自から甘んじて居るといふことであれば、吾々は寧ろ憐れむのである。憐れむのみならず、卑しむのである。若し飽くまで藩閥主義を排斥したいといふのであつたならば、何故に此點に心を傾けなかつたのであるか、山口縣の爲めには、高等學校は必要であるが、他縣の爲めには、高等學校は不必要であるといふことは無い、山口縣では已に資金を投じて高等學校を設立したのである。山口縣人が斯の如き多くの高等學生を出すと共に、高等の位置を占むるものが多くあるといふのは、勿論のことである。高等學校といふものは、山口縣には必要であるが、新潟縣と長野縣では、どちらにか一つあれば宜しいといふやうなことを言つて居つては到底出來ないのである。諸君は大に憐れなければならぬのである。山口縣の爲めには、七十萬圓の教育資金は必要であるが、新潟縣の爲めには、不必要であるといふやうな觀念を廢めなければならぬ。當縣の如きは、山口縣に對しては、甚だ残念ではあるが大に愧ぢられなければならぬ。ことゝ思ふ、何となれば、當縣は山口縣に較べて、人口も多い、富の度に於ても不足でないのである。然るに山口縣は明治三十二年に至つて始めて若干の金を議決して、高等學校を起さうなごゝ騒いで居

るやうなことはして居らないのである。明治十七年に已に高等學校を起して幾多の人材を養成したのである。實に卓見では無いか。山口縣で出来るものが何せ新潟縣で出来ぬか。人口が不足な故であるか。富の度が低い故であるか。吾輩は決してさうであるとは思はぬ。然らば新潟縣の人民の性質が山口縣の人民の性質より劣つて居るといふことを諸君は白狀する氣であるか(ノー)ノーであらう。諸君はノーといはれる。吾輩も諸君にノーと大聲せしむる積りなのである。然らば金故でなく人口故で無く、團結が足らぬ、意識が足らぬ、有力なる先輩主動者が足らぬといふのが實際であるか如何。吾輩は有力なる先輩主動者が彼れの如くに此地方にも澤山あつたならば、決して劣ることが無からうと思ふのである。新潟縣で高等學校を起さうといふことは、今日始まつたことではなく、篠崎知事のときに、已に五十萬圓の金を抛つて、高等學校を起さうといふ計畫をしたといふ事を仄に聞いたのである。只だ計畫したばかりでは行かぬ。能く實行しなければならぬのである。之を能く實行したといふのが山口縣人である。若し新潟縣でも、彼れ山口縣の如く、能く實行することが出来たならば、明治三十二年に至つて三十萬九千圓の寄附金を議決して、運動して居るやうな必要は無かつたのであらうと吾輩は思ふのである。先きに五十萬

圓といふ金を惜んだのであるから、今日に至つて、僅かに高等學校を長野縣人と争ふやうな事になつて居るのである。氣の毒の至りでは無いか。高等學校は山口縣には必要であつたけれども、本縣には其必要は無かつたといふのであるか。併しこれは最早過ぎ去つたことであるから、注意する必要は無からう。死んだ兒の齡を算へて、諸君に不快を感せしめるのは吾輩好まぬ。只だ爰に諸君に向つて問はなければならぬことがある。

即ち新潟縣は、人口の上から見ても、富の上から考へても、山口縣は高等學校は必要であるが、新潟縣には必要は無いといふか。どうかといふ事を、一ツ諸君に問ひたいと思ふ。高等學校を特有するといふことは、山口縣のみで無いのである。九州には已に熊本に高等學校が建つてあるにも係はらず、鹿兒島に又高等學校を建てなければならぬ。建てる必要があると言つて、昨今奔走をして居るのである。是は一時事情があつた爲めに廢めたけれども、兎に角鹿兒島へも特に高等學校を設立して呉れ。といつて運動したことがあるのである。如斯く鹿兒島にも必要があるか。山口縣にも必要があるか。といふ高等學校を、新潟縣には、どうして感せぬのであるか。所で諸君に問はなければならぬことがある。山口縣で必要な高等學校であれば、新潟縣でも長

野縣でも必要なのである、然るに彼等長州人の爲めには、高等學校が必要であつて吾々の爲めには必要が無いといふのであるか、就學兒童の數の上から考へても、まだ中々多く要らうと思ふのである、或は長野縣とか新潟縣とか、どちらにか一ツ出來ればそれで宜しいといつて居る人もあらうけれども、吾輩は未だ足らぬと思ふ、如何といふに、我邦位の人口を有つて居る外國と較べて見るに、未だ中々足らぬのである、外國には高等學校を幾つ有つて居るか、外國といつても支那や朝鮮のことでない、歐米諸國のことである、歐米諸國に於て、中學校の數が幾らあるかと云ふことを、諸君に参考の爲め御聽かせ申さうと思ふ。

埃太利と匈牙利に於ては、日本の高等學校と中學校を合併した様な學校がある、ギムナシアといふ、これが高等學校と中學校と合併したやうな、中學校の些と學科の高い學校である、それがどの位あるか——是が終はれば大學に這入ることが出来るのである、これが幾つあるかといへば、これが三百三十一ある、匈牙利だけで百五十一ある、埃太利が百八十ある、それから又學科が少し變はつて「リアルシュレン」といふのがある、此學校が埃太利に七十七ある、匈牙利に三十三ある、それを併せると四百四十一あるのである、埃太利や匈牙利はそんなに威張つた國でない、然るに今

日でも已に四百四十一あるのである、我邦に較べると、我邦には、只今では幾らあるか、全國で百五十五位しか無い、之れに割合をすると、我邦では中學校の數がまだ殖えなければならぬといふことになつて來るのである、これは吾輩が斷言して置くのである、それから佛蘭西——佛蘭西では中學校の數が中々多いのである、それから、獨逸ではどうであるか、獨逸では矢張り重きに「ギムナシア」夫れから「リアルシュレン」で、其外に折衷したものもあるが「ギムナシア」といふものが、四百三十六あるのである、「リアルシュレン」といふものが百八十三あるのである、其外合の子のやうなものも數多ある、故に獨逸では非常に多いのである、斯う云ふ風であるから、我邦には是非とも増さなければならぬといふやうな事情になつて來るのである、中々高等學校の一つや二つ出來ても満足するのではないのである、それで最前申した通りに、獨り高等學校のみでなくて、大學を設くるといふ問題も起つて來なければならぬのである、これは長野縣よりも、大に講究をして置けば宜しいのである、大學は必ず要るのである、北陸道に大學の要るといふことは、將來は必ず起つて來るのである、併し此縣に來るか來ないかといふことは、夫れこそ重大の問題になつて居るのである、東北地方には大學は必要だが、北陸地方には大學の必要は無いといふ

事はないのである。諸君歐米各國には大學の數は幾つあるか、英吉利には大學は幾つあるか、英吉利は日本と人口は殆ど同じになつて居る、其英吉利には大學が幾つあるか、大不列顛にある大學が、オックスフォードの大學、キアンブリッジの大學、ウキントリアの大學、ウエルスの大學、これは英蘭に屬する所の大學の數である、それからエヂンブルウの大學、グラスゴの大學、これは愛蘭に屬する所の大學である、それから愛蘭に屬する所の大學が、ダブリン大學とアベルデーンの大學其他都合八つある、其他分科大學といふやうなものが尙ほ數多あるのである、それで此數多の大學が、英吉利が盛んになつてから——富が増してから、出來たのであるかといふに、そうでない、今讀み上げた大學の中で、オックスフォードの大學、キアンブリッジの大學といふのは、英吉利の盛んにならない時から已に出來て居つたのである、中には後世に至つて出來たものもあるけれども、重なるものは、已に最前から出來て居つたのである、夫れから奧太利、匈牙利には幾つあるかといふに、これも中々多い、ウイアナの大學、是はゼルマンの大學、夫からグラーツの大學、ブラーグの大學、其外まだ五つほど大學がある、都合八つほどの大學を、奧太利は矢張り有つて居るのである、それから匈牙利ではブダペストの大學、クラウセンベルグの大學、アグラムの

大學、此三つを持つて居る、それから佛蘭西でも矢張り大學の數が中々多くあるのである、けれども佛蘭西の方は數が錯雜して居るから省きまして、次は獨逸——獨逸は非常に多く有つて居る、尤も聯邦でありますから、自から人口も多い、人口も多いが、何んしろ大學の數は非常に多い、第一にはベルリンの大學、第二にはエルランゲンの大學、第三にはフライブルグの大學、第四にはライプチヒの大學、第五にはハルレンの大學、第六にはハイデルベルヒの大學、第七にはゲッチンゲンの大學、第八にはキールの大學、第九にはケーニグスベルグの大學、第十にはミューニツヒの大學、第十一にはストラスブルグの大學、第十二にはボンの大學、第十三にはグライスワルドの大學、第十四にはエナの大學、第十五にはミュンステルの大學、第十六にはチュービンゲンの大學、第十七にはブレスラウの大學、第十八にはギーゼンの大學、第十九にはマルブルグの大學、第二十にはロストツクの大學、第二十一にはウルツブルグの大學、これだけを持つて居る、日本ではどうであるか、東京にはどうであるか、東京には帝國大學が一つしか無い、それから大學の芽生へといふやうなもの、が京都に一つあるのである、一旦緩急あれば、文具を持つて戦はなければならぬといふのは、諸君も承知をして居るのである、然るに我邦に於て帝國大學が一つも

か無いといふのは、甚だ遺憾に思ふ所であつて、これに依ても、東北、北陸に大學を起すの必要あるといふことは、我輩は斷言するのである、それから亞米利加ではどうであるか、亞米利加にも十九ほどある、今其數を喋々述べるも煩はしいから、これは省いて置くことにしませう。

それで此縣の如きは、高等學校の爲めに參拾萬九千圓といふものは、寄附しやうといふ大英斷を示されたのであるといふことである、そうすると大學の爲めには百萬圓や貳百萬圓は、差支へはなからうと思ふのである、近頃吾輩の承つたところに依ると、大學を設置する爲めに、福岡縣は百萬圓位出さうといつて居るといふことである、福岡縣で百萬圓を出さうといつたことを聞いて、吾々も出さうといふことを熊本縣のものが言つて居るそうです、熊本縣ですら大學の爲めには百萬圓の金を出さうといつて居る、そうすると新潟縣は、貳百萬圓や參百萬圓の金は出すことが出来やうと吾輩は思ふのである、何せといふに、日本全國の中で、豪商豪農に富んで居る縣は何處であるかといふに、本縣であるといふことは、何人も認めて居るのである、本縣は豪商豪農に富んで居る所であるから、若し大學を設置するといふことになつたならば、大學の爲めには、多額の金額を議決せらるゝのみならず、有志諸

君、豪商豪農諸君も奮つて大金を投ずるであらうといふことは吾輩決して疑はぬのである、歐米諸國に於て、教育の爲めに如何に莫大の金員を寄附して居るかといふことは、大に參考にならうと思ふ。

諸君、亞米利加に於ける十九、二十の大學といふものは、大抵皆な富者の贖金に成り立つて居るのである、有名なる學校の中で、十年、或は八九年の間に、新たに寄附金の爲めに設立せられたものは、中々數多あるのである、例へば彼の「ジョンホプキンス」の大學といふのは、新規に建てられた大學である、これは「ジョンホプキンス」人が、何百萬圓といふ、非常な巨額の金員を寄附したのである、それから「シカゴ」大學にもそうである、「カリフォルニア」にも大學がある、これも「スタンフォルト」といふ「カリフォルニア」の教員であつたのが、非常なる富をした此人が贖金をして建てたのである、然るに其未亡人が更に盡力をして居るのであつて、此大學の爲めに自分の資産を盡したのみならず、自分が生命を保險會社に保險の契約をして置いて、自分の死んだ後に其金をも寄附しやうと言つて居るのである、斯ういふものと吾輩は競争をして居るのではないか、何んの競争、彼の競争、商業の競争も工業の競争も、斯ういふ風に熱心なる所の國であるといふことを聞いたならば、諸君も寄附しな

ければならぬといふことにならうと思ふ。將來は必らずさういふやうな事があらうと思ふのであるから、吾輩は序に述べたのである。

諸君之れに就いて、本縣の爲めに、最も喜ぶべきことがある、日本で以て莫大の金を教育資金の爲めに投じたこと云ふのは、大藩等に往々爲す所である、加州侯であるとか、細川侯であるとか、斯う云ふ人が大金を教育事業に投ずる者があるが、一商人であつて教育事業に大金を投じたといふのは、吾輩の知人なる所の大倉喜八郎君其人である、大倉喜八郎君は、ごこの人かといふに、諸君も御承知の如く、新潟縣の人である(ヒヤ、)、拍手)大倉喜八郎君の美舉は、天下萬衆の認めて拍手歡迎して居るのである、次に教育事業に金員を投じたのは、誰であるか、當縣高田近在の増村某では無いか、諸君、如しく新潟縣人が他縣に先きだつて續々教育事業に資金を投じて來るのである、此新潟縣に於て、五十萬圓の地價のあるもの、四十萬圓の地價のあるもの、三十萬圓の地價のあるもの、二十萬圓の地價のあるもの、斯くの如き富を爲して居るものが、教育事業の爲めに多額の經費を惜まぬといふことは、社會一般の賞賛する所の美舉であるから、増村君に倣つて、將來醜金をなすといふことは、吾輩が鏡に掛けて觀て居るのである。

諸君、吾輩は斷言する、藩閥といふものは、決して長く爲し置くべきものでない、能く後進子弟を養成して藩閥に代はる所の元素を作らねばならぬことである、吾輩は斷言するのである、諸君、吾輩は斷言する、地方教育の發達の爲めには、政治上の意見が如何に異なつても、互ひに一致して、力を盡すといふことは、即ち國家の爲めに必要のことであるといふことを吾輩は斷言するのである、(拍手)海外諸國と能く競争する上に就ては、政治上の意見を異にするが爲めに、教育の發達を阻碍するが如きは、決して國家の爲めにならないのであるといふことは、吾輩は斷言するのである、(拍手)諸君、臥薪嘗膽は、決して一時の大言壯語で無いといふことを吾輩は斷言する、臥薪嘗膽は、遼東還附の際に之れを一時の大言壯語として置いたのみでは往かぬのである、諸君、勤儉は國家の急務である、本縣には已に勤儉會なるものが起つて、大に勤儉主義の擴張を圖りつゝあるといふことを聞き及んだ、賀すべきことである、將來と雖も大に勤儉を唱へて、本縣人を残らず此會に屬せしめて、財を積むことに盡力せぬければならぬ、財を積む爲めに財を積みといふので無い、教育の爲めに財を積みと吾輩は勸告するのである、(拍手)

諸君、此炎暑に際し、此長き演説に對して、清聴を賜はりたる段は幾重にも謝する所

明治の教育者に要する注意

(明治三十二年七月上野教育會)

私は先月の初めには岡山縣の教育會に出席致しまして岡山縣の教育會員並に其地方の有志者等に對して聊か意見を述べました、それから先月の末には京都府に於ける教育會に於て京都府教育會員並に京都の有志者に對して聊か卑見を述べて參つたのであります、が本日は群馬縣の教育會に於て意見を述べ、る光榮を得ましたのは誠に此上もない喜びの次第であります、それ故に今日は諸君を即ち群馬縣の教育者として諸君に對して聊か意見を述べやうと思ひます、且又諸君の中には群馬縣の有志者と云ふ御方も幾分か御出であらうと思ひます、それ故に私の申すことの中には或は有志家諸君に對して幾分か申す所もあるかも知れませぬ、又幸に知事閣下が御臨場であります、古莊君は私は數年來の知己であります、故に是迄聊か私の意見を御聞きに入れたこともありましたかも知れませぬ、が群馬縣の知事としての古莊君に此の如き席に於て御目に懸り其古莊君の前に於て群馬縣の教育會に於て意見を陳るのは今日初めてであります、夫故に私の是から申す

ことには或は古莊知事に對して述べることも幾分かあるかも知れませぬ、夫故に諸君に於て然るべく御聞取りを願ひます、或は教員諸君に對して望むこともあり或は有志諸君に對して望むこともあり或は知事閣下に對して望むこともあります由て其邊を然るべく御聞き取りを願ひます、諸君の中で教員の職に居らるゝ御方並に今將に教育者にならんとせられて居る御方の中の多數は明治時代に於ける時の社會の有様を多く御承知であつて其の以前の我が日本帝國の有様と云ふものは夫程御存じでない御方もあらうと思ひます、尤も教員諸君の中には御年輩の御方もあることでもありますから夫等の諸君に於きましては維新以前と維新後の變り様はどの位のものであるか實に非常なものと思ふことは御認めのことと思ひます、今師範學校の生徒にでもなつて居らるゝ方でありますと維新前の社會の有様は夫程御承知でない御方が多いであらうと思ひます、それで私杯は年輩から申しましても亦經驗から申しましても維新前のことも幾分か存じて居ります、維新後の事も亦幾分か知つて居ると云ふ部類に通入るものなのであります、夫故に其異同に就て考へて見ますと實に非常な差があると云ふことを認むるのであります、固より御年輩の御方には申上る程のこともないのであります、が維新

前の事に御經驗のないお方に對しては其の如何に重大なる異同あるかと云ふことを御話し申しますことも幾分か益があらうと思ひます、併し今日は時間も僅のことでありますから其點に就て細かのことを申すことは決して許さぬ次第であります、極く大體を申します。

明治維新に因て起つた所の諸般のことに於ける大變革と云ふものは我國の歴史——我國開闢以來今日まで一度もあつたことのないやうな大變革が起つた次第と思ふのであります、昔我が國の歴史に於いて大改革の起つた時は或は推古天皇の御宇に於ける大改革、或は大化年中の大改革と云ふやうなことが非常な大改革であつたのであります、併しながら明治維新に依て社會萬般のことに起つた所の變化は其時代の變化より更に重大なるものであると云ふことは疑ふべからざることであると思ひます、假令ば政治上のことにしましても今日と維新前とは非常な違ひなのであります、各藩と云ふものがあつて、諸侯と云ふものがあつて、城を夫々構へるとか其城の近傍に領地があつて我が帝國の内に小さな獨立國の様なものがあり、國主と云ふ者があつて夫れに對して一種の臣民と云ふやうなものがあつて、夫々小國家をなして居つたと云ふやうな時代であります、夫れが今日はどう

云ふ小國家は皆な跡を絶つて而して日本帝國と云ふ只だ一つの國家が出来たのである、夫れで只だ一つの君主あるのみで他に君主と云ふものはないと云ふことになつたのが先づ是が非常な相違である、夫れからして又地方の政治の執り方も市町村制と云ふ者が行はれたり或は府縣會帝國議會と云ふやうな者が出来て代議政體の主義が行はれて國家の大體の事を行ふと云ふやうなことは是は明治の政治上の實に非常なる改革である、夫れからしまして衛生であるとか或は商業であるとか工藝であるとか云ふやうなことに於きましても前代未聞の變化が起つた、商業杯の變化は非常なことである、今日は段々と會社組織が行はるゝ資本家が
大勢寄つて會社を組んで大事業をなすと云ふやうになつて來ました、維新前は資本家が夫々獨立で事をやつて居つたと云ふのが今日は段々と會社組織を以て數多の者が資金を出して或は株主になると云ふやうなことで團體で商業を營むと云ふことになつたのであります、之も明治の御代に至つて初めて行はるゝやうになつたのであります、幾分か昔もそう云ふやうなことがありましたが今日のやうな大仕掛で會社組織で商業を營むと云ふことはありませぬ、夫れから工業にしても昔の工業は極く小さな仕掛でやつて居つた、夫れを今日は非常な大きな仕

掛でやるやうになつたので全く仕事の仕方が違ふ非常な大きな器械を以て工業をやるのであります、夫れで工業に就て居る職工と云ふものは昔は自分の從事する所の事は初めから終迄總ての事を一人ですると云ふやうな事であつたのが今日は僅かの極く狭い範圍の一部分に夫々從事してやると云ふやうな非常な分業が行はれて職工は人間でありながら實に一種の器械の如き作用をなして居る、此邊には製絲所の如き大工場がありますから、夫れに就て御覽になれば分りますが今日の職工は各々實に僅かの部分だけを日々やつて居るのであります、殆ど器械の如きものとなつて居るので随分非常な苦みをなす事と思ひます、昔の職工の如きは非常な氣樂なものであつたが今日は非常な苦みである、之も前代未聞の改革であつて明治の今日に於て初めて行はれた事である、夫れから交通の便であるとか運搬の便とか云ふことに至りますと、是等は元より非常な相違でありまして、之れも其事柄を更に御話しせぬでも運搬交通の進歩も今日の如きものは昔から決してあつたものでない、と云ふことは、ごなにも御承知であります。
物質上の事に於て此の如き非常な變化があつたのみならず思想の上に於ても考の上にも亦非常なる變化が起つて來たのである、色々なことに就ての考が變

つて来て居るのである、假令ば人権問題……人々の権利問題と云ふものが維新前と今日とは非常に違つて居る、維新前はさう云ふことであつたか云ふと一寸一例を擧げて申しますと云ふと或る高貴の人に往來で接すると土下座をしなければならなかつたと云ふやうなことがあつた、夫れも皇室の高貴の御方なればさう云ふことも固より快くすることでありませうが、夫れ程のものでないものでも幾くとも我々が往來で遇へば、夫れが爲に下駄を脱いで土足になつて而して大地へ頭を付けなければならぬと云ふやうなこと杯があつたのであります、さう云ふことも皆甘んじてやつて居つた、當り前のこととしてやつて居つたのであります、固より夫れは止むを得ぬ事で當時社會の秩序であつて夫れで社會を維持して行つたのであるから止むを得ぬのでありましたが、さう云ふことが今日は全くなくなつて仕舞つて誰の前でも土下座をして頭を下げると云ふやうなことはやらなくつた、今日若し夫れをやらせやうと云ふ様なことがあつたならば何の位置々の聲が起るでありませうか、中々さう云ふ様なことは今出来るものではない、今日は……昔は役所等で役人が權威を振つて威張ることは非常に強かつた、今日はさう云ふ事がなくなつた、役所で少し手間でも取れると却て非常な叱責を云ふや

うなことが段々に熾になつて來ましたに依て役人杯が人民を取扱ふ上に於ても舊幕の時代と今日とは非常な違ひである、さう云ふ様なことが何に就ても非常に多くある、言論の自由とか集會の自由と云ふ様な事杯に就きましても今日の如きは殆んど間然することのない様な自由を得たのであります、今日の如き自由を得るには餘程骨の折れた事である、闘つたこともある、中々一通りなことで今日の如くなつたのでありませぬが其闘に於て勝利を得て言論の自由も集會の自由も餘程完全して來たのである、さう云ふ事は維新前に於ては中々見ることは出来なかつたのであります、夫れからじまして亦智識を傳へる方便の如きも今日は新聞雜誌と云ふものがあつて慣れて居りますから何とも思ひませぬが、今日の智識傳播の方便と舊幕時代の智識傳播の方便とは實に太陽の出て居る晝間と丸で太陽の出て居らぬ暗の夜と云ふやうな違ひであつたのであります、一寸した事でも假令ば大老の井伊掃部頭が櫻田で殺されたと云ふ事でも之れが日本國中に廣まると云ふ様な事迄には随分日数を要したのである、東京中のものが知るのでも、さう直ぐには知れなかつたのである、學術上の智識を傳へる方便の如きも實に不完全極まつたのである、夫れ等の事が今日は非常に容易くなつて居る、新規な發明でもし

たと云ふ人がありますれば其事を隠して置けば格別であるが、一度人に知らるれば忽ち滿天下の人に知れ渡つて仕舞ふ、學術の進歩に就て考へて見ても非常な事なのである、是等は今喋々云ふに及ばぬ、是等の事は實に例へ様のない程な進歩變化と云ふものである。

維新前と維新後と比較して見ると實に非常な進歩である、夫れは何に原因して居ると云ふと詰り教育と云ふものに原因して居るのである、教育と云ふものが維新前と今日と非常に異つて居る非常な進歩をして居るが詰り有ゆる此の進歩有ゆる此の改革と云ふものは全く智識教育と云ふものが進歩した結果と思はれる、固より我社會の人心の變化と云ふものは歐米人に嘉永安政年間から接するやうになつたのが重なる原因であります、歐米の智識を我が能く採用し我が能く應用すると云ふことが重なる原因である、固より我國人は學問に非常に熱心なる性質を以て居るが故に、嘉永安政以前より長崎邊に行つて刻苦勉勵して非常なる熱心を以て蘭學を學んだのである、そうして段々と西洋の智識を此方へ輸入する事をなして次第々々に我國に新しい智識が這入つて來る様になつたのであります、夫れで餘程蘭學杯に依て得る新智識を輸入する方法を講じて居りました所へ其際

に嘉永安政年間に亞米利加人等が來る様になつたのである、そう云ふ時からして舊幕を初めとして其他諸藩にも西洋の學問を追々研究する様になつたのである、就中舊幕では蕃書調所杯を特に設けて洋學研究の方便を立てたのである、さうして蘭學や英學や佛蘭西學や獨逸學を段々熾に教授する様になつたのである、さうして此蕃書調所後に開成所へ舊幕人も諸藩人も來て學んだのである、之が明治の改革の起る種々の進歩が起る種を蒔いた事と思ひます、夫れからして亦舊幕時代からして留學生を送る様でありました、が今生きて居る人では榎本武揚君其他死んだ西周君であるとか津田真道君とか赤松則良君とか云ふ様な人を洋行させたのである、亦其後にも舊幕から洋行をさせた、私共が洋行をしたのが舊幕からの三番目であります、私共の前に露西亞へ行つたのが、市川文吉君杯が行つたのであります、三番目に吾輩等が英國へ留學したのであつた、亦一方に於ては鹿兒島からも洋行生が行つて居つた、さう云ふ人が行つて居つたと云ふと、鮫島君とか森有禮君とか松本君(後に寺島)とか云ふ様な人々が行かれた、夫れから亦山口長州藩からも井上さんの伊藤さんの山尾さんのが洋行した、さう云ふ組が維新前に大分諸藩並に舊幕の政府から洋行をして夫れから段々歸つて來て色々政治上の

事に就ての意見とか工藝上に就ての意見とか商業上に就ての意見とか云ふ様な事を述べてそうして各藩の變化を起す様になつた、そう云ふ事が原因になつて我が教育上の大機關たる開成所も大に改革せらるゝに至つたのである、實に今日の東京帝國大學の源であります、舊幕時代の場所一つ橋外に在つた舊幕の開成所を大學南校と云ふ名稱に改めて次第に校業を擴張した去れば今の東京帝國大學は舊幕時代の開成所の繼續者と云つて宜しい位のものであります、明治政府になつてから大に擴張して此の所で各藩の少年子弟を大に養成したのである、實に文明的の教育の基礎は其處で始めた様な譯であります、夫れからして段々と新思想の者が殖ゑて来るに連れて政治上の事とか學問上教育制度上の意見や何かを提出する様になつて教育制度も次第に立つて來た、教育上の各般の機關も備つて來た、そうして普通教育と云ふ様な事専門教育と云ふ様な事が段々に備つて來たのであります、夫れは殊更御話をする程の事でもないが併し教育上の事にしても維新前と今日との異同を考へて見ますと云ふと實に非常な差があるのである、維新前にはどう云ふ教育の方法が有つたかと云ふと維新前には矢張公立學校と私立學校と云ふ様なものが有つたと見て宜いだらうと思ひます、公立學校と云ひ

ますのは舊幕政府に於ては彼の聖堂と云ふ所で漢學孔孟の道を教へる夫れからして諸藩にも夫れに齊しき所の學校が何處にも有つて即ち藩で建てた學校で藩士の子弟を養成した夫れから一方には東京邊りでも有りますと大家先生が塾を開いて居つて私立學校を設けて其私立學校で漢學であるとか國學であるとか云ふ者を學ぶ事が出來た、此の様な所で當時の文的教育を施したのである、夫れから亦武を學ぶ所もありました、劍術とか弓馬鎗術と云ふ様な事を學ぶ場所が夫々地方にも都會にも備つて居つたのである、こう云ふ事で教育をやつて居つた、夫れからして考へて見なければならぬ事がある、之れからして段々と諸君の御注意を要さんければならぬ事がある、當時そう云ふ學校に就て教育を受けたものはどう云ふ人であつたかと云ふ事を考へて見なければならぬ、當時文を教へ武を修むる教育の場所が有つたのであります、夫れは獨り都會にのみならず、各藩にもあつたが其所に就て學問をする者或は武藝を學ぶ者は如何なる種類の人で有つたかと考へて見ますと、夫れは特に申す迄もない事であるが士族社會の者であつた士族の子弟であつた、舊幕の旗本とか御家人とか云ふものゝ子弟と各藩々々の藩士の子弟であつた、こう云ふ種類の者が斯の如き學校へ這入て教育を受けた、そう教

育を受けた者は日本人民の中の一部の者なのであつた、他の大部分たる多数の日本人民はどうか云ふ教育を受けたか云ふと其れは比較すると殆んど教育と云ふ者は受けなかつたのである、當時教育となつて居つた漢學流の學問聖堂杯に行つて漢學を學ぶとか或は夫々教師に就て武藝を學ぶとか云ふ如きは當時に於ては立派なる教育なのであつたが其教育を受けた者は皆士族の子弟なのであります、其外の多数の人民農工商の子弟はどうか云ふ教育を受けて居つたか云ふと其人達の教育は實に僅なる者であつて漸く読み書きをする、極く普通な文字でも讀書が出来算盤を少し弾く事でも出来れば其れが人民の最終の教育でありましたらう、其れも其土地で可なり豊かな者資産家と云ふ様な者丈けが受ける事が出来たのである職工の如き者の子弟とか小さな農民百姓の子弟は全然文字も學ぶ事も出来ず算盤を弾く事も出来ない、今日云ふ如き教育と云ふ者は少しも受けない不知不識の中に父兄から教育されて居つたが教育と云つて名を付ける様な教育を受くる事は日本人民の多数は出来なかつたので有ります、小さな農民百姓は全く教育を受くる様な事はなかつた、商人でも其通り職工でも其通り大工左官と雖も塾屋と雖も讀書する事は少しも知らぬ、受取も書けるか書けない位であつた今

日でも年輩の大工や屋根屋杯の中には人に頼んで受取を書いて貰ふとか漸くに釘の折れの如く書いて來るのが有る、往々自分の名前の違つた者を持つて來る如き者がある去れば當時文武の教育を受くるのは僅に士族に限つて居つたのである之れが大に注意を要する點なのであります、今日の教育家が注意をしなければならぬ點である、夫れに就ては更に最う少し後に御話を致しますが、夫れからして教育に就て維新前と今日と異つた事を尋ねて見ますと、最前申した制度の變りがあつて學科が非常に變つて居る、舊の教育でありますと學科と云ふ者はどうか云ふ者であつたか云ふと詰り五年なり八年なり掛つて大先生に就て學ぶ所、藩の學校に於て學ぶ所は詰り漢學である經學である孔孟の道である支那の文章を作り支那の詩を作る様な事を五年でも十年でも學んで居る事に過ぎなかつたのであります、中々動物學礦物學植物學杯が必要であると云ふ様な事は當時夢にも見なかつたのである、却てそう云ふ動物とか植物杯の事は醫者のする事で武士杯が草花の事を學ぶには及ばぬ杯と云ふ様な考を以て居つた位で學ぶと云ふ考へも起らぬし亦聞き度くつても教へて呉れる者がなかつたのであります、夫れが今日では斯る學科を學ぶのが教育に必要な事となつて居るのであります、夫れで今

日は學ぶべき學科も非常に多くなつて先刻箕作君の云ふ如き者も大切としなければならぬ様になつて來た自分の身體の事を究めて置く事に必要であるが故に、そう云ふ事杯も今日は段々認めて學科に加へると云ふ様になり、そうして亦天地の法則の事杯物理學とか天文學と云ふ様な事も學科に加へる様になつて來たのである、夫れからしてそう云ふ様な變化に伴つて起つた變化は何かと云ふと學校へ來て教を受くる人の種類に非常な異動が起つて來たと云ふ事であり、維新前に於て文武の教育を受くる者は總て重に士であつた、然るに今日はどうかと云ふと或る地方は士族の子弟が多い所も有りませうが或る地方は士族と云ふ者はなくつて昔教育を受けた事のない教育なしに濟んだと云ふ種類の人の子弟が教育を受くる様になつた、即ち此地方の如きは夫れであらうと思ひます、今日中學校の生徒とか小中學校の生徒は大半十の八九は平民で農工商の子弟であらうと思ひます、之れが非常に大切なる變化であると思はるゝのである、夫れで亦考へて見なければならぬ事がある、昔各藩に於て文武の教育をなし徳川政府に於て文武の教育をなすと云ふは、どう云ふ目的を以てなしたかと云ふと當時の教育の目的と云ふ者は善良なる武士を拵へると云ふ事であつた、其地方々々で以て其地方

の領主所謂其土地の君主と云ふ者に對して忠義なる武士を拵へる、其の國の君主が辱めらるゝ時は共に死する、其國の城を枕にして討死する、其國の君主の馬前に於て討死すると云ふ様な立派な武士を養成したのであります、鹿兒島ではどう云ふ者を養成したかと云ふに鹿兒島では島津家に極く忠義な武士を拵へて熊本人杯に對しては非常なる敵愾心を以て之に當ると云ふ様な感念を養成し亦熊本人は熊本士と云ふ日本第一の士を拵へなければならぬ、そうして一朝他國と事ある時は城を枕に討死すると云ふ、細川家に對して極めて忠義なる武士を拵らへた、加州藩金澤に於ては前田侯に對して忠義なる者を拵へ様と云ふ、そう云ふ事を以て各藩が立派な武士を拵へた、自分の所の君主に對して忠義を盡すと云ふ感念より外には餘念のない所の精神を以て居つて漢學にも通じ各般の諸藝に通じて居ると云ふ様な者を拵へたと云ふのが當時の教育であつた、そうして一般平民の教育はどうかと云ふと一般平民の教育は商賣でもする人であれば商賣に必要な物の名でも讀めれば宜しい、商賣往來でも學んで算盤を少し弾く事が出來れば夫れで宜しいのであつた、別に君の爲に忠義を盡さんければならぬとか國の爲に愛國心を盡さんければならぬとか云ふ考へは當時の商人百姓の教育に於ては必要

でなかつた君に忠を盡すと云ふは士の専門の職掌で即ち各藩の藩士が引受けて居つた農工商はそう云ふ事には少しも構はぬ、農なら米さへ作る事が出来れば宜しい、商なら商業を営んで金を多く儲ける事さへ出来れば宜しい、工なら工業で夫々物を作る事が出来れば其れで宜しいので當時の平民は城を守る討死をしなければならぬと云ふ事はなく、平民は戦争の時に兵糧軍用金を調達する事をする丈けで軍用金を出すのは酷い事だが、けれども百姓町人が城を守らなければならぬと云ふ義務はなかつた、夫れは武士足輕に至る迄武士に属した事で、武士は國の爲には命を惜まぬと云ふ責任を以て居つたが、武士以外にはそう云ふ感念を養成する必要はなかつたのである、全く夫れが分業になつて居つたのである、所で當時亦武士の外に一種の教育を受けた者が無いではない、僧侶は特別の教育で可なり高等なる教育を受けて居つたが、之は特別な専門家としての教育であつて、國民的觀念杯を養成したのではない、結局當時國民的觀念のあつたのは武士のみであつた。

所で今日はどうかと云ふ事を考へなければならぬ、今日はどうか維新前は文武の教育を受けて、そして夫々の藩主に對して忠義を盡さなければならぬ、命を

棄てる事もしなければならぬ、決して世の中に大切なる者は我々の命ではない、我々の財産でもない、命より財産よりもつと大切なる者は君の爲め國の爲であると云ふ、そう云ふ事を士族には教へたのである、今日はどうか士農工商四民同等である、我國の人民は一人残らず皆其覺悟を以て居らなければならぬと云ふ主義の教育を受けなければならぬと云ふ事である、昔士族に對して授けた様な忠義心といふ事を今日は國家に對し我唯一の君主に對して持たねばならぬと云ふ時勢になつたのである、夫れが教育者の最も注意せなければならぬ所の事である、萬民に同じ様に生徒なら、有らゆる生徒に同じ様に國家的感念國民たるの義務を心得させる様にしなければならぬのである、依つて昔は士族丈に命でも財産でも棄てなければならぬと云ふ事を教へ授けたのだが、今日は士族でも平民でも同じ様に其の精神を授けなければならぬと云ふ事になつて來た、所が夫れに困難がある、夫れに氣を付けねばならない、維新前に於て昔の士族に此の如き感念を持たせて養成するのは割合に易いのであつた、何せかと云ふに士族は世襲であつて昔より幾代となく同じ様な精神を以て育て來た者であつて、親の代祖父の代から何處かで戦争をやつたとか祖先が討死したとか云ふ様な事があつて、其精神が傳つて其

れで士族を養成するに依つて當時士族の家庭の教育の中には中々宜しいのがあつた。家庭教育の頗る嚴正なる者があつて家でも父母が君に忠義を盡さなければならぬといふ事を常に唱へて居る。夫れで學校の教育と家庭の教育とが相待つて當時の士族を拵へて居つた。夫れだから當時の士族は成長するに従つて滿十五歳にでもなると腹でも切るといふ様な覺悟の者が出來た。現に會津杯にも幾らもこゝういふ者があつた。夫れは詰り會津藩が昔から幾代となく其精神を以て養成し抜いて來たに依つて、會津が非常なる困難も堪へて非常に六ヶ敷い役を務めて來て終に會津丈けが他の日本人から殊に同情を買ふやうな事もなした。夫れは何に依つて爲したか、矢張世襲的に武士道を養成して學校の教育と家庭の教育と相待つて此の如き者を拵へ出したのであります。然るに今日教育者諸君が教育する子弟はごういふ者であるか、今日諸君が教育する者は國民として愛國心もなければならぬ、一旦緩急ある時は如何なる事をもなし得る様な覺悟を以て居る者に仕立てなければならぬのであります。今日の農工商と云ふ者は昔の農工商の如くに只農であれば鋤鋤を以て地を耕すとか商なれば帳面を付ける丈けで宜しいと云ふ者ではならぬ、其他に國民としての義務を心得て居らなければならぬ、亦國民と

しては各種の名譽職にもならなければならぬ、衆議院の議員にもなつて國家の政治をも議さなければならぬ、或は廟堂に立て天下の政治をやらなければならぬ、或は軍人として國の爲に戦はなければならぬと云ふ事に於ては、恰も昔の諸藩の藩士といふ者が君主に對して忠義をなした如くでなければならぬ、今日の平民は必要さへあれば何でもやるといふ覺悟を以て居らなければならぬ、いふ事になつて來た、そゝういふ様な者に養成する事は非常な困難がある、何せといふに今日は封建時代の如くに學校教育と家庭の教育が相通する事が出來たのであります、殆んど家庭の教育は是等の精神に關しては皆無といつて宜しい位の者であります、多數の家は昔よりそゝういふ心のない家柄である、明治の今日になつて始めて責任が出來た、始めて四民同等となつて士族でも平民でも違ひは無いいふ事になつたのだが、世襲的家風として、各自の農家各自の商家に於て國家の爲めには命も棄てんければならぬ、君主の爲めには財産も抛たなければならぬといふことを日々説いて居るといふ様な家が幾くあるかといふに、夫れは實に少くない事であらう、今日以後は夫れを學校に於て特に教へて今日の少年子弟が父母となつて他日家庭の教育を授くる時には可なり良くなるであらうが、今日の家庭の教

育には望む事が出来ない、併しながら家庭の教育が乏しいといふて夫れを止むを得ぬ事としてはならぬ、兎に角學校教員の責任で學校に於て特に子弟の志を堅固にする様な方法を取つて行かなければならぬのである、どういふ覺悟を持たなければならぬかといふに、即ち我國民は各個人皆夫々或る事に於ては専門家たるが必要である、専門といつても固より高尚な専門家ではない、農は農で土地を耕して能く作物を作る事をしなければならぬ、商は商で己の従事すべき商業に能く努めて金儲けをする事をしなければならぬといふ様に、各々夫々極つた専門の職を持つて居りながら、亦一方にては何人も日本の國民であるといふ感念を有て居つて命よりも尙ほ大切の者がある、財産より尙ほ大切なる者がある、國家の爲め君主の爲めには一朝事あるの日には生命財産も惜まざる覺悟を以て居らなければならぬ。

それで亦大に考へなければならぬ事があるといふのは、我々の今日以後常に競争をしなければならぬ所の外國人はどういふものであるかといふと、歐米諸國の強い盛大の國をなして居る所の國の人民といふものは、皆な此の如く今申した如き精神を有て居るものである、英吉利、佛蘭西、獨逸、亞米利加といふ様な國の人民

は皆一方に於ては商業に達して居て商業心……金儲けをする所の心は十分あつて中々に巧みにやるが、亦一方に於ては國の爲めなら命も財産も惜まぬといふ精神を有て居る人々から成立つて居る、夫れに依つて英吉利、佛蘭西、獨逸の如き國は其の本國は割合に小さいが他國に於て非常な領地を有て居る、そつといふ精神の堅固なものと競争して行かなければならぬ、其精神がなければ即ち支那人である、世界中で只だ命が大切である、金が大切であるといふ事を知つて居つて國の大切も君主の大切も知らぬといふ精神は、何處の人民が一番代表して居るかといふに、是は支那人であるだらうと思はるゝのである、若し此の如き精神の人民であるならば假令幾く人口があつても幾億の人口でも、何の位廣い國でも國家を能く維持して行く事が出来ぬ事になつて來る、夫れは論より證據今日の支那帝國がどの位外國から苦しめられて居るか、如何に苦しめられても敵愾心を起さぬ上一方の苦しめを甘んじて受けて居る位に過ぎぬといふは憐れむべき事ではないか、我國民の持つて居る所の愛國心とか忠義心とかいふ事のみならず、歐米諸強國人民の持つて居る愛國心忠義心といふものを持つて居らぬで、只だ命が大事金が大事といふ精神ばかり持つて居るから此の如き事になるのだらうと思はるゝのであ

ります。

我國將來の人民は士族の持つて居る性質の善良なる部分と平民が持つて居る部分と夫れを兩方兼ねて持つて居る様になければならぬ、士族の觀念は今日以後は我國家に對する觀念君主に對する觀念といふものになつて、夫れで昔の士族の持つて居つた様な性質を持つといふ事でなければならぬと思ふのであります、何れの地方の教育家でも其教育家の名譽として努むべき所があると思はるゝのである即ち其地方の人民といふ者を其全國の人民の中で模範的のものとする事である其地方の人民其地方で教育を受けた人民は我日本國中が一番善い日本人民たるの資格を備へて居るといふものに教育して出す事が出来たならば教員の名譽は非常な事であらう、夫れを努めなければならぬ、群馬縣の教育は群馬縣の人民をして將來政治上に於ても商業上に於ても確實なる觀念を持つて居る國家的の觀念が深くして愛國心も最も強いと云ふ様なものにして、此の地方の人民が全國で一番日本人の模範となつて宜しいといふ者に教育して行つたら何よりの名譽だらうと私は思ふのであります、夫故に私は此の事を群馬縣に來れば此の地方の教育家に勸める亦他の縣に往けば矢張其通り勸める、全國何處の教育家にも同

じ様にするので語り全國同じ様に一番のものにするといふ熱心を以て教育したから我國民は善良なる者が出来るといふ事を我が輩は疑はぬのである。

夫れからして茲に特に群馬縣の教育家並に有志家諸君に一言すべき事がある、我が國の歴史を昔から見ますと常に西の方の人民と東の方の人民が戦つて居る、大きな波が立つて居る様である、間接直接に戦つて居る、或る時は西の方が勝ち或る時は東の方の人民が勝つて西の方を従へる、一番初めは何時かといふに即ち神武天皇の時であります、東の人民は極く未開であつた時に西の方では早くに君恩を知つて居て神武天皇の時に於て既に能く治つて居つた然るに東の方の部分は未だ道を少しも知らぬ人民であつて、遂に西方の爲めに化せられ、始めて治つたのである、それからして其後に色々な事もありませうが、ずつと飛んで源平の時はどうかといふに源平の時に至つては即ち源氏が東國に居つて數代の間勢力を養成して其養成の結果で平家を西海に沈めて、即ち東方の勢力が勝つたのである、夫れからして暫くの間は北條氏杯が政權を専らにして居つた爲に、東國の方に勢力があつたのであります、夫れから亦色々小變動があつた事でありましたが、一時は畿内地方に於て勢力を占める様になつたのである、所が後亦彼の關ヶ原の戦でもつて

東西の間に非常な競争が起つて東の方が勝つたのであります、徳川の天下となつて三百年間は東の方の勢力で日本の天下は治まつて居つたのである、然るに明治維新となつて亦西部の人民が起つて来て東部の人民を歴して仕舞つたのである、今日は西方の人民が東方の人民を全く歴して仕舞つて東方の人民は西方の人民から歴倒されて居つて一言もないのであります、夫れは仕方がない(笑聲起る)さういふ次第で今日はあるのである、さういふ様に或る一部分の者が他の部分を歴して居るといふ様な事は之は時としては已むを得ませぬが、其有様を永く續けて行く事は出来ぬ、詰り今日は平和的自由競争の時代である、平和的に競争をして行かなければならない、教育に於て競争をなし實業に於て競争をしなければならぬ……商業に於て競争をして行かなければならぬのである、夫れだに依つて今日に於ては維新の改革を起して其餘波は今日も引いて居るかも知りませぬが、今日からは其餘波を打ち破つて同じ様に政治にも與かり事業にも與かる様にやつて行かなければならない、所で能く注意しなければならぬ事がある、茲にあるのである、さういふのは、さういふ事かといふと即ち政治を執るとか軍人になるとかといふ者は重にさういふ種類の者が多いかといふと、矢張士族が少くはない、今日迄の所は

士族が多い、將來でも其方へ多く行きはせぬかと思ふのである、今迄は高等教育を受くる者も大學へ這入る者杯も矢張士族が割合に多い、陸海軍に居る人も矢張士族政府の役人も矢張士族が多いといふ様な事で學校の生徒にしても士族が多い、此地方の如く學校に士族の少ない所はさうするかといふ問題が起つて来る、政治の事であると陸海軍は矢張り以上の如く昔の如く……士族の如きものに任して置いて宜しいなら兎も角もである、所謂日本人民が同等に皆な肩に負つて居るといふ事ならば士族のみ役人にするとか士族のみが軍人になるものと許して置くべきではない、役人になる事軍人になる事を士族に任かしても宜しいといふなら格別であるが、さうでなければ一般人民にもさういふ事に當る教育を授けてさうして士族と同等に役人にもなるし政治家にもなり軍人にもなるといふ事の出来る様な教育をやつて行かなければならないといふことではないかと思ふのである。

夫れから此の地方の教育者に取つて最も樂みな事があらうと思ふ、夫れは土地も人民も商賣も大に發達する餘地があるといふ事なのである、此地方の土地といふものは中々廣い、是れから關西の方へ行く中々土地が狭い、家が多くある、人口が

多くなつて居る、此方は土地が廣いに因つて大に人口を増して利用する事も出来るのである、夫れで此の地方の人民は割合に未だ初心といふ風で駄開けに開けて居らぬ事の事である、或る地方は開けて居るが夫程未だ悪く開けて居らぬ故に、此の人民に對して善良な教育を授けたなら善良な人民を拵へる事は疑ひない、矯め直すといふ事はいらぬ、故に善く教育するかせぬかといふ事は教員其人の責任である、之は餘程樂みな事であらうと思ふのであります、併しながら又茲に憂ふべき事がないではない、夫れは此の地方に罪人の多いといふ事である、全國罪人の平均に比して此の地方は割合が多くなつて居るのである、平均の倍位に殆んどなつて居る(笑ひ)裁判所の被告人の數は倍位になつて居る、夫れで其罪科の如きも有ゆる種類に於て随分多いのであります、強盜でも竊盜でも奸淫でも何でも悪い事は随分上手にやつて居るといふ事なのである、謀故殺杯も毆打創傷杯も多い、放火も多い、悪い事といふ事は中々能くやつて居つて他の地方より多いのである、夫れは誠に憂ふべき事であつて此の地方に奉職する警官諸君杯も注意しなければならぬ、亦學校教員杯が教育上に於て努めなければならぬ、他の地方より多いといふのは實に耻かしい事と思ひます、殊に此の地方が平均の倍にもなつて居る様な

事であるから能く注意しなければならぬのである、然れども此の地方は亦夫れと連帶して喜ばなければならぬ事がある、夫れは此地方には學齡兒童の不就學者が割合に少ないのであります、學齡兒童の不就學者が少ないのに悪人が多いといふのは分らぬと思ふかも知れませぬけれども、今教育を受けて居る者は夫れは決して悪い者になるべき筈のものでない、今日悪人の多いのは詰り教育も何も受けぬ者です、から今日の割合を以て教育を受けさせて行けば、そいふ者は少なくなると思ひます、是れは誠に喜ぶべき事と我輩は思ふ、夫れから亦喜ぶべき事は教員の待遇の宜しい事であり、日本で一番教員の待遇の善いのは長野、夫れに次いで當縣杯は餘程善い……餘程能く學事を重んずるといふ事を我輩は認めて居ります、然れども亦茲に大に憂ふべき事がないではない、教員の待遇は宜しい而して中學校長の待遇は殆んど全國一等といつて宜しい、併しながら茲に知事其他の諸君に注意しなければならぬ、此の位の人口の所で此の位の富の度合の所で……富はどの位かといふに餘程善い所に居らんければならぬ、今日日本の輸出品二億の中の三分の一は絹である、其絹輸出の總額の三分の一は長野と群馬で持つて居るではないか、實に當縣は富の原因に富んで居る所といつて宜しいと

思ふ、小學教員の待遇も宜しい中學教員の待遇も宜しいのであります、併しながら全國何れの地に至つても中學校が一つで六分校あるといふ所は何處にもない、兎角分校は評判の悪いもので夫れは分校教員の悪いのでもない、生徒の悪いのでもない、詰り分校の監理といふものがさう行き届くべき筈がないのである、故に分校は不必要であるといふ事を認めて居るのであります(喝采)是れは新に此の地方の有志家並に知事閣下の注意を引かんと思ふ所である。

夫れからして亦此地方の人民が大に教育に對して熱心でなければならぬといふのは他の地方の人民がどの位教育に熱心なるかを考へて見なければならぬ、是からは日本には高等中學校も未だ澤山造らなければならぬ、數年の後には高等中學大學も數多出來るであらう、何處へ建てるか夫れは未定の問題であるが或る地方等の人民は非常に熱心になつて居る、岡山縣に高等學校が出來た、夫れから名古屋、新潟でも獻金杯をして高等學校を起して貰ひたいといつて居る、今後高等教育は非常に進むのである、教育上の利益を謀りたいといふ事は當り前の事である、夫れ故に何れの地方も高等學校といふものを置いて貰ひたいといふ熱心は當り前である、北海道の如きは新聞を作つて北海道に大學を起さなければならぬ

といふ様な事を説いて居る何時北海道に大學が出來るかどうか分らぬけれども其熱心を撓まず續けて行つたら出來ぬ事もなからう、何處に大學が出來様とも高等學校の競争が起つて來ても少しも我關する所にあらずといふ様な事をして居るのは教育の爲に宜しい事であるが、騒いで宜しいといふ事ではない、吾輩は諸君を煽動する譯ではないが、併しながら斯ういふ問題にも随分熱心になる者がある、高等中學杯は未だ數多出來なければならぬ、必ずしも前橋に高等學校を設けよといふ譯ではないが、將來高等學校の必要があるとしたら、矢張平素研究して見る事は宜しい、只調子に乗つて騒いで運動三昧をやるのは夫れは行かん(大笑)群馬縣人の如きは大に熱心になられん事を希望するのであります、我輩は近頃所々の教育會に臨んだ事がありますが、教育會は必ずしも其會員が教員のみならず、地方の有志者も多分に加つて居る様な事があります、さういふ様な所では教育上の相談杯が餘程よく纏まるのであります、學校を起すとか學校の設備を完全にすることとか學校を改築するにも教育者と有志者地方官等が強固なる團體をなして居る事は大に益のある事といふ事は我輩の認めて居ること、此の地方にはさういふ必要があつたかどうか知らぬが、又此の教育會はさういふものになつて居るかどうか

知らぬが、そういふ事は私は教育の爲めに宜しいと思ひます、それは一つの老婆心として諸君に申上げて置くのであります。(拍手喝采)

教育振起の必要

(明治三十二年八月八日香川県教育會總集會に於て)

只今は知事閣下からしまして此度我輩が本縣の教育會に参りましたことを御披露になりまして且つ知事公に於ては豫て御演説のある筈であつたのを我輩の爲に御控へ下すつたと云ふ次第でありまして誠に恐縮の至りに存じます、それから亦會長閣下から御紹介下されまして誠に有難たう存じます、併て知事公から誠に御懇篤なる御手紙に與りまして香川県に於ける教育會の總會に臨んで一場の演説をなして呉れと云ふ斯う云ふ御依頼でありました、誠に名譽の至りと存じまして御請けを致しました、即ち今日諸君に御目に懸ることが出来、諸君に對して卑見を述べる機會を得ましたのであります、就きましては斯の如く御招待に與りましてさうして出席致すと云ふことは随分責任の重いことでありまして知事公並に會長其他教育會の諸君には一方ならぬ御配慮に與る次第であります、それに對して果して本縣の教育上裨益になることを御話することが出来るか出来ぬかと云ふことを考へますると随分責任の重いと云ふことを感じますのであります、併し御

請けを致しました以上は聊か本縣の教育上に裨益が有らうと思ふ所を述べやうと思ふのであります、果してそれが裨益の有ることであるや否やと云ふことは自ら判断をすることが出来ぬのであります、さう云ふ想像を持つて居ります、それはどうか諸君に於て然るべく御判断を願ふのであります、只諸君に對して一言申す、ことを憚らぬのは斯の如き鄭重なる御招待に與つて罷出ました事であり、故に只僅かの熱心だけは持つて居ります、それで此高松市に参りますと諸君が皆高松市は非常に暑いからさぞ暑からうと云ふことを御述べになります、高松市の暑さと云ふものを私はまだそれ程感せぬのであります、随分暑いやうであります、がこちらに到着しましてからまだ時が少ないのでそれ程暑さを感じぬのであります、が諸君に於ては高松市は暑いと云ふことを私より御感じになつて居ることであらうと思ひます、で高松市の暑いと云ふことは餘程暑いに違ひない、私は想像致しますが、私の聊か持つて居る所の熱心は或は高松市の暑さに負けぬ位のものではなからうかと云ふだけの考へは持つて居ります、別に名論卓説を諸君に御聽かせ申すことは出来ませぬ、で只それだけの熱心を持つて此炎暑の際に於て斯る多數の會員諸君の清聽を煩はすと云ふのは甚だ恐縮に堪へぬことであり、

が其邊は然るべく御諒察を願ひます。

そこで今日御話致しますことは教育振起の必要と云ふことに就きまして聊か意見述べようと思ふのであります、凡そ我々人類社會に於きましての進歩であるとか發達であるとか云ふものは皆生存競争優勝劣敗と云ふことの作用の結果で起つて參るのであります、此優勝劣敗生存競争と云ふことは我人民の間には多年聞馴れて居る所の言葉であるに依つて今更斯ることを喋々する必要は教育會會員に對しては無いことであり、ますが其事を極く簡單に御話して置くことが必要と認むるのであります、古來凡そ人類社會に行はれる事柄にしまして人の最も忌み嫌ふ所の事……成るべく人類社會から斯の如きことは廢するやうにしたい、止めるやうにしたいと言つて最も人々が希望する所のこと、云ふものは戦争と云ふものであります、戦争をすると云ふことは已むを得ぬことであるが、其戦争と云ふものゝ爲に折角人々が勤勉して積む所の財産も盡さなければならぬ、人の最も大切とする所の命と云ふものも棄てなければならぬ、非常に慘酷なる結果を見るのは戦争であります、それで未開時代に於てはそれ程意識的に戦争を嫌ふと云ふことは無いことである、只戦争の結果として或は親を失ひ或は子に分ると云

ふやうな場合に於て非常に苦痛を感じて戦争と云ふものゝ苦みを認むるのであります。左りながら世が開けて來ますると段々戦争と云ふものゝ害を意識的に認むるやうになりまして戦争と云ふものをどうかして止めたら宜からうと云ふことからして萬國の間に平和を維持する爲に會議でも開き戦争でも起らむとす兆しのある時は會議を開いてそれで判決することにしたら宜からうと云ふ様な企てを爲すことが餘程多くなつて來たのであります。現に近い頃に同じやうな主意で平和會議杯云ふものも起つた次第であります。今日でもまだ十分なる結果を見る事が出來ぬと云ふ次第なのであります。所で此戦争と云ふものは斯の如くに之れを思まぬものはないのであります。けれども我々人類が今日の如くに文明の域に達し進歩發達したと云ふのは最も戦争と云ふものゝ力に依つて居るのであらうと思はれるのであります。戦争がある爲に種々な器械も工夫して拵へ、戦争がある爲に社會の結合も出來るのである。少人數の者が團體を成して居る其社會が次第々々に増大すると云ふのは何であるかと云ふと一方に於ては強者と弱者の間に競争が起つて強者は弱者を併呑し、優勝劣敗併呑亦併呑で遂に廣大なる社會が出來るのである。又他方に於ては或る有力なる第三者があればそれに對して

他の者が結合して防禦をやらなければならぬ必要が起つて來るのであります。其第三者の恐るべき者に對する爲に種々に分裂して居る小團體が合併して大なる社會を作ると云ふことになるのであります。さう云ふやうな仕掛けて以つて次第々々に社會と云ふものが大きくなつて來る。社會が大きくなつて來れば即ち種々の人物が其中に含有せられ、種々の能力を持つて居る者であるから色々のことを工夫することが出來るのである。それで又多數の者が結合して大きな社會を組むやうになれば廣い面積の土地に住居するやうになる。廣い面積の土地に住居するやうになれば其の土地の各部が多少性質を異にする。と云ふことになる。それ故に物産も異なり従つて商業も異なると云ふので分業と云ふことが起つて來るのである。それからして次第々々に文明的の作用が起つてさうして段々と世が進んで來るのであらうと思はれます。それで獨り人類社會に於けるのみならず人類以下の動物社會に於ても次第に動物が下等のものから段々と發達して來たのは是亦動物界に於ける優勝劣敗の結果であります。劣者は倒れ優者は殘ると云ふやうに少しでも優等なる機關、少しでも優等なる五感、少しでも優等なる運動の方便を持つて居るものが跡に残つて次第々々に優等なる動物が出來たのであらうと思

はれます、初は極く下等なる動物から始つて幾百萬年の間に非常な慘酷なる競争の結果として今日の如き優等なる動物が出来、又人類の如き非常に高等なるものも出来たのであらうと思はれます、それで此競争の結果として發達する所のものは身體のみではなく精神も亦同じく之れに由つて發達して來るのであります、下等動物の間に於ても、一方に於ては身體が非常に發達して來、又他方に於ては精神が發達して來るのであります、それで此の競争の作用に於て著しい事項が一つある、それは此の下等動物からして人類に至るまで常に競争をやつて居り、優勝劣敗の作用を爲して居ることであるが、其の競争と云ふものが次第々々に精神的の競争に傾いて來ると云ふやうに見えるのである、下等動物の間に於ては素より精神の働きもそこへ加はることであるが、身體を以て競争を爲して來るのである、精神が直接に身體を使つてさうして競争を爲して來るのである、それ故に身體の發達が何より大切なのである、斯くの如くにして能く駆けることが出来、能く走ることが出来る足を持つて居るから敵を逐ふに便利であるし、敵から逐はれる時に逃げるにも便利であると云ふやうに次第々々に足と云ふものが發達して來ると云ふことがある、良い羽根を持つて居つて高く飛ぶことが出来、早く飛ぶことが出来る

ならば己れの餌食を取るに他の動物より早く飛べて都合が宜い、又己れを逐ふ所のものに對しては能く飛んで其危険を避けることが出来るのである、それ故に羽根も次第に發達して來ると云ふのである、又五感にしても目の如き遠くの物を見ることが出来るのと出来ぬとは生存の上にて非常に大切なことである、能く遠くの物を見て而して其遠くの物に速に達する所の方便を持つて居れば食物を獲るに非常に便利がある例へば彼の鷲であるとか鷹であるとか云ふものになりますと非常に遠い所からして恰も我々人類が望遠鏡を持つて見る如くに彼等は認めてさうして自分に有益なる所の餌食の動物が下に居ればそれを速に攫ひに來て持つて行くことをする、それが爲に羽根も發達して來れば目も發達して來ると云ふやうなことになるつて次第々々に動物の種々の機關と云ふものも發達して來たと思はれます、所で人類に至つては如何であるかと云ふと人類に至つては段々此競争の方便と云ふものも直接に己れの身體でなく他の方便を用ふることが起つて來るのであります、人類でも下等なる人類に於ては競争の方便が専ら己れの身體の中に存して居る機關に關係するのである、野蠻人の間に於きましては足などが極めて丈夫でなければならぬ、運動を非常に能くすることが出来なければ

ばならぬ、それ故に亞米利加の土人などの間に於きましては非常に足が壯健であり、又野蠻人の間に於きましては五感の働きが非常に敏捷である、匂ひを嗅ぐ……鼻感の如きは開化人民文明人民の到底及ばぬ程である、例へば數多の人種が居ると其人種を匂ひで嗅ぎ分けると云ふやうなことが野蠻人には出来るのである、亞米利加の土人などの中には我に接して来る所の人種が白人であるか又は他の人種であるかと云ふことを鼻感で嗅ぎ分ける、又音を聴くことが非常に敏捷である、到底開化人などの聴取ることの出来ぬやうな音を餘程距離の隔つた所から聴取ることを野蠻人は爲すのである、さう云ふことは野蠻人に取つては極めて必要である、なせ必要であるかと云ふとそれを能くやる事が出来るが出来ぬか、其野蠻人の天下に存在して居ることが出来るか出来ぬかと云ふことか岐れるのであります、能く敵のことを察する、察すれば敵の計略を破ることが出来て敵から不意に襲はれることがないのである、それ故に野蠻社會に於ては斯う云ふことこの能力が極めて大切なのである、然るに人間が段々と開化して行きますと云ふと次第々々に人類が己れの智力を用ひて種々なる方便を工夫することが起つて来る、競争を爲し戦争を爲すに只自分の身體の中の機關を頼みにせず種々な器械を

拵へて之を持つて競争を爲し戦争を爲すと云ふことになつて来るのである、それ故に次第々々に人類が直接に己れの身體を頼みにせず己れが工夫した所の器械と云ふものを頼みにすることになつて来るのである、さう云ふことであれば足はそれ程丈夫でなくつても智力が進んで足の丈夫な者に勝つと云ふ方便を持つて居るのが宜い、足が幾ら達者でも智力を持つて人意的に拵へた方便の完全したものを持つて居らなければ競争に於て勝つことが出来ぬ、目が幾ら利いて居つても肉眼で見ると優つた望遠鏡を拵へて遠距離の物を認むることの出来る人類には到底目ばかり幾ら遠く利いても、其人間は勝つことが出来ぬことになります（ヒヤ）それで人間の競争と云ふものは次第々々に直接に人類が天賦自ら備へて居る所の機關よりも智力を持つて工夫した所の器械に依ると云ふ事になります、それであるに依つて此地球上に於て人類までと云ふものは段々と身體と云ふものが非常に發達して來たのであるが、人類に至つてからと云ふものは却つて智力の方の精神上的發達と云ふものが著いことになつて來たのであらうと思はれます、それに由つて觀ますと此地球に於ては我々人類以上の形ちの動物と云ふものが將來出ることがあらうか、人類と云ふものは最後の高等なる形ちであつて此人

類以上の形ちのものが此世界に出ると云ふことは先づ無いことであらうと云ふやうな説を爲す者があるのであります。云ふのは今日以後の競争と云ふものは精神上的の競争になつて來たのである、それで人類の自ら持つて居る所の機關と云ふものは今日以後はさう前より變らなくつても精神の方さへ發達すればそれで競争が出來て行き競争に勝つて行くのである、それから人類の備へて居る所の機關に就て考へて見れば或は下等動物の持つて居る處のものより劣つて居るかのやうに見えるものが幾らもあるのである、例へば消化器……食物を消化させる爲に備つて居る所の内部の機關と云ふものはどうであるかと云ふと人間の消化器と云ふものは或る動物の消化器の如き強い力を持つて居らぬものである、或る動物になりますと人間の消化器よりなかく強い働きの消化器を持つて居つて人間が食することが出來ぬやうな食物を食してそれから養分を得ることをなすのである、然れども人間は人間相應の消化器を持つて居つてさうして優等なる位置を占めて居ることが出来る、又腕力はどうであるかと云ふと人間の腕力は決してさう豪いものでない、成程人間より腕力の少ないものもあるが人間より力の非常に優つた動物が澤山ある、腕力では虎であるとか獅子であるとか豹であること

か云ふものには人間は勝つことが出來ぬのである、彼等と素手で闘つたら到底人間は勝つ事が出來ないのである、又走ることには如何であるかと云ふと是も人間はさう上手に走る機械を持つて居らぬ、人間同士の競争の上に於ては誰が早く駆けたとかこの學校の生徒が勝つたとか八百ヤードの競争に於ては誰が何分で達したとか云つて誇るか、若し動物が來て人間と競争した時は適はぬ、犬と競走しても、人間は適はぬ、馬には尙ほ適はぬ、虎の如き動物が來て競走したら人間は逆も適はない、駆けることに於ては人間は自慢する譯にはいかぬのである、それから目の力……物を見る力に於ても或る動物は夜分でも物を能く見ることが出来るが人間はなかく暗闇で物を見る事は出來ぬ、或は遠くを見る事に於ても鳥などの中には只今言つた所の鶯であるとか鷹であるとか云ふものは殆ど望遠鏡の如き目を持つて居つて能く見ることが出来る、それに對して人間は逆も及ばぬ、それから鼻感……匂ひを嗅ぐことに於ても或る點に於ては確に動物に劣つて居ることがある、耳の能力に於ても劣つて居る所がある、又優つて居る所もある、が遠くの所の或る單純なる音を聽分けて認むる事に於ては下等動物の方が能く出来るのである、斯ういふやうなことであるが我々人間は此缺點と云ふものを一

々智能の働きて保つて居るのである、例へば消化器は悪いが其代りに人間と云ふものは下等動物ほど粗悪なる食物を食はず、食物は能く選擇して有益なるものを取入れてそれに對しての働きは我々の消化器がしなければならぬやうになつて居る、それで養分だけを精選してさうして之を食料として用ゐることであれば消化器が下等動物の如く強くなつても宜いのである、却つて下等動物の如き消化器を持つて居れば其方が實際損である、其れで無ければ無益の働きをしなければならぬのである、其無益の働きをしないやうにするには優つた所の食物を選擇してさうして之を食料として用ゐると云ふ智慧を持つてやるから我々の如き消化器で済んで行くのである、總てさう云ふやうな事である、それで腕力はそれ程強くない、腕力は強くないが或は弓で射取るとか又鐵砲と云ふものを用ゐて非常に遠い幾里も隔つた敵でも撃取る事が出来ること云ふやうな智能の働きを持つて人間は人間自身の方便、自身の機關の劣つて居る所を補つて行くことが出来るのみならず、却つて其劣つて居るのが人間の利益であると云ふことになつて來たのである、と云ふのは無駄な所の生理上の働きをせずに済むのである、であるが却つて劣つて居るのが人間の爲になつて居ると云ふことである、それであるからして我々人

間に取つては器械を發明し器械を製造し器械を工夫すると云ふことは實に大切なことである、それであるに依つて人間の開化と云ふものは専ら此器械の工夫と云ふものにある、器械的文明と云ふことを重するやうになるのである、人間の進歩と云ふものは物質上の進歩で即ち器械を拵へることが人間の進歩の中で一番大切なものである、因つて人間の開化と云ふものは今日までの文明の著しい所のものは器械の工夫器械の改良の結果である、各國人民の優劣は器械を餘計拵へるに歸すると云ふやうに認むるものも無いではないと思はれます。

併ながら是は誠に皮相的觀察である、皮相的に考へると云ふと人間社會の進歩と云ふものは専ら器械の改良と云ふことに基いて居る如くに見えるのである、併ながら亦之を能く審査して見ますと決して器械だけを餘計拵へると云ふことで人間の優劣と云ふものが歸するとは言はれないのである、高等なる文明は決して只精妙なる器械を拵へると云ふ能力ばかりでないこと云ふ事は分らうと思ひます、人間の文明の上に於て人類をして最も人類たらしむる所のものは何であるかと云ふと或は此器械の製造器械の改良の能力よりも寧ろ他方に存在する所の道徳的精神の發達と云ふものにあるではないかと思ふのである、人間は一方に於て智能

と云ふものが段々と發達して來るが又他方に於ては道德的精神の性質が段々と發達して來るのである、高等なる人類と下等なる人類とに於て最も著しく異なる所のものは道德上の優劣にあるではなからうかと思はれます、それで道德上の性質には種々ある事であるが其一二を挙げて見ますると例へば自覺的の性質である、人間は己れの事を己れで考へる意識を以つて居るが下等動物にはそれは無いことである、下等動物も種々の感覺や何かは持つて居るが己れの事に關して我と云ふやうな觀念を持つて自分と云ふものを明に一つの物體と認めてさうして自分は斯の如きことを成したとか自分は斯の如きことをしなければならぬと云ふやうに自分に對して下等動物が己れの精神で己れの事を考へることが出来るかと云ふと、下等動物にはさう云ふことは出来ぬのである、それは人類に至つて始めて有る所の性質である人類でも下等の人類にはさう云ふことは少ない、段々と高等なる人類になると云ふと自覺心と云ふものが次第々に發達して來るのである、此自覺心と云ふものは非常に大切なる精神であつて之を多く持つて居らなければ高等なる人種とは言はれぬのであります、それから又意志と云ふものが大切である、己れの心で決して此事は成さなければならぬ、斯う云ふ事を成さうと云ふ所

の意志と云ふものが人間には最も必要である、それも下等動物に至りますと情慾或は食慾などの爲に或る事を爲さうと云ふ慾心は出るが、それを意識的に斯の如き事は成してはならぬ、斯の如き事は成すと云ふ處の意志を持つて自分の欲する處の物を追求して行くと云ふのは之は人類の特有である、人類に於ても下等の人類にはさう云ふ精神は少ない、下等の人類に至ると云ふと何か珍しい物が來れば其爲に心を引かされ或は何か美食でも前に呈せらるると云ふと義務の心を忘れて美食の爲に心を奪はれ、或は面白い音が聞えれば其音の爲に心を奪はれて自分がしなければならぬ處のこともやらぬと云ふのが下等人類の重なる性質である、子供に於ても斯の如く面白い音を聞かされると其方に氣が行つて仕舞う、例へば學校に行く者で稍々發達した處の生徒は面白い音を途中で聞いてもそれに心を奪はれず、學校に行きますが若し小さな生徒であると面白い音が聞えれば其音の爲に心を奪はれて學校に行かす聽いて居ることになる、それを段々と自分の精神の作用で制するのである、自分の目的を立て、此事は成さなければならぬから成すと云ふ強い所の意志を持つて其事を成し遂げるまでは如何なることがあつても自分の心を動かさぬと云ふことは、是は人間に至つて初めて有るのである、それ

が無ければ人間とは言はれない、さう云ふ心を持つて種々なことを計畫してさうして若々それを仕遂げて行くのが人間である、高等なる人間に至つて其精神が最も多くなる、それは良心と云ふものである、是は人間の義務である、斯の如きことをしなければならぬ、斯の如きことはしてはならぬと云ふやうに良心と云ふものがあつて我々の一舉一動の上に判断を起させて成すべきことと成すべからざることを區別せしむる所のものを我々人類は持つて居るけれども、下等動物にはそれは無い、又下等なる人類には此良心の發達が鈍いのである、それは高等なる人類になる程良心が次第々々に發達して一舉一動謹んでさうして悪いことであれば其良心の命に従つて之を否決して而して強い所の意志を持つて此悪いものを避けて善事に就てさうして完全に人類たる所の生活を成して行くのである、斯う云ふことが人類の人類たる所であらうと思はれます。

斯う云ふやうに道德上の心と云ふものが發達をせぬ以上は詰り智能と云ふものも發達することが出来ぬのである、斯う云ふやうに道德的精神が發達して來ればこそ多數の人類が團結して一つの社會と云ふものを成して行くことが出来る、若し斯の如く道德的精神が發達して居らぬ時は善良なる家族的の團體と云ふ

ものは出来ぬのである、善良なる所の市町村的の團體と云ふものも出来ぬのである、善良なる國家的の團體も出来ぬのである、善良なる一家を成さしめ、善良なる市町村的の團體を成さしめ、善良なる國家的の團體を成さしむると云ふのは即ち人間の人間たる處の必要なる精神即ち道德上の種々の性質を能く持つて居れば之が出来るのであるが、それが無い以上は幾ら智力が發達しても出来ぬのである、又到底智力も發達することが出来ずと我輩は斷言する、道德上の性質が發達せなければ智力も發達することが出来ぬと云ふのは何に依つて之を認むるか、と云ふと道德的精神が發達せぬ以上は廣大なる社會を組織することが出来ぬ、廣大なる社會を組織することが出来ぬ以上は人間の智能と云ふものが出来ぬのである、人間の智能の發達は社會と云ふものの中に於て出来るのである、社會外に於て發達する處の智能と云ふものは禽獸的智能である、それで人類が廣大なる社會を成すにあらずんば人類の智能を發達することが出来ない、大きな社會を拵へれば分業も出來て種々の能力を發達せしむる器械が出来る、その出來た以上は即ち道德的精神があつて之で社會と云ふものが能く結合して行くことが出来るのである、其社會の種々の方面に於て智能を發達せしむることが出来るのである、である。

に依つて道徳的精神と云ふものは最も大切である、人をして人たらしむる最も大切なるものは道徳的精神である、それであるからして人類社會の進歩と云ふものは一方に於ては智能的物質的の進歩を成し、他方に於ては道徳的性質のものである、兩者相待つて而して高等なる文明開化と云ふものが出来ることになつて來るのであります。

それで只今まで御話した所で既に御分りになつて居ることであらうと思ひます、が下等動物の間に於ける所の進歩發達と人類社會に於ける所の進歩發達は著しき違ひがあるのであります、下等動物の間に於ける進歩と云ふものは無意識的無自覺的器械的の進歩發達である、之に反して人類社會に於ける進歩は意識的自覺的のものである、意志自覺良心と云ふものが重なる要素になつて人間の開化發達が段々と起つて來るのであります、それであるに依つて人間の社會の進歩に於ては意志と云ふことと計畫と云ふことは非常に大切なことであり、能く計畫したることを強い意志を持つて之を仕遂げなければならぬ如何なる障礙が起つても其障礙を一々破り其障礙を一々排斥して企てた所の目的を遂げるのである、それは一年にして遂げることが出来なければ十年掛つてやり、十年掛つて遂げな

ければ百年掛つても遂げると云ふやうな強い意志を持つて計畫事業を遂げやうと云ふ事を人間はやらなければならぬ、之を能くやるのが即ち廣大なる社會廣大なる國家を成すのである、人間の社會に於ては計畫と云ふことと意志と云ふ事があつて之をやつて行かなければならぬ、それで此計畫と云ふものには素より得失も良否もあるが其計畫は次第々々に良い計畫が出来るのである、何に依つて計畫が出来るか、と云ふと人間には經驗と云ふものがある、其經驗と云ふものは決して一人だけであつて他の人に其經驗を遺さぬと云ふ譯でなく、一人の成した經驗と云ふものは他人の役に立て一代の人の成した經驗は次の人の代に役に立て一世一代と段々經驗を積んで其經驗に依つて即ち我々無数の人種が是まで幾年の昔から成し來つた所の經驗を利用して今日我々が人類の働きを成して居るのである、其經驗に依つて我々が計畫をして其計畫を遂げるに強い意志を持つて之を遂行すると云ふのである、諸君には素よりそんなことは管々しく述立てるに及ばぬ分り切つたことであると斯う言はれるかも知れぬ、何の爲にそんな分り切つたことを喋々するかと云ふ質問が起るかも知れぬと思ひます、所が決してさうでない、分り切つたことは言はないのである、と云ふのは西洋でも日本でも或る一種の

論が行はれて居る其一種の論は、どう云ふ論であるかと云ふと人爲の働きと云ふものを極めて蔑視する傾きである、人爲はいかぬ、天然に任せなければいかぬと云ふ説はなか／＼強い説である、人爲と天爲と比べると天爲が宜い、人爲と自然と比べると自然でなければならぬ、人類の僅なる經驗を持つて勝つことは到底出来ぬ、人間の僅なる智慧を持つて計畫した事は失敗する自然に於けることではなければいかぬと云ふことは幾らも聞くことである、さうすると人爲はなか／＼當てにならぬ人の爲す所の計畫は當てにならぬものである、なまじつかの計畫をするより放任主義にして自然に任せて置く方が却つて末に行つて有益なる結果を生ずると云ふ論は外國にも行はれ、日本でも随分さう云ふ説を爲す者がある、自然と人爲と比べると自然には逆も適はないと云ふかも知れぬ、そして政治家などに就て人爲を悪く言ふのである、政治家の爲す所の計畫と云ふものは往々失敗する、それで幾ら政治家などが計畫しても到底自然の勢ひには勝つことが出来ぬ、自然の結果で物事と云ふものは出来るのである、と斯う言つて政治家の計畫を蔑視する傾きがある、之も亦一理あるやうに聞えます、それはどう見れば宜いかと云ふことを考へねばならぬのである、それで自然論者は自然の成行きに任して置くが宜いと云

つて人爲的計畫を極めて排斥するのである、蔑視するのである、然れども人類の人類たる處は何であるかといふと即ち今言つたやうに人類と云ふ者には經驗と云ふものがあつて其經驗といふ者を能く用ゐる、次第に成したる所の經驗を用ゐる、又文字と云ふ者の無い以前は口碑に傳つたのである、が文字が出来た後はそれを書物に表はしたり記録に遺したりする、過去の古い處から人の經驗を記録に遺して置いて其經驗に依つて色々行爲の標準を求むるのである、之が無ければまるで禽獸と同じものである、又人類が斯の如き經驗に依つて計畫を爲すと云ふ事をやらぬ日には過去に於て爲したる處の失敗をいつまで經つても繰返へすと云ふやうな事になる、我々人類の失敗を避けしむるのは何であるかと云ふと、過去の失敗に鑒みて今日行ひを正し計畫を成すのである、それをやらぬ日にはいつまで經つても同じやうな事を昔からやつて居る事になる、人間が固有の精神の働きを持つて人爲的に計畫して呉れた事は決して排斥すべき者でない、と我輩は信するのである、之を排斥して自然の成行きに任して人類にして人類的精神を用ゐず人爲的の計畫を爲さずして自然に任して行く譯であるならば、人類であつて人類でないものと我輩は認むるのである、人類に於ける所の精神の有様と云ふものは何で

あるかと云ふと、人類の持つて居る智能とか徳義とか云ふものは是は矢張り自然の結果として出来たのである、即ち人類的の作用である、人類的の作用であるならば是は矢張り自然の結果なのである、人間に於ける所の事は自然中の自然界に於ける所の最も高等なる所の自然現象である、それで人間の精神に關する事だけを自然界から取除けて其以外の自然に任して置くが宜いと云ふ事は理屈の無い話である、我輩から言ふと人間に於ては矢張り人間固有たる所の精神に依つて經驗を利用して人爲的に計畫を爲して行くこと云ふのが何より自然の事であらうと思ひます、それを止めなければならぬと云ふ事であれば文明人も未開人も同じやうなものでなければならぬのである、文明人と未開人と異つて居る所は文明人の計畫が優つて居つて未開人には出来ぬやうな計畫をやるからである、それで文明人が着々未開人に優つた所の結果を生ずる事が出来るに依つて文明人の文明人たる處が現はれるのである、それで今申しましたやうな斷定を我輩は下して人類社會に於ては決して人類の精神を取除けた處の自然と云ふものに任して置くべきではない、人類の精神と云ふものは矢張り自然現象の高等なるものであるに依つて其精神の制裁を経て人類の働きを爲さなければならぬと斷言するのである。

所で人間が色々計畫をするが其計畫の中で就中大切な計畫があるのである、人類が色々計畫をして國家的存在を爲すに種々な計畫を爲すが其中で最も大切なる計畫は何であるかと云ふと、教育に關する所の計畫である、教育と云ふものも無意識的に行はれる所のものは下等動物にも既に存して居る、下等動物でも親が子を幾分か教育することがある、然れども意識的に教育と云ふ觀念を持つて教育を施して行くこと云ふことは高等人類に至つて初めて行はれる所の現象である、それで其計畫も秩序整然として大いに智力を盡し意志を用ゐてさうして種々の教育機關を設備して行く所の教育計畫は是は割合に新しい所の現象なのである、而して教育に關する所の計畫を昔の社會で最も能く爲したものは諸君も御承知でありませうが昔の希臘人である、希臘人は昔に於て教育計畫と云ふものをなかく能く爲したのである、當時に於て武的教育或は文的教育を爲し、スパルタ人は重に武人教育を爲したるものである、アゼンスに至つては文的教育を爲し、互に意志的に教育と云ふものゝ大なる觀念を持つて、而して此アゼンス、スパルタ人は教育を爲して行つたのである、其教育と云ふものを盛んに爲した爲に希臘と云ふ國はどの位の事を爲したかと言ひますると、昔に於て最も文明の域に達した所の社會と云

ふものは即ち希臘である、就中アゼンスの如きは昔に於て最も進歩を爲したものである、而して此希臘と云ふ國は極めて小さな國であつたが教育を完全に爲した爲に希臘より非常に廣大なる國と競争を爲し、戦争をしても常に能く彼に勝つことが出来たのである、例へば希臘の敵の彼の波斯と云ふ國は非常に廣大なる國であつて人口も希臘の人口と比べると云ふと比較すべからざる多い人口であつた、戦ふ所の兵隊の数は幾十倍と云ふ數を持つて攻めて来たのである、然れども希臘は僅の軍勢を持つて彼と戦争して能く彼を破ることが出来たのである、何の徳に依つて希臘がさう云ふことを爲し遂げたかと云ふと希臘人の教育の優つたことである、それからして希臘に斯の如く教育の効驗が顯はれたが、又アゼンス、スパルタに次でセイゾスなどの起つたのも矢張り教育を受けた所の勇將賢人などが顯はれた爲に勝つたのである、教育の徳で高等なる位置を占むるやうになつた、其次に起つたのはマセドンと云ふ國で之が希臘を一統して仕舞ひ、それからして遂にマセドン王の歴山大王が波斯よりして印度地方まで殆ど古今未曾有の遠征を爲したと云ふことであるが、其マセドンが起つて歴山王が斯の如くに天下を蹂躪することを得たと云ふのも考へて見ると矢張り教育の徳であらうと思ふのであり

ます、諸君も御承知のことでありませうが古來天下に英雄豪傑も多く出ましたが彼の歴山大王は豪傑中の最も豪傑であらうと思ひます、併ながら歴山大王に教育を授けた人は誰であるかと云ふと恐らく古今を通じて最も大學者であり最も人物である所のアリストートルと云ふ人である、それから今日の學問の起源と云ふものは殆ど此アリストートルに基いて居ると言つて宜い位である、昔に於てアリストートルの學問が天下を蹂躪したが、中世に至つてもアリストートルの學問の爲に世界中の學問が蹂躪されたと云ふ、さう云ふ非常な人物が歴山大王に教育を授けたのである、歴山大王の父のフィリップ王は非常に教育を重じた人であるに依つて其息子の歴山王が主としてアリストートルの教育を受けたのである、フィリップが斯の如く教育を重じて其息子の歴山王をしてアリストートルの教育を受けしめたのであるから歴山王が此廣大なる所の遠征を起して自分の下に居る所の將官其他の者を秩序的に統馭することが出来て野蠻國に至つても希臘の人々と云ふものが彼に能く及ぶことが出来たのである、斯の如き手柄を歴山王が爲してマセドンが印度までをも我文明の奴隸と爲すに至つたのは即ち教育の徳であると言はなければならぬのである。

それで西洋に於ては英雄豪傑は必ず教育を盛大にしたのである、彼のシャールマンの如きも非常なる勢力を歐羅巴に及ぼしたものであるが此人も亦教育を非常に重じて教育の機關を設けたのである、歐羅巴に於ては教育と云ふものは昔から非常に重せられて其結果として歐羅巴の文明と云ふものが駸々と進歩したのであるが、教育の効驗結果が最も著く顯はれたのは近年に至つて即ち佛蘭西と獨逸の戦争の時だと思はれる、佛蘭西と獨逸の戦争に於て佛蘭西が前代未聞の敗北を爲して獨逸帝國が非常な勝利を得て百戰百勝の勢ひでもつて佛軍を破つて遂に巴里を圍んでさうして降参せしめたと云ふことに至つたのは何であるかと云ふと、獨逸人が其以前六十年若くは七十年の間非常に強い意志を持つて人爲的に教育を施した結果であると云ふことは獨逸人自らも認めて居り又獨逸人に破られた所の佛人も皆認めて居る所である、而して獨逸に於て其前六七十年の間非常に強い意志を持つて教育を行つたのは何に依つたかと云ふと曾て那破崙第一世の時に獨逸は非常なる耻辱を受けた、那破崙の爲に苦められ、那破崙の爲に耻辱を受けた國は獨逸が一番である、其會稽の耻を雪がむと云ふ決心を持つて之を爲すには教育より外に頼むべきものは無い、教育を以て獨逸人を皆優等なる人民と爲せ

ば優等なる陸軍も出來、優等なる技師も出來、優等なる學者も出來、若し斯の如き方便が皆備はることであれば佛蘭西と戦争をして勝てるに決つて居ると覺悟を決めて獨逸皇室を初め獨逸の政治家が皆心を一にして六七十年の間教育を非常に熱心にやつた、其結果として七十年の戦争に於て佛蘭西が前代未聞の敗北をして獨逸が前代未聞の勝利を得たと云ふことは實に明なる事實である、教育と云ふものは實に有難いものである、教育を熱心に施す人民ぐらい恐るべき人民は無いのである、それで佛蘭西は七十年に於て獨逸の爲に斯の如き敗北を受けた、其後はどうかと云ふと、其敗北の後には佛蘭西は非常に教育を盛んに起したのである、それで今日佛蘭西の教育の盛んなことは亦獨逸の教育の盛んなのに譲らぬのである、それ故に今日佛蘭西と獨逸の間に戦争が起れば何れが勝つか何れが負けるかと云ふことは決して斷言することが出來ないのであります、殊に佛蘭西の海軍は英吉利の海軍に續いた所の完全なる海軍である、陸軍も佛蘭西は實に廣大なるものであつて獨逸の陸軍か佛蘭西の陸軍かと云ふ位である、其上に佛蘭西は非常に廣大なる海軍を持つて居ると云ふやうに是は七十年の戦争の後には佛人が意識的に計畫を種々加へて來た結果なのである。

それで他國のことを喋々する必要も無いのである。我國も亦教育の徳に依つて非常なる勝利を得たのである。即ち明治二十七八年の日清戦争に於て我國の勝利と云ふものは佛蘭西と獨逸の戦争に於て獨逸が勝利を得たのと殆ど負けない位であらうと思ひます。却つてそれより著き勝利であると思はれる。我日本と支那帝國と比べて見ると人口の多少に於て面積の大小に於て支那帝國は比較すべからざる廣大なるものである。我日本は僅の島國で人口も非常に少ないのである。それで昔し希臘が波斯に勝つた如く我の如き小さな國民が斯る大國と戦争して能く勝つたと云ふものは即ち我が過去三十年間若くは三十年以上の間我人民が上下一致して熱心に日夜勉強して或は計畫を爲し其計畫に依つて教育せられて政治家も人民も能く教育を重じて教育を爲したに依つて斯の如き勝利が得られたのであらうと思はれます。然るに支那が彼の如き大敗北を爲したと云ふのは何故であるか。支那は日本より却つて久しく歐米の文明に接して居つても歐米の文明を利用することを知らないのである。新式の教育を施すことを知らぬのである。それ故に殆ど我の相手にあらずと云ふ如き人民である。彼が教育を施さざるに我が教育を熱心に施したと云ふ結果の爲に我が斯の如く百戰百勝を得たのである。而して

又我國家内に於て明治維新と云ふ實に我國開闢以來殆ど無比なる所の大改革を行つたのであるが、此大改革を行ふことに最も與つて力の有る所の藩と云ふものに於ては矢張り教育を重すと云ふ事があつたのである。教育を非常に重じて疾くより海外に留學生を派遣して文明諸國の事情などに通じた者を作り又文明諸國の知識などを採用することに努めた。と云ふ事を多く爲した藩が明治維新の大業を仕遂げるに最も多く與つたのである。其藩はどこであるかと云ふと即ち鹿兒島であるとか山口であるとか云ふ所は維新前よりして人物を選んで海外に留學生を出して居つたのである。今日の山口縣の元老と云ふ如き人は維新前疾くより海外に留學して海外の事情を察して居つたのである。伊藤侯爵とか井上伯爵とか其外山口人の今日の元老株は維新數年前に於て西洋諸國に留學して彼國の事情杯を能く知つて居つたのである。それから又鹿兒島藩に於ても彼の森有禮君であるとか或は鮫島君であるとか其外多數の人物を選択して歐米諸國に留學させたのである。さう云ふ風に教育の爲に非常に諸侯達が努めた其結果として其藩には早くより文明的の智識を擴むることが出来たのである。文明的の教育を爲したのである。それに依つて明治維新の大業と云ふものが出来たのである。是は決して偶然の

ことでないのである、決して偶然のことと云ふものは社會に有り得べきことでない、天變地異には已むを得ぬことがあるが、人為に於て爲すことの上に於ては、卓見の者が勝つのである、意志の強堅の者が勝つのである、善良なる良心を持つて居る者が勝つのである、それで維新の興業も教育の結果で出来たものと我輩は認むるのである、それであるに依つて昔でも今でも教育の盛なる國は榮え教育の振はぬ國は劣等なる位置に居つて教育の振ふ國と衝突すれば必ず敗北するのである、一國の中に於ても教育の振ふ地方は其國に於て優等なる位置を占め、教育の振はぬ所の地方の人民は劣等なる位置に居つて教育の振ふ所の人民の爲に蹂躪せられ壓倒せられるのである。

只今申した通り明治の維新がごころの藩に依て重に行はれたかと云ふと、鹿兒島山口であつて之に次で肥前土佐などが維新前に留學生を出したのである、さう云ふ所が維新の大業に與つて最も力があつたが、其後今日まで如何であるかと云ふと、矢張り其邊の藩と云ふものが我日本の今日の社會に於て優等なる位置を占めて居るのである、今日我社會に於て最も有力なる者の多く出て居るのはごこであるか、山口である、鹿兒島である、陸軍には如何、海軍には如何、行政官吏の間には如何、

如何、内閣は如何と云ふに皆山口人であるとか鹿兒島人であるとか云ふものが重なる位置を占めて居るのである、其他各種の社會に於て矢張り山口人鹿兒島人杯が優等なる位置を占めて居る、何に依つて斯の如く彼等が優等なる位置を占めて居るかと云ふと、即ち彼等は教育を完全にすることからであると斷言して宜いと思ふのである、彼等は教育に熱心である、教育に熱心の結果として彼等が我社會に於て優等なる位置を占めて居るのであると云ふ事を明かに斷言して宜いと思ひます、各府縣に於て教育の振ふと振はぬは我社會に於ける所の其府縣人の勢力如何に非常に大なる關係を持つ者である、各府縣に於て教育が振ふか振はぬかと云ふのは其府縣人の我日本帝國の社會に於ける所の位置が低いものであるか高いものであるかと云ふ事に非常に大切な關係を持つ者である、各府縣の人民と云ふ者は己れの府縣の教育事業に關しては最も判然たる所の觀念を持つて居らなければならぬ、最も明かに己れの縣の教育程度はどの位まで來て居るか、己れの縣に於ける普通教育と云ふ者はどの位完全に行はれて居るか、己れの縣に於ける學校教育と云ふものはどの位の程度であるか、己れの縣に於ける高等教育と云ふ者はどの位の程度であるかと云ふ事に關して明なる觀念を持つて、それに依つて教育振起の必要

育事業を計畫して行かなければならぬのである、それを若し棄て置いた日には他にさう云ふ明なる觀念を持つて居る人民があつて教育を盛んにして行けば、それ等の人民の爲に此方の人民と云ふものは蹂躪せられ壓倒せられて社會の極く下等なる所の段階の事をやつて居らなければならぬのである、それを今日我輩は香川縣の教育會に於て御話するのである、それ故に香川縣の諸君に尋ねなければならぬ、香川縣人と云ふ者は本縣の教育事業に關して、教育上の實況に關して果して斯の如く、只今申述べたやうな判然たる觀念を持つて居るかどうかと云ふ事を我輩は御尋ねしたいのである、それで我輩が只之を御尋ねするのみではない、諸君の御參考になるべき事實を我輩は御披露しやうと思ふのである。

先づ普通教育所謂義務教育と云ふものに就ては如何、本縣の普通教育のことを少し調べて見ました所が、本縣の普通教育事業と云ふものは數年前までは餘程悪い位置に居つたものであると我輩は思ふ、全國の平均程度以下に數年前まではあつたと思ふのである、然るにそれが二三年此方と云ふものは、餘程進歩改良になつて來たのである、今日では普通教育に於ては平均程度より上に行つて居るのは誠に喜ぶべきである、是は彼の徳久知事などが餘程盡力された結果である、と云ふこと

も我輩は承つて居る、ごなたの御盡力であるかは知らぬが兎に角今日の所では平均より餘程上に行つて居るのである、全國の平均は六十六分五厘と云のであるが、こちらは七十四位の所に確か行つて居つたかと思ひます、餘程進歩して來たのであつて、是は誠に本縣の爲に賀すべき事である、と我輩は思ふのである、所で中學の程度になるとどうであるか、中學教育に於ては矢張りさう云ふことが言へるかどうであるか……、それで只今申したのは前の調べであるが、極新しい所の調べも文部當局者の方から出立の間際に受取つたのがありますが、それに據ると平均が六十九と八分八厘と云ふことになつて居る、それで香川縣は七十四と五分一厘と云ふものであるから、何しろ平均より餘程能くなつて居る、是は本縣の普通教育の上、に於て誠に賀すべきことである、それから中學の教育は如何であるかと云ふと、中學の教育と云ふものは土臺本縣の性質から言ひますと是まで幾多の變遷を経て來たのであつて、教育事業なども漸く六七年以前より稍々緒に就いたと云ふ譯であるから、中學などの不完全と云ふことは素より已むを得ぬことであるが、併し其不完全なる所の事實を明に認めて置くことが必要と思ひます、それで今日では中學と云ふものも二校あるのである、二校あつて各々六百人の定員であると云ふが、

此中學は既に六百人居つても丸龜の中學はまだ五百人位よりほか無いと云ふことである、それであるから中學生徒の数は目下千百人であると云ふのである、千百人の生徒と云ふのは此香川縣の如き實に小さな縣に於ては多數であると言つて宜いかも知れぬのであるが、面積は香川縣と比較すると四倍も五倍もあるが人口に於ては却つて香川縣より少ない所の縣が此四國の中にあるのである、それはどこであるかと云ふと高知縣である、此高知縣の面積は本縣に比べると四五倍も廣いやうであるが、人口は却つて本縣の方が多し、而して本縣は人口は多いが中學生徒の數に至つては高知に勝つことが出来ない、高知縣は一枝に中學生徒が千人から居る、それに海南學校の生徒も五六百名あると云ふことである、中學程度に於ては本縣は決して高等なる地位に居るものとは認められぬ、それ故畢竟本縣に於ては尙ほ中學を二校増設すると云ふことであるが、是は誠に喜ぶべきである、若し中學を二校増設することになつて之に各々六百人の定員を以て生徒を養成するとすれば、四六二十四……二千四百人の生徒が早晚出來ると云ふことは喜ばしきことで實に希望するのである。

者が幾人あるか、固より本縣人ばかりでなく高知縣人徳島縣人愛媛縣人も受けて居るが、其高等學校の教育を受けて居る所の本縣人は幾人あるかと云ふ事は諸君は御承知でもあらうが、我輩は此事を諸君に御披露しやうと思ふ、高等學校と云ふものは全國に於て第一から第五まである、其上山口に高等學校がある、是は山口人が自分の金で山口人の爲に特に設立したのである、それで此一つを加へると高等學校は六つあるのである、其高等學校の中には大學豫備の學科課程がある、其課程を終れば大學に新入するのである、其大學豫備の學科を受けて居る所の生徒が本縣人には幾人あるかと云ふことを我輩は諸君を此教育會員として且香川縣人として御聽かせ申さうと思ふのである、(謹聽)それで高等學校には各府縣の生徒があるのであるが、其中で多い所と少ない所とは非常な差があるのである、多い所を舉げれば東京が一番多い、各高等學校に居る東京人の數を合はすれば三百八人と云ふなか／＼、多い數である、それから長州人、山口人が多い、是は幾人であるかと云ふと各高等學校に居る所の山口人の總數が二百二人と云ふのでなか／＼、多い、それから福岡人がなか／＼、多い、福岡人が百八十一人と云ふので、是も頗る多い、一縣の生徒が百八十一人も高等學校に這入つて居るのである、それから佐賀人も多い、佐

賀人は幾つであるかと云ふと百十九人である。百十九人と云ふ數も決して輕蔑の出來ない數である。それから熊本と新潟とは百三人と云ふ高等學校の生徒を各々持つて居るのである。此近邊にあるところの高知縣もなかく多く持つて居る。是は大きな縣であるが人口はこちらより少ない。人口は少ないが高等學校に於て生徒を持つて居ることはなかく多い。幾人持つて居るか云ふと百七人持つて居る。是等は多いのであるが少ない方になると非常に少ないのである。實に氣の毒のやうに少ないのである。僅三四十人にもならぬ所があるのである。百人二百人三百人と云ふ所のものに比べて見ると三四十人と云ふのは實に氣の毒なことである。我輩は思ふのである。是で競争が出来るかどうかなか／＼むづかしい。それで其少ない所はどこであるかと云ふと、沖繩は十一人であるが是は例外として宜い。宮崎縣が二十人である。随分少ないでせう。十の字の代りに百の字が這入つて居る所もあるがこちらは百の字の代りに十の字が這入つて居る。二十と二百とは大變な違ひである。それから鳥取縣が二十二人である。宮崎縣より二人多いと言つて威張れるかどうか、それ位では威張る譯にいかないと思ふ。徳島縣はどうか……大變近くなつて來たのである。徳島縣は二十四人である。それから群馬縣は二十六

人である。皆少ない。青森縣と秋田縣は二十七人である。栃木縣と岩手縣とは各々二十九人である。埼玉縣は三十三人である。山梨縣は三十人である。和歌山縣は三十四人。神奈川縣は三十六人である。而して香川縣は幾人であるか、諸君は知りたくはないか。香川縣は幾人あるか定めて諸君は御調べになつて居ること。我輩は思ふ。併ながら今一遍諸君に御聽かせ申す必要がある。此觀念は香川縣に居る者は何人も明に持つて居らなければならぬのである。高知縣と如何なる差があるか、佐賀縣と如何なる差があるか、熊本縣と如何なる差があるか、山口縣と如何なる差があるかと云ふことは本縣人に於ては三歳の兒童と雖ども明に耳に留めて置かなければならぬこと。我輩は思ふのである。それで此香川縣は三十八人である。まだ香川縣より少ない二十人二十三人と云ふ所がある。又沖繩の如き所があるからして香川縣は餘程好い位置に居るやうに見えるけれども、先刻申し述べた如く高知縣熊本縣佐賀縣山口縣等に比較すると如何であるか、實に本縣の位置は非常に低い所に居るのである。左れば本縣の如きは只今申した通り沖繩縣宮崎縣鳥取縣徳島縣群馬縣青森縣秋田縣栃木縣岩手縣埼玉縣山梨縣和歌山縣神奈川縣等は等の縣に比べると孰ちらの方が上に居るのである。是等の縣よりは香川縣の方が威張

れるのである、併ながら其他の三十二府縣よりは非常に少ないのである、其の他の三十二府縣に對しては決して頭が擧らないのである、それで沖繩を例外と見なければならぬと同時に東京も例外と見なければならぬ、なせ例外と見るかと云ふと東京人と云ふものは決して昔から東京に生拔へきの東京人或は舊幕人と云ふやうに所謂江戸ツ子と云ふものは無いのである、今東京人と云ふと各府縣から來て東京人となつて居る者が非常に多い、即ち鹿兒島人でも山口人でも鳥取人でも佐賀人でも居る、其中に香川縣人も居る、東京人と云ふ中には各府縣の人が多く這入つて居る、それは我輩は審査をしないから知らぬが審査しても矢張り少ないと思ふ、東京と云ふ斯の如く諸方の者が多く輻輳して居る所の者から出來て居るのであるから例外としたのである、而して山口縣は是は例外とすることは出來ない、即ち山口の二百何人と云ふのは例外とすることは出來ないのである、皆是は純粹の山口人であつて毛利元就の意志を繼いで三百年來強堅の志操を固めて維新の大業を決行した山口人の子孫が二百何人居るのである、又鹿兒島も熊本も其通りで彼等は皆其藩々の強堅なる意志を持つて意志的自覺的人爲的に教育を實行して居る所で其縣人が二百何人であつてそれに對して此香川縣が三十何人より外に高等

學校の生徒を持つて居らぬと云ふことを諸君は認めなければならぬ、それで山口であるとか福岡であるとか佐賀であるとか高知であるとか熊本であるとか新潟であるとか云ふ所に比較すると實に本縣は何たる相違であるか、諸君其相違と云ふものは一日も忘れてはならぬ、其相違を無くすまでは諸君が此事を心に收めて常に其觀念を持つて居らなければならぬのである、福岡の人口と香川の人口と比べるごうであるか、福岡の人口は香川の人口の殆ど倍である、人口は福岡が倍であるが高等學校に於ける生徒の數は本縣より福岡の方が倍數を持つて居るのであるかと云ふと二倍も三倍も四倍も五倍も五倍もと云ふやうに彼は高等學校の生徒を持つて居る、人口は我れより倍であり高等學校の生徒は五倍であるから實に福岡縣人は盛んと言はなければならぬ、香川縣の人口と高知縣の人口とはどうであるかと云ふと、彼の人口の方が本縣の人口より却つて少ないのである、佐賀縣人で高等學校の生徒になつて居る者が幾人あるか、本縣の生徒に比較すると八十一人彼の方が多いのである、高知縣と本縣と比べて見ると本縣より高知縣の方が六十九人多いのである、六十九人高知縣の方が高等學校の生徒を多く持つて居るのである、然れども最も多數の高等學校の生徒を持つて居るのはごこの縣で

あるかと云ふと山口縣である、本縣が山口縣に及ばぬことは幾らであるか、已に今述べた數に依つて諸君は御承知でありませう、今我輩が述べてまだ明に其觀念が諸君の耳に残つて居らうが實に百六十八人だけ山口人の高等學校に居る所の人の數が多いのである、實に何たる相違であるか、高等學校教育の上に於て本縣の劣等なる有様は實に斯の如き有様であります、それで諸君は此劣等なる有様を能く心に留めて置かなければならぬ、若し之を能く心に留めて置くことが出來たら我輩が今日無益の演説をしたとは思はぬのである、今回御招きに依つて今日演説をして若し此の觀念を諸君の耳に長く留むることが出來たら我輩は無益に今度出張したとは思はぬのである、左りながらまだ此の外に諸君に御披露しなければならぬことがある、此外に尙ほ諸君の耳に大に留めて置かなければならぬことがある。

次には帝國大學の學生生徒中に於ける各府縣人の多少のことである、即ち東京帝國大學と京都帝國大學に於る所の學生生徒中に於て各府縣の人民と云ふものが各々幾らあるかと云ふことを諸君に大體御聴かせ申さうと思ひます、此關係の多少と云ふ者は實に廣大なるものである、我日本帝國の社會に於て各府縣人が占む

る所の品位位置と大關係を持つものである、大學の生徒を多く持つて居れば上等なる所に居るが、大學の生徒を少なく持つて居る其府縣は下等の位置に居らなければならぬ事になる、それで先づ各大學の出身者や各分科大學學士と云ふ者は我社會に於てどう云ふ位置を占めて來るか、と云ふことの大體の御話をしやうと思ふのである、近年に至つては各大學の學士と云ふ者は各般の事業に於て次第次第に優等なる位置を占めて來るのである、例へば辯護士社會に於てはどうか、辯護士の鏘々たる者を指を屈して數へて見ると誰であるか、曰く増島六一郎曰く岡村輝彦曰く菊池武夫曰く鳩山和夫曰く元田肇曰く高橋捨六曰く鈴木充美曰く江木衷曰く誰れ曰く誰れ其他指を屈するに違なき位である、而して是等の辯護士達は皆大學出身の人なのである、また學士と云ふ稱號を得ぬ中に大學を出た者もあるが、多數は大學の卒業學士である、此近邊に於ける所の大阪市に於て辯護士として最も高等なる位置を占めて居らるゝは砂川雄俊である、而して是は法科大學の法學士である、又外交官に就いて考へて見ても最も優等なる者であり鏘々たる者であるのは大學出身の者に多いやうである、例へば此間倫敦から歸つて來た加藤高明の如き、或は日清戰爭の時分は外務次官をして居つてそれから後亞米利加の公使

になつた小村壽太郎である。又近頃朝鮮の公使となつた林權助の如き彼等は若手の外交官の中で頗る有望な者である。而して彼等は皆大學の法學士である。斯う云ふやうに外交官にも段々大學の出身者が出來たのである。各省の次官局長に就て考へて見ても次官の半は大學出身の者である。遞信次官の古市公威君の如き農商務次官の藤田四郎君の如き文部次官の奥田義人君の如き皆大學出身の者である。而して大藏省に於ては阪谷以下多數の大學若手の事務官が大藏省の如き最も錯雜したる困難なる事業に當つて居るのである。文部省の局長參事官に於て文科大學の出身者は澤柳政太郎上田萬年岡田良平君の如き皆文學士である。其外指を屈すれば違ないのである。又實業界に於ては如何、銀行員としては如何、各府縣の書記官參事官としては如何と云ふと今日では各府縣の知事にも追々法學士などが出來たのである。即ち本縣の知事閣下の如き矢張り法科大學出身の御方である。其外知事の下に居る人でも重要な位置を占めて居る人は矢張り法科大學出身者が多いのである。即ち府縣の書記官參事官としても日に益々法學士などが多くなつて來るのである。又銀行員にしても日本銀行の如き近年までは大學出身の者が非常に多かつたが内部の變動の爲に日本銀行を去つた。併し其人達は他の優等なる

銀行事業に關係して居る。正金銀行に於ては誰が重なる位置を占めて居るかと云ふと總裁の下に最も大切な位置を占めて居るのは本縣出身者の三崎龜之助君である。或は臺灣銀行の如きも是又大學出身で先頃まで大藏次官をして居つた添田壽一君が總裁になつたのである。又大阪には無數の工業場がある。大阪の烟突の數は全國一であつて實に工業事業は盛大である。而して其盛大なる工業事業の中で最も盛大なるものは大抵皆工科大學出身の工學士などが其監督をして居るのである。斯う云ふことになつて來たのである。

それからして教育事業に於ては素より大學出身の者が追々興つて來たのである。大學出身の者で人物であり且つ熱心なる教育家であれば文部當局者は之を採用するのである。併し本科生でなくても其人であるならば宜い。即ち諸君が此度の講習會に於いて教授を受けられた所の此所に臨席せらるゝ谷本君の如きも是亦大學の出身者學士ではないが、其人であれば公平なる文部當局者は之をして教育事業を研究せしむる爲に留學を命ずると云ふことである。而して谷本君は本縣人である。谷本君に取つて名譽であるのみならず本縣に取つて亦一つの名譽である。本縣人にして大學で教授を受けた者は割合に少ない。少ない中にして此特選に與か

る榮を得られたのは獨り自身の光榮のみでなく本縣の光榮と我輩は認むるのである。斯の如く大學出身の者が我社會に於て重要な大切なる位置に當つて居るのである。殊に醫者社會に於ては最も大學出身者の特有である。病院が出來、學校が出來れば必ず大學の醫學士を招かなければならぬ。本縣杯に於ても其事は認めて居るのである。是等の事實に依つて考へて見ると將來我邦の社會に於て大學出身者の位置と云ふものは如何であるかと云ふ事は豫め想像が出來るだらうと思ひます。それで各府縣の輕重と云ふものは大學出身者を多く持つて居ると少なく持つて居るとに依るのである。目下大學の學生として各府縣人が幾人多く居るか幾人少ないかと云ふ事が大いに關係すると我輩は認むるのである。左れば我輩は本縣人に申さうと思ふ事がある。東京帝國大學及び京都帝國大學の學生生徒の總數に就て各府縣人が各々幾らあるかと云ふ事を諸君に申さうと思ふのである。帝國大學學生生徒の各府縣の人員には非常に多少があるのである。最も多い所は矢張り今申した通り東京である。それは幾人あるかと云ふと三百四十一人である。其次はどこであるかと云ふと福岡である。福岡は百三十一人である。其次はどこであるか、山口である。山口は百十七人である。其次はどこであるか、新潟である。新潟は

百四人である。それから八十四人の所もあり、七十一人の所もある。それからぐつと下つて極く少ない所になると二十人もないのがある。是亦非常な違ひである。二百人餘も持つて居る所もあり、二十人にも足らぬ所があるのである。それで平均數は幾人であるかと云ふと、各府縣平均すると五十四人六分八厘である。それで平均以上にある縣は幾らかと云ふと、十七府縣である。それから平均以下にあるのが幾らかと云ふと、三十府縣である。平均の上に出ないのもあり、又百人も二百人も持つて居つて平均の上に出て居るのがある。平均が五十四人六分八厘であるから其の下に非常に下つたのがなければならぬ。それは自然の勢ひである。東京は今高等學校の時に言つたのと同じ例であるから例外と看做して置く。東京を例外とすると一番多いのはどこであるかと云ふと福岡の百三十一人と云ふのが一番多いのである。然れども茲に考へて見なければならぬことがある。福岡は東京の次ぎで一番多いのであるが人口の割りにして之れを考へて見なければならぬ。人口の割りにして考へて見ると福岡縣が一番多いとは言はれないのである。人口の割りにして考へて見るとどこが一番多いか、諸君は或は高等學校の場合に於ける轡を以て想像が出來ると思ふ。併ながら是は我輩の方からして御話した方が早手廻はしである。

かも知らぬ、人口の割りにして見ると一番多いのは山口縣である、それから山口縣より人口の割りにして多いやうに見えるところがある、それは北海道であるが、それは一種特別の事情があるから北海道と東京は例外として置いて、さうして當り前の規則を以て其標準に據つて考へて見ると云ふと山口縣が一番多い、即ち山口縣の百十七人と云ふのが一番多いのである、人口の割りに依ると福岡縣などは餘程足らぬのである、山口縣に餘程及ばないのである、人口の割りにしてどの位及ばないかと云ふと福岡は四十一人、山口に及ばないのである、山口縣に漕ぎ付けるには四十一人の大學生を拵へなければならぬ、新潟縣は百四人であつて多いやうであるが新潟の人口を見ると非常なものである、新潟は全國で一番人口の多い所である、百七十萬からの人口である、それであるに依つて其人口の割りにして考へて見ると新潟は山口に遠く及ばぬ、幾人持て居れば宜いかと云ふと二百十七人持つて居らなければならぬ、それ故山口に及ばぬことが百十三人である、新潟は百十三人山口に及ばぬからすつと下に下がる、それで新潟が大學生が多いと言つて威張つてもどつこいさうはいかぬと云ふとを我輩が新潟人に聞かせたのである、新潟は第三番の所に居ると言つて威張れるやうであるが山口に比べると百十三人も不

足して居るから新潟は下に下つて仕舞う、それで山口に比べると非常に劣つて山口は拔群に多い、山口の大學生徒は他の府縣と比較すべからず、非常に多いのである、山口縣は比較すべからず、格別に多のであるが、又氣の毒なやうに比較すべからず、格別に少ないのがある、それを能く聽かなければならぬ、それで誠に残念千萬であるが、其事を聽いてさうして各々腹を定めて置かなければならぬ、本縣の如きはさうであるかと云ふと本縣の如きは大學の學生々徒を格別に少なく持つて居る所の府縣の中である、福岡縣が百三十一人、山口縣が百十七人、新潟縣が百四人、愛知縣が八十四人、石川縣佐賀縣が七十五人、鹿兒島縣が七十一人、熊本縣が七十八人持つて居る、之に對して本縣は大學の學生々徒を幾人持つて居るか云ふと、たつた十六人である、彼等は百三十一人或は百十七人も持つて居る、然るに四國四縣の中の一縣である所の香川縣、然も人口に於ては高知縣より多くの人口を持つて居るに拘らず、たつた十六人より上の大學の學生々徒を持つて居らぬことは、是れは決して忘れてはならぬのである、諸君は長く此事を記憶して置かなければならぬ、三歳の童子も母の乳房に就て乳を飲んで居る子供も魂があれば、此事を忘れてはならぬのである、山口縣に比すれば幾人の差であるか、殆ど百人の差である、山口縣人も

日本人である、香川縣人も日本人ではないか、同じ大和魂の日本人ではないか、山口縣人が我れより百人も餘計大學の學生々徒を持つて居つて國家の爲に盡すと云ふことは實に熱心と言はなければならぬ、彼が少年子弟を教育し國家の爲に人材を養成することに熱心なることは日本全國の者が大いに謝さなければならぬのである、諸君、徳久君の盡力に依つて義務教育就學者の數が大いに増加したと云ふことであるが、獨り義務教育就學者の數のみならず、高等教育就學者の數も大いに増加せしめなければならぬと云ふことは諸君が堅く信せなければならぬ所である、之を増す爲に諸君は大いに奮發し大いに盡力しなければならぬのである、非常なる熱心を持つて大計畫をやらなければならぬ、前刻申した人類に固有なる、特種なる、強堅なる意志を持つて本縣をして第一の地位を占めしむるやうに諸君が十年掛け二十年掛け三十年掛けても高知縣等に決して劣つて居つてはならぬと云ふ決心を持つて成功しなければならぬのである。

それで各府縣の高等教育就學者の人員が今述べた如く多少差があると云ふのは何に因るのであるか、何に因つて斯う云ふ異同が起るのであるかと云ふことを考へて見なければならぬ、之を考へて見ると、詰り地方の有志有力者が能く一致團結

して後進子弟養成の爲に盡力計畫するの熱度が高いか低いかと云ふ事に因るより外に無いのである、若し地方の有志者有力者が後進子弟の教育の爲に一致團結して能く盡力することであるならば、高等學校に於ける所の生徒の數に於ても大學の學生々徒上に於ても決して劣等なる位置に下がることはない、我輩は思ふのである、左れば維新前に於て大藩であつた、一つに纏つて居つたやうな地方である、今日では高等學校の生徒も多ければ大學の生徒も多いのである、維新前に於て諸藩互に割據して四分五裂して居つて或は三十有餘の獨立統治者があつたと云ふやうな地方であると云ふと少年子弟養成の道なども一向に立つて居らず、即ち各自獨立の熱心獨立の富に任せてあるのである、然るに賢者必ずしも富者ならずと云ふ事情の爲に、如何に高等教育を受けることを欲しても育英會もなく獎學資金の設けも無い地方の子弟であると將來頗る有望なる者でも泣々退學しなければならぬのである、若し地方に強堅なる所の團體があつて教育熱心の爲に育英會であるとか獎學資金であるとか云ふものがあれば斯の如き地方では人材を養成することが出来て高等學校の生徒を多く持ち、其結果斯の如き地方の人は大學を卒業して各方面に立つて優等なる位置を占めて高等なる者に成れ、銀行員であ

れば高等なる銀行員にも成れ、其他代言社會に於ても其社會の高等なる位置を占むることになる。

茲に一例を擧げて諸君に明なる觀念を授けやうと思ふ、それは山口縣の事である、山口縣が高等學校に於ても大學校に於ても最も多數の比較すべからざる學生々徒を持つて居ることは是は決して偶然のことではないのである、山口縣の如きは舊幕時代に於ては最も有力なる所の大藩の地方なのである、最も能く一致團結して居つた所の舊藩の地方である、而して山口縣は今日に於ても最も有力なる元老が最も多く居る所の縣である、是等元老先輩と云ふ者が山口縣の少年子弟の教育の爲に能く一致團結して各種の方便を設けたのである、山口縣の如く少年子弟教育の爲に盡力した所の有志者の多い縣と云ふものは決して日本何れの所にも無いのである、山口縣にはどう云ふ元老が有るか、と云ふと伊藤侯爵の如き山縣侯爵の如き井上伯爵の如き杉子爵の如き鳥尾子爵の如き桂有地品川を初めとして有力なる先輩有力なる元老が非常に多いのである、是等元老先輩と云ふ者が一致團結して後進子弟教育の爲に資金若くは教育機關を備へ高等學校と云ふものさへ既に十年餘の昔に設けて置いたのである、十餘年前に於て既に防長教育會と云ふ

ものを設けて實に莫大なる資金を拵へたのである、それは幾らの資金を拵へたかと云ふと六七十萬圓の資金を拵へたのである、而して其資金を以て高等學校を特有したのである、高等學校を其縣人の爲に設立したのである、それで年々經費が餘れば又其資金を以て有爲活潑貧困にして學術優等品行方正の子弟であれば彼等に資金を給與して教育を受けしむるのである、高等學校大學校教育までも受けしむると云ふのは彼等山口縣人である、而して山口縣人の如きは特に是等莫大なる資金を以て高等學校を設立し人材を養成して居るのみならず復其外に陸海軍人養成の爲に莫大なる資金を持つて居る、武學獎勵會と云ふものがあつて陸海軍人養成資金が八萬圓もあるのである、逆も他の府縣では夢にも見ることが出来ぬのである、山口縣の如きは一方に於ては陸海軍軍人養成ばかりにも八萬圓の資金を以て軍人を作り、又他方に於ては莫大の資金を以て文人も作りあらゆる資格を持つて居る人材を拵へると云ふのは何れも、國家の爲めに實に忠義なる所の山口縣人ではないか、左れば山口縣人の如きは明治三十二年に至つて初めて高等學校設立地と云ふことに關して他縣と競争などをして居るやうな迂濶なことは爲さぬのである、こちらが適當であるとか便宜が多いとか就學生徒がどうか言つて

他縣と運動三昧をして争つて居るやうな迂濶なことを爲さぬのは山口縣人である。毛利元就の意志を繼いで三百年來強堅なる意志を持つて進歩發達して來た山口人は斯の如き迂濶なことはやつて居らぬのである。諸君政黨者流は頻に藩閥を攻撃するのである、それでも大學の學生生徒を山口縣は僅に十六人である、青森縣は尙ほ縣は七十一人持つて居ると云ふのに此香川縣は僅に百十七人持つて居る、鹿兒島僅に十三人である。と云ふやうな事情では特に役人社會のみでなく社會百般の事業の上に於て藩閥の行はれることは是は已むを得ぬことである。我輩は思ふのである、幾ら藩閥を悪く言つても社會百般の方面に立つても能く努むることが出來國の爲に能く働くことの出來る者を多く出すのと少く出すとの異同がある。以上は藩閥と云ふことを避けることは出來ぬのである、若し藩閥が嫌ひならば適當な方便を執らなければならぬ。と我輩は斷言する、山口縣に負けないやうに香川縣でも青森縣でも人材を養成するが宜い、我れに於ても彼の如くに多數の高等學校生徒を持つて居り、大學の學生生徒を百二十人も持つて居ると云ふことであらば藩閥を攻撃するにも及ばず、決して藩閥など云ふものが立つて居る譯はない、それで今日の如く教育の上に於て各府縣の間に優劣がある以上は藩閥と云ふことを到底避けることは出來ない、幾ら政黨者流が攻撃してもそれはいけなない、其道を執つて來れば藩閥も何も忽ち無くなつて仕舞ふ、左れば此教育の不權衡と云ふものを恢復するやうにしなければならぬのである。茲に我輩は大いに喜ぶ事がある、それは何であるかと云ふと近年我邦の人民が教育事業に非常に熱心になつたことを我輩は喜ぶのである、中學校が各地方に續々起つて來るのみでなく近來は高等學校若くは大學設立に關して各府縣人が非常に熱心になつて互に競争などをして來たことである、それで高等學校の設立であるとか或は大學の設立の爲であるとか云ふと莫大なる寄附金を出す。と云ふやうなことが多くなつて來たのである、成程此運動と云ふことは悪いことかも知れぬ、教育の爲に運動三昧をすることは喜ぶべきでないかも知れぬが、兎に角各府縣の人民が教育の爲に斯の如く注意するやうになり斯の如く熱心になつたことは喜ぶべきことでもあります、又我輩が大いに喜ぶことがある、それは文部省が近頃八年計畫とか何とか云ふことをやつて居るのである、それも誠に我輩は喜ぶのである、去りながら我輩の所見を言へば將來全國に於ける高等學校の數は文部省の八年計畫に於ける如きもので決して満足の出來る次第ではない、夫より多くして十二にするとか十三にするとか云ふ

を到底避けることは出來ない、幾ら政黨者流が攻撃してもそれはいけなない、其道を執つて來れば藩閥も何も忽ち無くなつて仕舞ふ、左れば此教育の不權衡と云ふものを恢復するやうにしなければならぬのである。茲に我輩は大いに喜ぶ事がある、それは何であるかと云ふと近年我邦の人民が教育事業に非常に熱心になつたことを我輩は喜ぶのである、中學校が各地方に續々起つて來るのみでなく近來は高等學校若くは大學設立に關して各府縣人が非常に熱心になつて互に競争などをして來たことである、それで高等學校の設立であるとか或は大學の設立の爲であるとか云ふと莫大なる寄附金を出す。と云ふやうなことが多くなつて來たのである、成程此運動と云ふことは悪いことかも知れぬ、教育の爲に運動三昧をすることは喜ぶべきでないかも知れぬが、兎に角各府縣の人民が教育の爲に斯の如く注意するやうになり斯の如く熱心になつたことは喜ぶべきことでもあります、又我輩が大いに喜ぶことがある、それは文部省が近頃八年計畫とか何とか云ふことをやつて居るのである、それも誠に我輩は喜ぶのである、去りながら我輩の所見を言へば將來全國に於ける高等學校の數は文部省の八年計畫に於ける如きもので決して満足の出來る次第ではない、夫より多くして十二にするとか十三にするとか云ふ

學校を含有して居る、それで此の塊地利、匈牙利に幾校あるかと云ふことは諸君は御存じであらうが、其の塊地利、匈牙利にはギムナシヤとレヤルシューレンとを合して四百四十一中學がある、日本は幾つあるかと云ふと尋常中學が百九十幾つと云ふのである、それに高等學校が僅か六校である、何たる相違であるか、各府縣に一の高等學校が多いと云ふことを誰が斷言するのであるか、我輩は承らうとするのである、獨逸帝國の人口は日本の人口より少し多い、多いが獨逸に於ける所の中學の數は非常に多いのである、ギムナシヤとレヤルシューレンとを合して五百十九校である、非常な數である、それを以て彼等は少年子弟を日夜養成して居るのである、獨逸と云ひ塊地利と云ひ匈牙利と云ひ少年子弟教育の熱心は山口縣人の熱心より却つて多い位であると我輩は思ふのである、それから佛蘭西の中學は幾つであるか、佛蘭西の人口は日本の人口より少ない位である、而して佛蘭西の中學は實に三百七校である、人口は我れより少なくなつて中學の數は我れより却つて多いのである、斯の如き事情であるに依つて我日本帝國位の人口の帝國が事情に照らして見、又外國の標準に照して見ると云ふと中學の數も大に増さなければならぬ、高等學校と云ふものを今日の如く中學と別にして置く譯であるならば各府縣に

一校位は是非無ければならぬと我輩は斷言するのである、大學は如何であるか、文部省の八年計畫に依ると今より一二校増すと云ふのであるが、將來日本帝國の需用の上から考へ、日本帝國の人口の上から考へ、外國の例に依つて考へて見ると八年計畫の如きで決して満足することは出來ぬのである、外國には幾つあるか、塊地利、匈牙利は今申した如き人口である、而して塊地利、匈牙利には十一程大學があるのである、我日本帝國は僅に東京帝國大學、京都帝國大學だけで其上に一校か二校拵へると云ふ計畫が八年計畫なのである、塊地利、匈牙利には業に已に十一の大學があるのである、英國は幾つあるかと云ふと英國には大學が八校、分科大學のみが十校ある、佛蘭西には理文科より成立つ所の大學が十五校、法科より成立つ所の大學が十三校、醫科より成立つ所の大學が七校ある、斯の如く多く大學を持つて彼等は各種の人材、各種の學者、各種の技藝家を養成して居るのである、獨逸には二十一の大學がある、亞米利加にも最も廣大隆盛なる大學が十九からあるのである、是等の數に依つて考へて見ると將來に於ける日本帝國の大學の數と云ふものは大抵其位は無ければならぬのである、然れども大藏大臣は言ふかも知れない、高等學校も必要である、併ながら金が無い、金が無ければ仕方が無いと斯う云ふことを言は

れるであらう、成程金が無ければ高等學校が必要であつてもそれを設けることが出来ぬ、大學が幾ら必要であつても金が無ければ設けることが出来ぬと云ふことはそれは知れ切つたことである、若しさう言へば我輩は反問しなければならぬ、我輩の反問が役に立つか立たぬか知らぬ、それが急所を差して居るか差して居らぬか、それは諸君の判断に任せるのである、併ながら我輩は我輩だけの反問をしなければならぬ、さう云ふ反問かと云ふと、金が果して無いか、さうか、金が無いと言ふが金の無いのが果して事實であるか、さうであるか、と云ふことを我輩は聞かなければならぬ、銀行の補助費であるか、或は事業費であるか、云ふものに至るとさうし、やる、文部計畫の最も必要な即ち教員養成の機關を擴張する爲に僅か三十萬圓に足らぬ所の金を否決し置きながら臺灣の事業費であるか、銀行の補助費であるか、郵船會社の補助であるか、云ふと何百萬圓と云ふ金もさういふ決議してそれで金が無いと云ふことが言はれるか、我輩は金が無いと云ふことは一向分らぬ、さう云ふ金が有るに僅のはした金を教育の爲に出すことが出来ぬと云ふのである、金が無いと云ふことを我々日本人は黙つて聞いて居るべきであるか、さう云ふ理解力があるか、我輩には分らぬのである、又人民も學校を立てる金は無い

と斯う言ふかも知れない、我輩はそれにも承服することが出来ないのである、何れの地方に於ても何れの家に於ても無益なる不必要なる飲んだり食つたりが盛んに行はれて居ることは、この地方の有様を見ても分ることである、飲んだり食つたりすることも必要なものは素よりやらなければならぬ、飲まなければならぬ、必要もある食はなければならぬ、必要もある、併し其れ程必要はないのに飲んだり食つたりする爲に莫大なる金を我社會の者が費して居ることを認めぬか、さうであるか、それをやつて居ることであらば金が無いと云ふことをさうして日本人は言へるか、と云ふ事を我輩は反問しなければならぬ、本縣人は本縣に高等學校を設立して呉れと云ふことを非常に御希望になつて居ると云ふことを我輩は承つて居る、我輩は此際本縣人に對して聊か勸告をしやうと思ふのである、それはさう云ふ勸告であるか、甚だ失禮な申分であるが知りませぬが本縣の爲に我輩は熱心に御忠告申さうと思ふのである、若し政府が本縣を以て適當なる場所と認めて高等學校を立てるなら、此上もない重疊なことである、併ながら若し政府が本縣に高等學校を立てぬ場合に於ては、本縣人は奮つて自分達の資力を持つて本縣に高等學校を一つ是非立てなければならぬと云ふことを我輩は香川縣人に忠告するので

ある、山口縣でも高等學校を設立したではないか、山口縣で出来たことならば本縣でも是非奮つて立てたら宜からうと思ふ、若し山口縣には到底適はない、彼等には蹂躪されて居ると云ふ觀念であらばそれまであるが、山口縣にも鹿兒島縣にも高等學校があると云ふ事であれば本縣も是非一つは立てなければならぬ、政府が立てやうが自分の資力で立てやうが兎に角高等學校は一つ是非立てなければならぬと云ふ決心を起さなければならぬと我輩は思ふのである。

それで我縣は今言つたやうな理由を以て高等學校と云ふものは各府縣に必ず一校は必要であると斷言する、併ながら政府の力で以て各府縣に一校づゝの高等學校を立てさせやうと云ふことは恐らく無理なことではなかつた、さう云ふ事は容易に出来ないと思ひます、政府のやるまで待つて居つた日には此縣に立て呉れよば宜いが若し高知縣かごつかに立てられたら、ごつちに立てやうと云ふには幾年待つて居つても容易に出来ぬと思ふ、それを待つて居つてはなかつた、實際の無いことであるから若し他縣に高等學校を立てられたら自分達も奮つて本縣に高等學校を早晚立てる決心をしなければならぬと云ふのである。それで茲に大いに参考になることがあるのである、各府縣に高等學校をそれ

立てるのは宜いがそれに就て資金が困難であること云ふのが今日の問題である、然れども茲に最も宜い資金が出来たのである、それは何であるかと云ふと監獄費國庫支辨と云ふことである、是は早晚行はれることであらう、若し監獄費が國庫支辨になれば其監獄費の一部分をして高等學校の費用にすれば何の譯もなく出来るのである、監獄費は六百萬圓であつて平均に割ると十二萬圓ばかりである、それは縣の大小罪人の多少に依つて其多少はある、又それに雜収入と云ふものがあるに依つて十萬圓位になる、或はさう出来ぬかも知らぬが本縣の如きでも四五萬圓は監獄費があらうと思ふ、其四五萬圓の金を罪人を扶持する爲め罪人を助ける爲めに使ふのと國家に有益なる人物を養成するに使ふのと金の使ひ道がどの位違ふか、監獄費に使ふのは殆ど已むを得ぬ必要であつて泥の中に大枚の金を抛込んでと云ふやうなものであるが、若し之を高等學校設立の爲め高等學校維持の爲めに使つたならば是から生ずる人材は我日本帝國將來の隆盛に非常に効能があると云ふことを考へたら此四五萬圓の金を他に用ゐることを爲さずして高等學校の爲に使ふのが最も適當なこと、我輩は思ふのである、若し十萬圓もある所であるならば半分は高等學校の爲に費し他の五萬圓は外のものに費すが宜いと思ふ、

此機會に處して各府縣とも高等學校を起すと云ふ決心をしたが宜い、文部省の八年計畫を待つてアツケラカンと指を咬へて五十年も百年も待つて居る譯には迎もいかぬと思ふのである、即ち山口縣人や鹿兒島縣人に倣つて彼等の卓見に倣つて高等學校を設立するが宜いと思ふのである。

又我輩は金が無いと云ふことに就て反問しやうと思ふのである、臥薪嘗膽と云ふことを忘れてはならぬと云ふことを忠告しやうと思ふのである、彼の遼東半島還付の當時に於ては臥薪嘗膽の聲を我輩は頻に聞いたのである、此聲はどこへ行つたか、今日は何れの所に於ても臥薪嘗膽の臥の字も言はない、臥薪嘗膽をする必要が無くなつたのであるか、宇内の形勢はどうか云ふ有様になつたか、遼東半島還付の當時より宇内の形勢は非常に改良したのであるか、此問題はどうか云ふのである、臥薪嘗膽が遼東半島還付の當時に於て必要であつたならば今日は百倍も必要と我輩は認むるのである、臥薪嘗膽は將來百年も千年も後までも永續させなければならぬのである、臥薪嘗膽が必要であると云ふ理由を知らむとすれば我々日本人の今日の競争者は如何なるものであるかと云ふことを考へて見れば宜いのである、我々日本人の競争者と云ふものは支那人でもない、朝鮮人でもないのである、

我々の競争者は非常に教育に熱心であつて中學を四百も五百も持つて居る所の歐米諸國である、大學を十も二十も持つて居つて始終人材を養成する所の歐米諸國の人民である、斯の如き者を相手にして我々は今日進んで行かなければならぬのである、臥薪嘗膽と云ふことは決して一時の大言壯語に止まらしめてはならぬのである、何人が果して之を實行して居るか、香川縣人の中には幾人之を履行して居る者があるか、何故に之を實行して高等學校を立てる計畫を爲さぬのであるか、我輩は之を反問しなければならぬのである、又其外に大いに理由がある、臥薪嘗膽の必要であると云ふことの理由を知らむと欲する者は百年前に於ける世界の地圖と今日に於ける世界の地圖との間に如何なる異同があるかを審査すれば宜い、五十年前に於ける世界の地圖と今日の世界の地圖との間に如何なる異同があるか、十年前に於ける世界の地圖と今日の世界の地圖との間に如何なる變動が起つたかと云ふことを見れば宜い、それから百年前五十年前將た十年前に於ける日本の地圖と今日に於ける日本の地圖との間に如何なる異同が起つたかと云ふことは火を覩るより易いのである、我帝國は如何に膨脹して居るか、僅に臺灣を得たのは火を覩るより易いのである、我帝國は如何に膨脹して居るか、僅に臺灣を得たの

である、然れども比較的には我國が百年の間五十年の間十年の間に如何に縮少したかと云ふことは火を観るより易いのである、諸君臥薪嘗膽の必要は無いのであるか、臥薪嘗膽は只遼東半島還付の時に於ける大言壯語として止めしめて宜いのであるか、諸君は萬世一系の皇室の爲め二千五百有餘年間の歴史を有する大日本帝國の爲めに大いに奮つて努めなければならぬのである、天下の形勢は果して如何であるか、極東の危機は果して如何であるか、世界は動いて居るのである、大浪は寄せ來りつゝあるのである、何人も安閑として居るべき時ではないのである、何人も眠つて居るべき時ではないと我輩は思ふのである、諸君今より五十年六十年の中には我々多數の者は皆此の世を去つて行かなければならぬのである、而して我日本帝國の爲め我々が最も愛する所の日本帝國の爲めに我々は果して安心して瞑目することが出来るのか、安心して瞑目することが出来るのか、安んじて瞑目することが出来る爲には後進子弟を多く養成するより外に道は無いと我輩は思ふのである、我々が安心瞑目する爲には繼續者をして我々よりも百倍千倍も優る所の人物として養成して行くより外に道は無いのであると我輩は思ふのである、諸君、凡そ國と云ふ國とは果して何の謂であるか、山川原野風景の謂ひであると諸君は認むるのであるか、今日の希臘は其地勢其天然の恵みに於ては依然たる昔の希臘國である、今日の伊太利は希臘の隆盛を賞さぬのである、今日世人は伊太利の盛大を賞さぬのである、諸君、國とは即ち人類の謂ひであると我輩は思ふ、人があるから國がある、人が無ければ素より國は無いのであると我輩は斷言するのである、故に我々は教育の爲に多辯する必要があると思ふのである、教育の爲に絶叫しなければならぬのである、諸君、教育事業の爲には如何なる勤儉も爲して行かなければならぬと我輩は思ふのである、如何なる困難をも堪へ忍ばなければならぬと我輩は思ふのである、一私人として將た公民として教育の爲には、我々は如何なる困難をも堪忍して盡力しなければならぬと我輩は斷言するのである、諸君、後進子弟養成の爲と思へば一杯の酒一椀の食も漫りに之を食ふ譯にはいかぬと我輩は思ふのである、今日は實に後進子弟養成の爲に専心意を用ゐなければならぬ時である、と我輩は何人にも大聲疾呼して言はなければならぬのである、諸君が本縣の爲め將た國家の爲めに大いに盡力せられんことを我輩は偏に希望するのである、若し幸にして今日我輩が諸君の清聴を煩はしたることに於て本縣教育事業の上に聊かたりとも影響の及ぶことが

教育振起の必要

あらば我輩は此上もなく喜ぶのである、此炎熱の際に於て諸君の清聴を賜つたと云ふことは我輩に取つて實に光榮の至りと存するのである、深く諸君の厚意を謝するのである。(拍手)

静岡縣人の教育熱如何

(明治三十二年九月三日)

諸君吾輩は是迄屢々静岡縣の教育會から御招きに預つた事がござります、然るに従前は何時も差支がありまして其好意に酬ゆることが出来ませぬのでありまして然るに此度は當濱松の地に於て静岡縣教育協會の大會を催されると云ふ事である夫に又御招きに預る光榮を得た次第であります、此度は其好意に應ずることが出来ましたのである、夫を吾輩に於て喜ぶ所の度と云ふものは諸君に於ては御推量下されることが出来ぬ、次第であらうと思ひます、此度濱松に於て開かるゝ所の此教育會に出席することは吾輩に取つては非常に名譽と思ひ喜ぶ次第なのであります、其譯と申しますのは、吾輩は此濱松地方と一種特別な關係を持つて居りますのである、私は諸君方の多數の御方よりも深い關係を此濱松地方に持つて居ると言ふ權利があるかと思ふのであります、と申しました計りでは諸君に一向御合點が往かんことであらうと思ひます、實は當濱松地方に關係を持つて居ると云ふことは實に吾輩の家に屬する所の一本の石塔を此濱松在に持つて

居りますることであります。濱松の西の方の高い所の地を凡そ二十町も参りました所でござります。入野と云ふ在があります。其入野と云ふ在に一個の荒寺があります。是は宗源院と云ふ荒寺であります。其寺に一本の石塔を持つて居るのであります。其石塔は誰の石塔であるかと申しますると云ふと、今を去ること三百三十年の昔、即ち元龜三年十二月二十二日に三方ヶ原に於て戦争がござりました。其時に不肖吾輩の中興の祖先と致して居りますものが、柳原康政と云ふ人の手に付いて倒れました。兎に角私の家の記録に止めてあります所に據りますると云ふと先づ當時の武士としての本分は盡した次第であると思ひます。尠くとも吾輩の家の記録に因りますると所謂一番槍と云ふことを遣つた而して亂軍の後家康公の馬前に於て討死をしたと云ふことであります。其者の墓が此入野の宗源院にあるのでござります。でありますに依つて御當地は吾輩に取つては餘程縁故のある地方なのであります。三百三十年前より關係のあること云つて宜い少くとも御當地には吾家に取つて最も大切な最も尊敬すべき所のもの、即ち吾々子孫に對して大に教訓を與へて呉れるもの、日本臣民たる所の分を盡すことを教へて呉れるもの、斯の如く吾々子孫が尊敬して居ります者の遺骨が、此の地方

に收まつて居ります。夫でありますに依りまして今日當地方有志者諸君より招きに預て御客の様な資格を持つて参るのは、私は安んせぬ所もないのではないのである。數百年後の今日に於ては當地方に別に關係もない様な次第であるけれども、斯う云ふ由緒があります。が故に、此度諸君に接して聊か鄙見を述べ、機會を得たと申します。のは、此上もなく喜ぶ次第であります。殆んど他人と思はぬ様な人々に對し……一の大なる家に屬する所の……同じ家の者に對して、聊か鄙見を述べる機會を得たと云ふ様な感があります。のでござります。夫で今から申しますると云ふと、武士が戰場に於て今申しました如き舉動を爲す、君の馬前に於ける覺悟、其熱心と云ふものは中々一通りのものでないと思ひます。で、其位な熱心に爲すことは餘程難いことであらうと思ひます。然れども、此度吾輩が此名譽を得て諸君に對して鄙見を述べる機會を得ました以上は、恰も吾輩の祖先が當時戰場に於て討死した所の熱心なる覺悟に負けぬ位な覺悟を以て参りましたのでござります。さう云ふ熱心が有るかどうであるかと云ふことは、唯今から聊か意見を述べます。所に因りまして諸君の御判断に任せ様と思ひます。

凡そ人類の人類として固有なる性質は數多あることとござります。是は今更事々

しく申すべきものではなからうと思ひます、其人類の固有なる性質の内主なるもの一つと云ふのは、意識的の計畫をする有心的に故意的に計畫をするに云ふことと將來の事を企て計る意識を以て意志を以て計る……無意識的無意志的の計畫に非ずして殊更に意志を以て考へ、而して意識的に將來のことを計つて往くと云ふのは、是は特別な一個の性質であらうと思ひます、又人類に固有なる二つの特性だと考へます、意識的に意志的に結合すると云ふ事、一つの團體を成して働をするに云ふ事を意識的に意志的に爲す、是は人類の高尙なる一つの性質であらうと思ふ、下等動物であるとか下等人類であるとか云ふ者に至りましては結合團體をする事もありますが、是は意志を用ひて意識を用ひてさうして爲す所の者でないのである、夫が至つて高等なる人類に至つては次第々々に團體を爲し團體的の働をなすのが故意的、意識的、有心的になつて來ると云ふのであります、夫で人類が團結をするのは何に依つて團結をするかと云ふと、主として利害を同一にするに云ふ事である、利害を同うする者は其利害を認めて而して同一團體となつて作用をなす、夫で社會の統一と云ふ事は團體が重なる原因なのである、利害の同一に依つて人類と云ふ者は離合が出来て往くのであります、無意識的に成す所の團體と雖も矢

張り利害に依るのであるが、人類の高等なるものになると利害を認めて共に一團體を組んで働をする方が、便利であると斯う云ふ心から團體を組むと云ふことになつて來るのであります、斯の如く團體をなして一つの體となつて働をなして往くのには又方便がある、其事情の存在するか存在せんか、其如何に因つて能く團體を成して往くことが出来る出来ぬと云ふところが分れるのであります、能く團體をなして往くのには第一に都合の宜い事情と云ふのは、人種が同一であると云ふことで、人種が同一であれば夫れ又一團體を成すに都合が宜い、違つた人種と共に一つの團體を成さうと云ふのは六ヶ敷い、さう云ふ風で異なつたる所のものを結合せしむるには詰り壓力を外部より加へなければならぬ、然るに人種が同一であれば何事も甘く一致をして往くことが出来る、又一致和合するに必要なる條件は言語の同一と云ふものがある、人が互に意見を容易に人に分らることが出来るか出来ぬか人の腹が分らんければ人として和合して往くと云ふことは六ヶ敷いのである、若し考が能く分れば互ひに信用を置いて睦むく團結して往くことが出来るのであります、夫には其方便として最も必要なることは言語の同一で、言語が同一でなければ互ひに志想を通じ合ふことも出来難い、夫れ故に思想を通じて團結

することも出来ぬと云ふ様なことになるのであります。夫れは亞細亞でも歐羅巴でもいくらか例のあることでもござります。人種が多く雜つて言語が多く異なつて居ると云ふことは國として一國の和合が極めて困難であります。歐羅巴の例はオーストリア、ハンガリーである異なつた人種が多い、違つた言語が數多行はれて居る、オーストリア、ハンガリーの如くは一致和合したる所の一つの帝國となつて而して他の強國に當つて往かうか杯と云ふことに付いて不便を感ずるのである。又内部に破裂杯と云ふ原素があつて一致することが出来ぬ斯様な事情があるので他の國は動ともすれば境を犯すと云ふ様なことが出来るので極めて不利なことなのであります。オーストリア、ハンガリーの如き此事情のために非常に苦んで居るものであつて歴史上に於て明かに分つて居る所のものであります。夫れから又一致和合するのに便利なることのひとつと云ふのは祖先の同一と云ふことであります。祖先の同一なるものを持つて居りますれば祖先崇拜と云ふことの觀念よりして和合團結する爲めに利益があるのであります。又一つ團結に有益なる事情と云ふものは歴史の同一と云ふことである。過去の歴史の同一なるものを持つて居るのが必要である。若し人種が同じでも言語が同じでも過去に於て別々なる歴史

を持つて居つたと云ふことであると、團結に不利である。昔からして同一の歴史を持つて居るものであると云ふと、團結を成すのに非常に都合が宜いのであります。夫から又團體を成すのに都合の宜い事情の一つは宗教の同一と云ふことであります。宗教と云ふものは人心を支配する原素なのであります。宗教のためには人類が熱心にもなれるし非常なる艱難にも堪へることを爲すのである。社會生活の上には就ては宗教と云ふものは非常に強い力を持つて居るものであります。で宗教が同一であれば一致團結して往けるのに宗教が異つて居れば互に争ひ互に敵視して戦争をなし或は苦しめ或は互に絶やさうとし國から放逐しやうとすると云ふ様なことを爲すに至る。是又各國の歴史に就て見て歴然たる事情であります。夫でありまするに依て、宗教は同じ人民の内に異なつたものが數多あると云ふ様なことは夫が互に刺激となつて宜い様なこともあるが、又時として宗教の軋轢のために非常な困難を來すことがある。夫が同一な宗教を皆奉じて居ることなれば其國の人民が一致團結して鞏固なる社會をなして働いて往くことが出来るのであります。……斯う云ふ様な事情があらう……猶其他種々の事情にして能く團結を成すのに便利必要なるものは幾らもあるものでありませう。併しながら今云つた

様な所の事情が重なるものであります、然れども人類と云ふものは唯受身的に社會を成して社會的の働をなすのみでは往かぬのである、活動的に有爲的に進取的に社會的の生活をなして往く社會でなければ其社會は進歩的であることは出來ぬ、唯受動的の働を爲して居ると云ふ社會では頼もしくない、有爲活潑進取の精神があつて他の社會人類に其働を及させる、働を他に及ぼすと云ふ様な社會にならなければ往かぬのである、斯様な社會になることの出來る團體でなければ往かぬのである、此の如く進取的有爲活潑なる所の社會であるには又自ら條件があると思ふ、其條件のあるかないかに因て其の社會が活潑な進取の社會であるかないかと云ふことになるのである、其條件はどう云ふものであるかと云ひますると、各個人の……社會に屬する所の各個人を能く刺激して一個活動的の働を爲さしむる様な精神を持つて居らなければならぬ、社會の各個人を刺激して活動せしむる様な精神と云ふものが社會にあることが必要であると思ふ、一個人の主義とか精神とか云ふものが社會全般に至つて居つて其社會に屬する所の人を望むらくは一人残らず有爲活潑なる主義精神を持たしめることが必要である、無意識無精神の社會即ち下等動物の様に主義もなく精神もなくして宜いのである乎、人類社會で

は此の如き無氣力なことでは往かぬのである、此の如きものは壓倒せられて次第に地球上から消失せてしまはなければならぬ、地球上に於て鞏固なる社會を爲し、鞏固なる社會的の働を爲して駸々として進めて往かしむるには、一個の鞏固なる精神と云ふものがあつて夫で以て社會を活動させて往くことが必要であると思ふのである、夫で精神主義と云ふものはどう云ふものでなければならぬかと云ひますると、此社會に屬する個人と云ふものは皆此社會には一個の借があるのである、天よりして命せられた務めがある、我が社會の爲めに働かねばならん義務があると云ふ様なことを社會の各個人が信ずる様なことであれば其社會は非常に強いものになるのである、此社會に屬するものが一人残らず務めがある義務があると云ふことこの精神を社會の各個人に持たしむる事が出來たならば、此社會は非常に強いものになるであらうと吾輩は思ふ、此事は一個の目的である、此社會に於ては此の如き目的を果さんければならぬ、是丈の事業は此社會に於てどうしても採らなければならぬと云ふ様に果すべき盡すべき目的のある所の志想を各個人に持たせることが出來れば、此社會は非常に強いもので、中々他の社會が……此の如き主義を持たぬ社會はいくら大きなもので、いくら人口が多くとも是に當ること

は出来ぬと吾輩は思ふのである。夫れで孰れの時孰れの時代に付て考へて見ましても鞏固なる主義精神を持つて居らぬ社會であつては強盛を極めたものはない、古來孰れの地方に於ても最も鞏固なる社會には其社會の信する健全なる所の主義精神があつたと吾輩は思ふ、社會は此の如き精神を持たなければならぬ、此の如き精神主義を持つて居れば強盛を極めることが出来るかと考へます、何故かと申せば、若し社會に此の如き主義精神の完全なるものがない以上と云ふものは、如何に廣大なる土地を持つて居つても如何に多數の人口があつても其社會と云ふものは鳥合の衆と等しいものである、鳥合の衆から成立つ社會であれば幾萬の人口があつても其社會は恐るゝに足らぬ、此社會は他の社會から侵害を蒙つても防衛することも出来ぬ、夫に甘んじて遂には自滅せなければならぬ様なことになる、で社會の健全なる主義健全なる精神があつて社會が強盛を極めると云ふことの例を少し考へて見やうと思ひます、昔に於て最も能く適例となる所のものはギリシヤであらうと思ひます、ギリシヤ人は最も能く健全なる精神主義を持つて居つた者であらうと思ひます、ギリシヤと云ふ國は誠に小さき國である、國の面積等は取るに足らん國である、併しながら大層なる國であつて其各部分と云ふものは固より

非常に小さきものである、商人として小さき社會が出来て居ると云ふ様なことで極く小さき社會が其内にあつたと云ふことであります、然しながら其小團體が非常に強かつたのである、今日より考へて見てもギリシヤに於けるアゼンス、スパルタのえらかつたと云ふことは實に驚くべき次第であります、所で此國は考へて見ると云ふと小さき國であつたけれども小さな部分と云ふものは互に性質を異にして居つたのである、併しながら是等は一致和合して往くことが出来たのである、固より今云ふ様な一つの帝國ともいふべき者を成して居る譯ではなかつたのである、一個の聯邦的の國を成して居つたのである、小さきギリシヤの内に獨立の地方があつて聯邦的の組織で團體を成し、而してギリシヤの一つの國を成したと云ふことであります、而してギリシヤ人をして聯邦的の國家を成さしめた所の一つの事情は祖先が同じであつたのである、又宗教が同一であつたことが一つの事情で、同一の神を崇拜すると云ふことが一つの事情なのである、夫から最も著しいギリシヤ人の團結に利益のあつたことは、オリンピッククゲームス、大祭で行ふことがあつたのである、是は全國の者が一致して盛に行つたのであつて、遠く外國に出て居る者も此時は歸つて來て加はる様なことで、此時には頻に愛國心を養

成したのである、斯う云ふ方便があつてギリシヤの團結をすることが出来たのであるが唯夫丈けでは到底ギリシヤと云ふものは強盛を極めることは出来なかつたらうと思ふ、ギリシヤの小國を以て彼が如く強盛を極めることが出来たと云ふのは、別に一個有力なる原素があつたのである、夫は矢張り主義とか精神とか云ふもの……一個特別なるものがあつて其強盛を極めることが出来たのであると思ひます、ギリシヤ人はどう云ふことが特性であつたかと云ふと、自覺心と云ふものが非常に強かつたと云ふことで、自分で自分のことを考へると云ふことである、ギリシヤ人は既に二千幾百年と云ふ昔に於て自覺心と云ふことが富んで居つたのである、自覺心と云ふものは人類をして人類たらしむる所の特性の内にて最も大切なるものと云つて宜しからうと思ふ、此自覺心が人類の高等なる特性であると思ふ、夫をギリシヤ人は多く持つて居るのである、吾はどの位なことが出来るか吾は人類である人類と云ふものは如何なることをせなければならぬものであるとか云ふ所の考を非常に強く持つて居つたので、他の人種とは比較すべからざるものであると云ふことを自分で確く信じて居つたものであると思ふ、夫で他の人種と云ふものは殆んど吾より劣等なるものと自分で認めて居るので、自分達は人

類中の人類であると云ふ様に考へて非常に盛なる自覺心を持つて事を遣つて居つたのである、夫故其結果として昔よりギリシヤ人は意識的意志的に最も盛に特に法制杯を設けたと云ふ事、夫から政治の計畫杯を最も意識的に盛になしたのはギリシヤ人である、で此ギリシヤ人の自覺心の最も著しく發表されたと云ふ事は、どう云ふ方面に多く能く發表せられたかと云ふと、即ち我々の最も大切と思ふ所の教育事業に於てである、教育事業に於てギリシヤ人は此自覺心を最も多く使つたのである、ギリシヤ人は此精神上の教育身體上の教育を施したのである、明かなる觀念を以て身體上の教育精神上的の教育を著々施して往つたのである、唯無意識的に計畫もなくいゝ加減の教育を施して往くのではない、明かなる考を以て精神上どう云ふ風に教育せられなければならぬ、身體上どう云ふ風に教育してどう云ふ結果を得せしめなければならぬ、精神上はどうである、身體上はどうである、と云ふ様なことを極めて能く考へて明かなる觀念を以て種々教育を施して遣つて往つたのである、甚しきに至つてはギリシヤの教育上に於て著しいことと云ふものは弱い小供と云ふものは生かして置かぬと云ふことである、死んだ方が社會のため宜い、此弱い小供を生かして置くのは社會に採つて不利であると云ふので、弱

い小供は死ぬ様にしたのである、中々さう云ふことは容易に出来ぬが其當時は一人の人がさう云ふ苦みを避けるためにすると云ふ様なことでなくて、社會が公認して正々堂々と弱い小供と云ふものは國家の爲めにならぬものであるから、幼少なる内に絶つてしまふが宜いと云ふことを遣つた有様である、今日は到底道德上出来ぬことであり、ギリシヤではさう云ふことをなしたのである、夫であつて兒童の健康なるものは能く養成して充分に力を盡す強健なる者のみを以て社會を組織する様なことで、意識を以て遣つてギリシヤの小さな國を精神も主義も古今無雙の強健なる社會に拵へたのである、夫から又一方に於ては今の様に弱い小供を意識的に矯めて健康なる小供は七歳になれば個人の手から取つて國家が是を教育する、國家教育を意識的に行つて往つたのである、今日國家教育國家教育と頻りに云ふが、已に二千年前に於てギリシヤ人と云ふものは非常に強い意識を以て意志を以て國家教育を行つたのである、斯の如く意識的意志的に教育を施したと云ふことは、昔他に於て其例を見ないことであり、當時ギリシヤでは女子の教育に就ても明かなる觀念を以て計畫して、さうして是を實行することを努めたのであります、夫でギリシヤ人の考では女子と雖も男子と同じく教育して參らん

ければならぬと云ふ考を以て、女子に體操杯をさせて随分女子の教育にも努めたのであります、女子と雖も體が健全でなければ往かぬのである、健全でなければ其國の人民は健全なることは出来ぬと云ふ考を以て女子の教育をも重んじたのであつて、是は實に感服するのであります、而して斯の如きことを國家的に熱心に遣りましたのはギリシヤの内、スバルタであります、スバルタでは其精神として戦争主義軍人主義と云ふ様なものが行はれたのである、總べて遣方と云ふものが兵隊を訓練する様な仕方を以て行つて極めて秩序的である、服従と云ふことを非常に重んじたのである、夫で小さな此のギリシヤであるけれども、又其内のアゼンヌである此のアゼンヌは全く反對したる自由主義を採り、平民的の主義を採つて萬事遣つて往つたのであります、夫で昔に於てアゼンヌの如く意識的意志的に民主的の主義を採り、平民的の主義を施したるものもなからうと思はれる様な次第なのである、此精神の結果としてアゼンヌに於ては非常に愛國心が發達したのである、夫で各個人が皆己と云ふものを非常に重く視る様になつて、己の責任が重くなる、各個人が皆アゼンヌ國の命運に對して非常なる責任を持つて居ると云ふ考になつて居つたのである、夫故に愛國心が非常に強くなつたと云ふことなのであります

する、アゼンスの名譽並に繁昌隆盛に對して非常なる熱心と云ふものを持つ様になつて來たのである、さう云ふ人民があつて其國と云ふものは各々自らの國である、と云ふ考になつて來たのでありますから、其國の名譽は即ち各々是を負擔せなければならぬ、其國の繁昌と云ふものは各々責任があると云ふことになつて、次第に愛國心が増長して名譽心が段々起つて來た……斯う云ふことである。夫から次ぎに羅馬帝國と云ふものに就ても又其國の段々に發達した上に付て考へて見ますると云ふと、一種の健全なる所の主義のあつたために羅馬は能く強盛を極めることが出來たと云ふことである、羅馬の起りは非常に小さなものであつたが、遂には天下を一統してしまつた、其精神と云ふものを極簡單に一言して見ますると云ふと、斯う云ふことでありはしなかつたかと思ふ、近邦を併呑して天下を一統すると云ふ考が羅馬人には起つて居つたのである、隣邦を併呑し發達するに隨つて更に他國を併呑する其併呑は一統と云ふ精神を以て遂に世界中を一統併呑してしまつたのである、斯う云ふ様な精神で羅馬は發達して往つたのであります、が羅馬の遣り方と云ふものは矢張り軍人的の志想であつたのである、夫故に非常に戦争上のことが發達し軍事と云ふものは昔に於ては古今無雙と云ふ位に發達

したのである、又一方に於て一種特別な事情と云ふものは法律的精神を持つて居つたのである、さうして大きな國家を拵へて此二つを以て能く治めて往つたのである、大精神と云ふものは羅馬を各個人が……統一すると云ふ精神が羅馬人を刺激して夫で以て次第々に強盛を極めて往つたことではないかと思はれる。夫から又英吉利人、亞米利加人……アングロサクソン人種は自由を愛する、自由自治と云ふことを精神として發達して來たものでありはせぬか、又佛蘭西人の發達は戦争上の名譽と云ふものを非常に重んずるのである、戦争に於て功名手柄をすると云ふことが何より佛蘭西人の理想である、戦争に於て功名手柄をなし夫を天下に示して人の喝采を得やうと云ふことが佛蘭西人の精神であつて、夫を以て佛蘭西人は成立つて居るのである、夫故佛蘭西人の發達と云ふものは多く此戦争と云ふことに因つて起つて居る様であります、是がナポレオン一世の時に於て發達したのであると思ふ、佛蘭西人の名譽を博した彼のナポレオン一世は古今無雙なる所の戦争上の才能と云ふ様なものを以て又古今無雙の名將と云ふものを多く養成して、さうして佛蘭西は戦争に依りナポレオン一世の功名に依つて名譽を高めたと云ふことである、然るに夫がナポレオン三世の時に至つて其名

譽を獨逸に壓へられてしまつたのである。夫で佛蘭西人は名譽を回復しやうと云ふことに就て陸軍を擴張し海軍を擴張して而して此度は獨逸に勝つて名譽を回復しやうと考へて居るのである。佛蘭西人の考へは最も強い所の軍人を拵へさうして天下を戦争上に於て壓倒しやうとして居る……佛蘭西は戦争主義を以て隆盛を極めたるのである。而して獨逸人は愛國心と云ふ觀念を以て發達して來たのである。斯う云ふ様に皆夫々昔でも近世でも國が次第々々に發達して隆盛を極めると云ふのは夫々異つて居るけれども、各々何か信ずる所崇拜する所の主義精神があつて其國が夫々發達して來ることが出来るのである。夫で日本の歴史に就て考へて見るとどうであるか、日本の歴史に付て考へて見ても矢張何か強健なる所の主義精神を持つて居らんければ發達は出來ぬと思ふ。又發達する様な者は必ず確かなる主義精神を持つて居つたに相違ないと思ふ。日本の歴史に於て隆盛を極めたる所の者は必ず何か精神主義を持つて居つたのである。私は日本に就て考へて見ましたならば先づ織田氏の精神はさう云ふものであつたかと云ふと、勝つと云ふ此精神を以て起つたのである。夫から豊臣氏は取るどこ迄も取る到る所取る孰れの所でも取る日本の内で取る所が無くなれば朝鮮迄取る、朝鮮が取れてし

まへば支那迄取る、斯う云ふのが豊臣氏の精神であつて中々えらい精神である。即ち前申した羅馬の精神と同じ様な精神が豊臣氏の精神であつて取る事を以て始め、取る事を以て終つたのである。夫から徳川氏の精神は何であるかと云ふと、治めると云ふ精神を以て三百年の間我が日本帝國を治めたのである。織田氏の勝つて始まり、豊臣氏の取ると云ふので取り、其跡を繼いで徳川氏の治むると云ふので能く三百年間治めて往つたのであると思ふ。夫で昔よりして何人に拘らず英雄と云ふものは鞏固なる意志を持ち鞏固なる主義を以て意識的に計畫をなしたものである。つて織田氏、豊臣氏、徳川氏の如く隆盛を極めた事であると吾輩は思ふのである。夫で大なる所の主義精神を以て堂々と秩序的計畫をして來るものでなければ隆盛を極める事は出來ぬと思ふ。確固たる主義もなく唯私を營み私の利害を謀ると云ふ様な事では到底一個人としても社會に隆盛を極める事は出來ぬ、一個人と雖も確かなる所の精神主義を以て正々堂々たる計畫を爲し主義の爲め人の爲め國のためと云ふ様な考を以て着々計つて來るものでなければ隆盛を極める事は到底出來ぬのであらうと吾輩は信ずるのである。意識的に此の如き精神を以て發達して往く所の社會に必ず見る所の一つの計畫と云ふ者がある。夫は如何様なもの

であるか、夫は種々あるで事あるが意識的精神を以て今云ふ如く發達して來る社會に於て必ず見る所の計畫と云ふ者がある、如何なる社會と雖も爲す所の計畫がある、此の如き社會であるならば一つの計畫と云ふ者がある、其計畫は何であるかと云ふと既に前に述べた如くギリシヤではどう云ふ事を爲したか、羅馬ではどう云ふ事を爲したかと云ひますと、其計畫は即ち教育上の計畫なのである、斯の如く社會に於ては教育上の計畫をするのである、ギリシヤでは國家的の教育をなしたのである、非常に強く人意淘汰的に養成することを努めたのである、羅馬では家庭教育と云ふものに重きを置いたのである、又其他大仕事を爲した所の政治家は皆教育に重きを置いたのである、例へばシャレマン帝の如き非常に學問を重んじ教育を重んじて多くの學校を建てたのである、又英吉利の如き昔からして教育を非常に重んじた教育上の計畫をいたしたのである、實に英吉利の大學の内ではオックスホルド大學アルフレッド大學ケンブリッヂ大學此三大學は千年前よりありました、英吉利の社會をして健全たらしめることに非常の有力なるものであつたのである、殊に英吉利の精神たる自由を守る所の柵になり力になつたものなのでござります、此大學は往々英吉利の政治家の蹂躪しやうと思つたのを自由

主義の爲に熱心に戰つて是れに反抗し保護したと云ふこともあるのである、夫から又近世に至りまして教育上の計畫を最も有意的意識的に盛に行つたと云ふ一つの例は、獨逸帝國でござります、獨逸帝國が教育事業を盛に始めたのは今世紀の始めからでござります、彼のナポレオン一世から非常なる虐待を受け非常なる不面目を受けました、其時より獨逸帝國は奮然として將來の名譽回復の爲めに會稽の恥を雪がん爲めに、獨逸の復活の爲めに、意識的故意的に大學教育より普通教育に至る迄非常に熱心に施したのは獨逸帝國であります、獨逸の政事は卓見な者であつたのである、ナポレオン一世から敗北を受けつゝある時よりして奮つて教育事業を起したのであります、其結果七十年後の戰爭に獨逸帝國が佛蘭西と戰つて實に古今未曾有の連戰連勝と云ふ様に獨逸帝國が勝ちましたのは何に依るかと云ふと、獨逸に卓見なる處の政事家が各五十年も六十年も孜孜として教育を施しました、其結果として、獨逸は五六十年後に至り即ち今世紀の始に於ける處の大恥辱を回復することが出来ました、實に卓見なる政事家を有することは必要なのである、然るに若し獨逸に卓見なる政事家がなくつて教育事業を放任して措いたならば如何でござります、ナポレオン三世と戰て破ることは到底出来なかつたで

あろう、夫で佛蘭西は獨逸より非常なる敗北を受けて其後に於ける佛蘭西はどうか云ふ事をしたかと云ふと今度は自分達が教育を遣るより外はない、獨逸より斯の如く敗北を受けたのは教育不完全なる所以であらう、其處で教育を盛にして獨逸に負けん様に普通教育並に大學の教育を隆んにして居るのが佛蘭西の状態である、夫でありますから今後に於ける佛獨の衝突に於いて何れが勝利を得るか云ふことは斷言することは出来ない、佛獨は非常な熱心を以て教育を施して居ります、夫から意識的に國家教育の事業を施して居るのは歐羅巴諸國のみではない、北亞米利加である、自由主義の國であるけれども非常なる國家的教育を施して居るのである、亞米利加の普通教育は極めて國家的の教育である、大學は多く寄附金を競つて遣る主義であるに依つて、亞米利加の大學は私立の大學が多いのである、非常なる財産を擲つて大學を建てるので私立大學が亞米利加洲には多い、併しながら斯の如きの私立の大學の起らぬ所の地方に於ては亞米利加は必ず公立の大學を起すのである、夫であるからして盛なる私立の學校があるかなければ其所に盛なる公立の大學があると云ふことになつて居ります、故に數多あります、公立でも何でも、宛に角大學なるものはなければならぬと云ふのが亞米利加の考でございます

いますが、又亞米利加では中學、小學の教育をも完全に施さねばならぬと云ふ考を以て居ります、亞米利加の憲法によると云ふと其國の命運と云ふものは人民の意志如何にあるのでございます、人民次第に依つて其國の盛衰が極つて往くのである、憲法がありて其憲法を用ゐるのは誰が用ゐるのであるか、人民が自由権を以て居る普通選舉權は人民にある、亞米利加の政治は自分達が持つて居るのであります、其故其人民は無學なる人民が居つてはいけぬ、無學なる人民は亞米利加政體に危険を加へる、又皆人民は政體をして安全なるものであらじめる精神を抱いて居ります、此考より自由権を以て居ります、斯く自由であるに拘はらず、教育が極めて強い國家的でございます、中々えらい、自由と云ふても其自由はどうか、つても宜い馬鹿な者が出來ても宜い、勝手ほうだいである、又亞米利加で憲法の完全なるものを作つても行はれないやうになつても宜い、亡びても宜いと云ふではない、夫を完全なる憲法を作り此人民が永く幸福を戴いて居ると云ふには有徳なるものが必要である、智識ある者が必要であると云ふので盛に教育を施して居ります。

で、外國の事に付いてはかう云ふことを見ることが出来るのである、我が日本に於てはどうかと云ひますと、我國に於ても昔より卓見なる處の政治家は

何れも教育上の計畫をなしたと云ふことを斷言しても宜い、卓見なる政事家は常に教育上の計畫を大切にし決して放任して居らぬ、さう云ふことを我輩は發見するのでございます、遠い王朝の時代は暫く措きまして後世武家時代になつてからどうでありますかと云ひますると云ふと、大政治家と云はれたる人は皆學問を重んじて教育を盛にしやうと云ふことを務めました、夫で先づ細かい事はさて措きまして主なる者は誰であるかと云ふと、徳川家康である、此徳川家康が如何に家庭教育を重んじられたかと云ふことは、諸君は御承知であらうと思ひます、御子孫の教育迄非常に注意されましたものと思ひます、非常に心配して非常に骨折られたものである、夫から又家康が學者を能く重んじられましたと云ふことは、林羅山先生を重く用ひて學問及び教育等を起す處の端緒を開かれました、其結果として聖堂と云ふ様な當時に於ての一種の大學を興しました、最も高尚なる教育を受けしむる處の一大教育の機關の聖堂と云ふものを興すに至りました、其處で以て當時の最も高尚なる教育支那の孔孟の道を講じ或は天下の經濟或は國家の時論等に關しても講究を爲さしめたと云ふ、其大機關杯を興しまして、さうして段々教育を盛んにするに至つたのである、或は又其外諸藩に就いて考へて見ても卓見な

る政事家卓見なる君公達は皆學問を重んじ教育を重んじたのである、例へば水戸の義公が如何に學者を集め學問教育を獎勵されたかと云ふことは、何人も知つて居ります、夫から又水戸の烈公が彼の弘道館と云ふやうなものを興して而して文武の道を熱心に講せしめられたと云ふやうなこともあるのである、夫から又段々と西に行つて彼の岡山の松平光政も最も熱心に學問を獎勵し學校を興しまして夫で彼の熊澤蕃山先生の如き學者を招聘して、さうして學問を大に講せしめたのでございます、夫で岡山あたりでは今日でも尙ほ其影響が存して居ります、今日に於ても學問を重んずる習慣が傳はつて居ります、夫で岡山あたりは教育を受ける者が多い彼の閑谷學校も存して居つて銘々子弟を薰陶して居ります、昔卓見なる政事家が學問教育を獎勵したる影響は永く續いて居ります、是等は決して偶然のことではないと吾輩は思ふ、凡そ天下國家の爲めに苟も盡さんと欲する者は學問教育と云ふものが必要と云ふ真理を認めて、能く之を信じて居りました處の卓見なる政事家があつて、其政治家が意識的有心的に施した計畫のためであらうと思ふ、見る所あつて君主の爲國家の爲に學問教育と云ふものが必要と云ふことを確かに信じて之を意識的意志的に施す計畫がございましたものは、其結果の著し

いものが燦然として出て参りました例へば水戸あたりで施した教育の結果は明治維新の原因となつて居るかもしれぬ、水戸流の學問は王政復古の基になつて居る様なことがあるかも知れぬ、勤王主義を彼所で養成した而して其の主義に因て段々と天下が薰陶されて來て遂に王政復古と云ふことが起り維新の大業も出來た、斯う云ふ事情も餘程あるだろうと思ひます、中々教育と云ふものは非常な勢力のあるものである、實に大切なるものでございます、卓見なる政事家が意識的に施すことは元より怪むに足らんことでございます、去りながら我國に於て最も能く此眞理を認められたものは誰である、此教育學問に依るにあらずんば維新の大業は出來ぬのであらう、眞に國家の爲に大事業を成すことは出來ぬと云ふ此眞理を最も明かに認めた者は誰である、諸君は誰と思ふ誰であらう、最も能く此主義を認められたのみならず最も能く此主義を實行した者は誰と思はれるか、此眞理を貫徹せしめた者は誰と諸君は思はれる、此眞理を認め此眞理を實行し最も偉大なる事業を奏した者は誰であらうか、諸君は御存知御座いますか、或は諸君と我輩は意見が違つて居るかも知れないが、凡そ日本帝國に於て此主義を最も能く認め最も能く實行して最も能く大なる事業をなしたる者は山口縣人である、長州人であると吾輩は

思ふ、山口縣人長州人と云ふ者は此教育學問は大切であると云ふことを最もよく認め最もよく之を實行し夫に依つて其徳に依つて最も偉大なる事をなしたものと吾輩は思ふ、彼祖毛利氏は昔も菅原氏と同じく文學を掌つたる家にして廣元が文武の才を以て國を治め元就が干戈紛擾の中にあつて心を文學に止めたること、其子隆元、元春、隆景等が學問を好む所の名士であつたと云ふこと、隆景は其支配地に就くに至つて大に學校を盛にしたと云ふことがある、其爲めに今日文武の士が輩出して天保嘉永に至つて慶親公が更に規模廣壯なる處の學校を新設し一方に於ては文武の俊才を選抜して諸藩に留學せしめたること、是等の事實は識者の普く知つて居る所でござります、斯の如くにして敬業と云ふ學校を起し或は育英館と云ふ學校を起し其外幾多の學校を起しまして夫に倣つて各地に學校を起しました、山口人は數百年來斯の如く盛に教育事業を營んだのである、其結果は著いものであると思ふ、祖先以來幾百年の昔より山口人が熱心に意識的に經營したる處の廣大なる教育事業の結果は非常なものと思ふ、吾輩は認めます、嘉永安政年間、防長に非常に人才が輩出して山口人をして維新の大業に最も多く與からしめたこと云ふのは何によるかと云ふに、今お話しした祖先等が年來熱心に施したる教育の結果で

ございます、其教育の結果によつて嘉永安政の頃人才が輩出して大に王政維新と云ふ大業をなすに當つて最も多く與らしたものは、山口人をして最も多く此大業に頼らしめたのは何の徳に因るか云ふに、即ち今おはなした教育の徳によると思ふのである、明治政府の元勳中有力なる者は最も多く何處の縣人の内にありますかと云ふに、是又山口縣人の内にあるのである、山口縣の如き今日も有力なる元勳が最も多くあるのであると思ひます、是は何人も否と云ふことは云へない、蓋し山口縣人の如き全く古來意識的意志的に計畫した處の教育の徳によつて起つたものであると云つて宜しい、夫で此所に大に注意せんければならぬ事がある、夫は何であるかと云ふに山口縣人は斯の如くに數百年來熱心に教育事業を盛に興して非常なる大人物を出して非常なる事業を成し遂げたのであつて、山口人は當今子弟教育の爲めに如何なる計畫をなして居つたか、即ち明治三十二年の今日であります、今日此時に於て諸君は今我輩の演説を聞いて或は扇使ひして居る、或は笑を含んで聞いて居らるゝ者もある、さう云ふ時にも山口人はどう云ふ事をしてをるか、夫れを考へて見なければならぬ、又此際此時に於いてどう云ふことをなして居ると云ふことを考へねばならぬ、諸君等は大に注意せねばならぬ、又研究をせ

ねばならぬ、吾輩の鄙見に依れば今日に於いて山口人の教育熱は實に海内無雙なもの、と斷言するのである、是に及ぶものは日本全國一縣もないのである、恐るべき教育熱を持つて居るのである、此教育熱は實に恐るべきものであると云ふ其證據を、諸君にお話し申します、第一に義務教育即ち小學の教育に於て山口人はどう云ふ所の段階に居るか、最近の調査によりますれば、即ち明治三十一年の實地の調査でございます、是を吾輩は文部當局者に調べて貰つた、夫れによつて申しますると云ふと、全國各府縣の義務教育の就學者の平均數は百人中六十九人八分八厘である、是に對して山口人はどうである、山口は七十八人である、平均より上になつて居ります、十人多く生徒を持つて居る山口縣人より上にあるものがあるかと云ふに、上にあるものもある、夫は何處である、随分諸君の豫想外の所にある夫は、どこ云ふに茨城縣で御座います………妙な所にあります、其數は八十三人五分一厘、四人許り多い夫からまだ多い所がある、夫は滋賀縣であつて七十八人五分五厘、まだ多い處がある、奈良は八十八人一分四厘、夫からまだ多い所がある、夫は兵庫である、八十八人一分四厘、島根が八十一人八分一厘、是丈けが山口縣より多い、其他の縣は山口より下にある、義務教育に於ては、是等の縣に及ばぬのみで、其他の府縣よりは上に

居る、夫から次に中學の教育は如何中學の教育に於てはどうかと云ふのに三十一年十月の調査によつて考へて見ますと、山口に於ける中學の生徒の数は一千八百三十八人、山口より多い處がないのではない、多い處もある、東京は餘程多い幾人かと云ふに八千七百七十四人である、非常に多い、東京には如何に山口でも叶はぬけれども東京は一種特別な事情があるものであるからして取除けてごさいます、其他にまだ多い處は大阪が多い二千二百五十五人、新潟が一千八百六十九人で福岡が二千三百七十四人、熊本が二千二百三十六人、就學生徒の數に至れば山口より多い處は大阪、新潟、福岡、熊本である、今申しました通り東京は一種特別な事情があるから措きます、夫で山口の右に出る處は此四ヶ縣である、扱て是から一步進んで考へねばならぬ、是等の縣は山口の上に居ると云ふ議論が出ますが、果して上に居るかどうだかと云ふことを審査せねばならぬ、今茲に出て來た數は、表向きの數である、是を人口に比較して見ねばならぬ、又山口縣の人口は幾等である、新潟は夫に比較して幾人居らねばならぬと云ふことを勘定せねばならぬ、又大阪はどうかである、そこで以て先づ一千人に付いて幾人であると云ふに大阪は一千人に付いて一人五分の割合になつて居る、大阪は多いやうであるが人口に對して調べて見れば

大阪の人は一千人に付いて一人五分である、新潟は御承知の通り非常に人口の多い所であつて百七十萬ある、而して中學の生徒は千八百六十九人である、夫を人口に割りますれば非常に少ない、千人に付いて一人一分になります、夫で山口はどうかであるかと云ふに千人に付いて一人九分持つて居る、夫で福岡は山口より少なく、幾らかと云ふに千人に付いて一人八分、熊本は漸く山口と同じ位なことになります、多いやうに見へても熊本は山口と同じ位になります、人口に割れば山口より熊本は却て多くない、唯頭數を勘定すれば少ないが人口の割にすれば却て又割の宜い處がないでもない、夫は大分縣である、大分は多い、どの位多いかと云ふに千人に付いて二人二分を持つて居る、又佐賀、高知、奈良が多い千人に就いて二人である、是丈に付ては山口は及ばないのである、其他の府縣と比ぶれば山口は非常に多いのでごさいます。

次に考へて見なければならぬことは高等學校に於ける生徒の數である、夫はどうかと云ふ事である、是は段々御注意を願ひたいのである、高等學校の生徒の數はどうかと云ふ事ですか、夫れで此高等學校の數は全國で官立の五校と山口の私立高等學校とを合せて六校である、此の六校の生徒の總數が二千五百二十一人である、即

ち北海道廳を入れて四十七で割れば各府縣平均數が五十三人六分四厘と云ふ平均數を得るのである、そこで平均五十三人と云ふ高等學校生徒の數に對して山口縣は幾何であるかと云ふことを御話しませう、山口縣は實に二百〇一人である二百〇一人居ると云ふのは實に非常に多いことではありませんか、即ち平均數より百四十八人多いのである、どうもすばらしいものでございます、實に孰れの府縣でも山口には及ばぬ皆劣つて居る、例へば福岡縣は百八十一人新潟縣熊本縣が各百〇三人である新潟が百三人と云ふのは鳥渡平均數に對して頗る多い様に考へますが、其實新潟の百三人は非常に少ないのである、山口縣の人口は第十七統計年鑑に據りますると九十六萬七千六百二十人である、然るに福岡縣は百三十一萬四千三百三十九人である、それであるから福岡は山口に對して高等學校生徒の數が二百七十二人九分なければならぬ、斯う云ふ譯になる、然るに福岡は其實百八十一人である、夫故に山口と比して九十二人少ない譯なのである、夫から又新潟縣は人口百七十九萬七千七百〇八人である、それであるからして山口の割合にすれば三百七十三人なければならぬ、然るに新潟は實際百〇三人であるからして、山口に比して二百七十人少ないと云ふ譯になる、高等學校生徒の數が二百七十人少ないと云

ふのは、どう云ふ意味を合むか又多いと云ふのは、どこに原因するか、是れは實に大切なことであつて熟考して見なければならぬ、夫から熊本は人口が百十一萬二千二百九十七人である、夫故に山口に對して二百三十一人でなければならぬ、夫が百〇三人であるからして山口に對して百二十八人熊本は少ないのである、熊本武士威張つても仕方がない、夫から少し割の宜いのは高知縣である、人口六十萬二千二百二十人であつて高等學校生徒の數が百十九人である、夫故山口に比して幾何及ばない、即ち僅に六人少ないのみである、夫から茨城縣は小學の時には山口より宜かつたが高等學校生徒の數は、どうであるかと云ふと僅に唯の三十八人である、堂々たる水戸の弘道館杯と云ふものを持つて居つた所の先生が僅かに三十八人である、夫から大分奈良も中學の時には山口より多かつたが高等學校生徒は少ない、奈良は幾人であるかと云ふに奈良は僅かに二十九人である、奈良は昔は都であつて盛んであつたが今日の教育の有様は斯様であります、夫から大分は五十四人である、人口も少ないが山口より百四十人少ないのである、その他の縣も山口に比較すれば非常に少ないのであります、到底山口には適はぬ、茲に至つて各府縣が皆山口に降参してしまつた、是れは各府縣大に奮發せなければならぬ、それから次に大

學の生徒の數を調査して見やうと思ふ、大學の生徒に於て他府縣は山口縣に勝つかどうであるか、夫を審査して見なければならぬ、大學の生徒の數は山口は非常に多いのである、夫で數の上より云へば東京は多いが是は例外としなければならぬ、又そうしますると表面上一番多いのが福岡縣で百三十一人である、次ぎが山口縣百十七人、次ぎが新潟縣で百〇四人である、是も亦人口に付比較して見なければならぬ、山口縣の百十七人に比して福岡縣は百五十八人でなければならぬ、夫が百三十一人であるからして即ち福岡は山口に對して二十七人及ばないと云ふ割合になつて居るのである、新潟は如何であるかと云ふに新潟は人口が非常に多い、故に山口に比して二百十七人でなければならぬ、夫であるから山口に對して及ばぬとが實に百十六人である、夫で大學の生徒の總數は二千五百七十人である、夫故に平均一府縣五十四人六分八厘である、夫で全國中平均以上に居る所の府縣は僅に十七であつて他の三十府縣は皆平均以下に居るのである、夫であるからして大學の生徒の數に於ても山口縣は實にえらいものであると云はなければならぬ、されば山口縣の如き實に高等教育の盛なるものであります、山口縣人が最も熱心に教育事業を努める結果は小學校の生徒、中學の生徒、高等學校の生徒の數大學校の

生徒の數に於ても非常に優等なる位置に居るのであります、あらゆる學校の種類に於て最も優等なのである、高等なる所の教育に就て高等學校の教育、大學の教育、杯に於て他府縣に比し優等なるものは長州人である、諸君此事は能く御耳に挿んで置かれんことを希望いたします、次ぎに諸君吾輩は是より静岡縣人に最も痛切なる所のことを御話しやうと思ひます、夫で子弟の教育に於ける所の静岡縣人の位置はどうか熱度はどう云ふものであるかと云ふことを吾輩は調べて見やうと思ふ、夫に付て審査した所がありますから謹んで御報道いたさうと思ひます、静岡縣の義務教育就學者の數は幾何であるか七十五人一分である、夫れ故に平均數よりは少し多い、少し心持は宜い、さりながら此位では多數の各府縣には及ばないのである、漸く平均の上につつて満足して居る様なことでは往かぬのである、どこが静岡縣より多いと云ふと神奈川縣にはかなはないのである、茨城縣にも及ばない、三重縣にも及ばない、ミエを云ふ譯にも往かぬ、滋賀縣にも及ばない、齒牙にも掛けて呉れない、岡山縣にも叶はない、京都府にも及ばぬ、兵庫縣にも叶はぬ、奈良縣にも及ばぬ、山口縣には固より及ばない、島根縣にも叶はぬ、高知縣にも及ばぬのである、實に何たることである、僅かに平均の上に居る許りで是等の數多の府縣に及ばん

のである、實にどうでありませう、是で静岡縣人の面目が立つものであるか御尋せんければならぬ、是で静岡縣人は宜いか静岡縣人の顔が立つと云つて済して居れるかどうであるか能く御熟考を願はなければならぬ、次に中學の生徒の數はどうかどうか、静岡縣の中學校は四つあつた、其生徒の總數は一千三百人である、然るに京都府は千四百二十六人、兵庫縣は一千三百三十一人、新潟縣は千八百六十九人、長野縣は一千三百四十三人、宮城縣は一千三百八十一人、福島縣は一千四百人、山形縣は千四百七十人、岡山縣が一千七百〇三人、廣島縣が千七百四十二人、山口縣が一千八百三十八人、福岡縣が二千三百七十四人である、大分縣は千七百八十二人、佐賀縣は千四百三十六人、熊本縣が二千二百三十六人である、斯う云ふ數がすつと出て來ます、夫故に静岡縣は中學の生徒の數に於て京都兵庫新潟長野宮城福島山形岡山廣島山口福岡熊本大分佐賀これ丈の府縣に及ばぬのであつて、及ばぬ及ばぬで始めて、及ばぬ及ばぬで仕舞ふのである、静岡縣人は是れで面目を維持するどころが出来るかどうか吾輩熱心にお尋ねじやうと思ひます、更に人口千人に就いては如何であるかと云ふことを調べて見れば静岡縣に劣るものは僅に四十七府縣の内十三縣に過ぎぬのでござります、二十七縣は何れも皆静岡より多いのでござ

います、斯かる中學生徒の數を以て他に競争が出来るかどうか能く考へて見ねばならぬ、教育と云ふ者がなければ競争資格はない、唯生れ付きの儘では競争は今日の社會では出来ない、今日は野蠻時代ではない、夫でありますから中學の教育は二十七府縣に静岡縣は及ばないと云ふ、是れをお忘れになつてはいかない、中學の教育に於て劣等なる事は實に非常なることである、夫で静岡縣の生徒を以て居ることも決して少ないではないが、どうも他府縣には叶はないのである、静岡縣には尋常の生れ付きの英雄が多くあると云へば宜いかも知らないが、私が見れば不名譽と思ふ、是は實に本縣の爲に不利なことであり、次に高等學校の生徒の數はどうかどうかと云ふに是に付いても覺悟を極めねばならぬ、此平均數は五十三人六分四厘である、諸君は高等學校に付てはお調べになつて居るかも知れぬが、静岡縣は幾人であるか、六十八人である、平均數より少し多く人口の割にすればどうであるか、人口の割では長崎縣にも及ばない、石川縣にも及ばない、北の方であるが富山縣にも及ばない……火事では焼けたが……島根縣にも及ばない、愛媛縣にも及ばない、鹿兒島縣にも及ばない、京都府の如きは人口が静岡縣より少ないが、高等學校の生徒の數は多い、又宮城縣は人口は京都府よりも尙ほ少ないが、高等學校の

生徒の数は九十二人でございます、人口の割にすれば静岡縣の殆ど倍でございます、此方は徳川氏で向ふは伊達政宗であるが及ばんさう云ふ世の中になつてしまつた……山形縣も同様である福岡縣は猶ほ多く熊本縣は人口は静岡縣と同様でございますが中々熊本侍えらい、加藤清正のお蔭であるか佐々友房君のお蔭であるか、中々馬鹿に出来ぬ、幾何あると云ふと百〇三人持て居る、静岡縣より三十九人多い、福岡縣は人口は少し多いが百八十一人でございます、即ち静岡縣より幾ら多い百〇七人多い高知縣は、人口は非常に少ない六十萬であるけれども高等學校の生徒は百〇七人でございます、静岡より人口の割にすれば多い事七十三人でございます、徳川氏が今は山内家に及ばない、佐賀はどうか猶ほ多い、人口は大約六十萬であるが百十九人、夫故静岡縣より人口の割合で八十五人多い、誰の恩か知らないが非常に多い斯の如く静岡縣は及ばない、静岡縣は頭を下げなければならぬ、所で山口縣でございます、人口は九十六萬、生徒の数は二百一人でございます、實に静岡縣より百四十七人多いのでございます、殆んど静岡縣の三倍でございます、山口人は静岡縣人より三倍多い生徒を以て居る高等學校の教育に於ては静岡縣は頗る劣等の位置に居ります、是で満足が出来る譯でございますか我輩はお尋ね申さ

なければならぬ、高等學校の教育に於て是等の多くの府縣に及ばん是で甘じて居る事が出来るかどうか諸君にお尋ね致したいのである、次にまだ残つて居りますのは大學の生徒の數であります、大學の生徒の數は静岡縣はどう云ふ位置に居るか、大學の生徒の總數は二千五百七十人である、其平均數は五十四人六分八厘である、静岡縣は是に對して幾何でございますか、六十九人である、平均より少し上に居ります、僅に多い人口の割りにすればどう云ふことになるかと云へば他縣に比べれば静岡縣は佐賀より四十人少ない、大學の生徒を多く以て居れば醫學士も法學士も工學士も出来る、夫が四十人少ないのである、福岡縣は幾千多い、静岡縣より五十六人多い、最も静岡より多いのはどこかと云ふに山口縣である、其多い事は六十二人である、大學の學生が山口は静岡より多い、されば普通教育に於ても高等教育に於ても静岡縣下と云ふ者は他府縣と比べて實に劣等なる位置に居ります、故多くの府縣に及ばないのでございます、此事實は三才の童兒も能く記憶して置かねばならぬ、老若男女一時も忘るべからざる事であつて二六時中此事實を覺えて居らんければならぬ、山口よりどの位劣つて居ると云ふ事を夢にも忘れてはならぬ、殊に高等教育に於て静岡縣は非常に劣等の位置に居る事を記憶せねばならぬ、夫

で高等學校大學校等に於て學生の多い事はどう云ふことになるか是等の生徒を多く持つて居ると少く持つて居る事は如何なる事を意味するか、どう云ふ結果になるかを考へて見なければならぬ、即ち今日は競争資格を備へて居るものでなければ今日の競争場裏に立つて優勝劣敗の作用に於て主動者たる事は出来ない、社會の百般の事業をとることに至つては優等なる位置を得るものは高等の教育を受けて競争資格を持つて居るものでなければならぬ、政治家にしてもさうでござい、例へばどう云ふ者が高等なる位置を占めるかと云ふに矢張り高等教育を備へた資格ある者でござい、或は慶應義塾の卒業生或は大學の卒業生であるとか云ふ者が政黨者中に就て牛耳を執るのである、例へば進歩黨に於ては、苗君是等の人が高等なる位置を占めて居る、官吏社會に於ては、苗君、犬養君、法學博士鳩山君、高田早苗君、大學出身者でござい、總て有力なる事業の牛耳を執る者は高等教育の資格を備へて居る者でなければ出来ない、健全なる教育を備へた者でなければ其要路に當ることは出来ない、宇内各國に對して日本帝國が競争して行くことは出来

ぬのである、今日に於て競争資格ある者は政府に於ても民間に於ても優等なる位置を占めることは必然の事である、夫をなすに各府縣負けずに競争して教育事業を擴張せねばならぬ、山口縣の如く教育を盛んに興じたのみならず、今日より將來に於て盛んに行つて往くのでなければ他の府縣は、藩閥の行はるゝと云ふことは全く是に在るので、政黨者流が能く藩閥を攻撃するが是は適當なる教育資格を受けて高等なる位置を占めて居るものが多くあるから、永く藩閥が行はれるのである、夫が分らんでござい、夫が分る卓見なる者は山口縣人であつて着々として遣つて來る、高等教育杯を攻々として遣つて居るのである、高等學校に付て他縣人は明治三十二年に始めて社會に競争して幾萬圓を獻金をするから高等學校を興して呉れと云ふ様なこと、迂遠なことを明治三十二年の今日に至つても運動して居る府縣が澤山ござい、山口縣は、どう云ふことをしたか、十餘年前に何人にも謀らず高等學校を興しました、其結果どう云ふことになりましたか、唯今述立つた如く高等學校の生徒大學の生徒も多い、是は自然の理でござい、夫で新潟縣は十年前に篠崎と云ふ知事の計畫で四十萬圓で高等學校を設立すると云ふ様なことがあつたが遂に行なはなかつ

た、夫で今日人口の割にすれば山口縣より大學の生徒の数が百人及ばぬと云ふ不體裁を爲して居る、夫で昨今高等學校に付て競争を爲して居ると云ふは實に新潟縣人の爲めに吾輩は憂へます、けれども又静岡縣人の爲にも憂へなければならぬ、静岡縣の如き實に山口縣と貧富の度を比較すれば決して劣つて居らぬ、又静岡縣人と雖も山口縣人と決して人種は變らぬのである、山口縣が斯の如く高等學校を建て大學に多數の生徒を有つて居る、此生徒の多いのは一つは貧困なるも學力優等にして品行方正なるものには學費を投じて高等の教育を爲さしむる様な事を努めて居るのであります、夫で山口縣は特に教育の奨励又は海陸軍人養生の爲に八萬圓を積立てゝあるのである、静岡縣は斯様な奨學資金を幾何持つて居るか、八萬圓位は持つて居なければならぬ、静岡縣は夫も持つて居らん、夫で山口縣と競争が出来るか、唯今知事も聞いて居られるが諸君もどうか能く聞いて貰ひたい、實に笑ひ事ではない、山口縣はえらい、毛利元就が教育を意識的に施して來た結果である、又今日山口には維新の元老諸君が多いのである、即ち伊藤侯爵、山縣侯爵、井上伯爵等が非常に強い所の意識を以て教育事業を施して居るのである、夫は何も藩閥を維持すると云ふ譯ではない、子弟の教育はさうしてもやらなければならぬ、日本

帝國と云ふものが今宇内の間に立て能く列強國と競争すると云ふには何に據つて出来るか、我國のみならず宇内に立つて競争するには其競争資格を備へたものでなければならぬ、其爲めに山口縣の元老は熱心に子弟の教育に努められるのであります、内地雜居にもなり外國人も入込む今日である、今日は以前と違ひ素町人土百姓も公民である、堂々たる日本公民で貴族も平民も競争資格を持つて立たなければならぬ、又日本を擁護せなければならぬ、國家の安全は將來我國の子弟の教育資格の如何に據るものである、若い者も七十年、八十年生きて居ることは出来ぬのである、今の元老は五十年、六十年の後には瞑目し去らねばならぬが到底此儘安心して瞑目することは出来ぬ、先輩より優つた子弟を拵へなければ瞑目することは出来ぬ、宇内の形勢はさうであるかと云ふに、宇内の競争者は如何に教育に熱心であるかと云ふことを考へなければならぬ、英吉利、佛蘭西、亞米利加の如きは非常に教育に熱心である、是等の國と競争せなければならぬのである、夫故に皆山口縣人の如く孰れの縣と雖も教育計畫が鞏固でなければならぬ、夫で余輩は高等學校を各府縣に興すべき必要があると思ひます、今日此静岡縣が愛知縣と高等學校敷地の競争をして居る様の有様であるが今日は左様な姑息の手段を採るべき時で

はない、夫に就ては獻金をする杯と云ふが其金があつたならば山口縣の如く誰にも相談せず設立すれば宜いのではないか、三萬圓か五萬圓も出せば出来るのである、夫に都合の宜いことは監獄費が國庫支辨となることである、是が先づ十萬圓であるとして其内三萬圓は収入があるとした所で七萬圓の金が出るのである、夫を以て高等學校を設立することは實に容易なることであると吾輩は信するのである、山口人は高等學校を設立することが出来るが静岡縣人は出来ぬ、山口縣では高等學校を建てる必要があるが静岡縣では建てる必要がないと云ふことは決してあるまいと思ふ、夫で高等學校は即ち大學の生徒を作る基である、又大學は競争資格者を養成する所のものである、是が多少は其府縣又は國家に對して如何なる關係を持つかと云ふことは、實に心を留めなければならぬことである、故に將來諸君は先程御話した所の山口縣人に負けぬ所の熱心を以て國家の競争資格者を出さんことを努められんことを吾輩は希望するもので、又是は實に諸君の一大責任であるのである、吾輩は此事を静岡縣のため希望して止まざるものである、聊か異見を述べまして諸君の御参考に供じまする次第であります。(大喝采)

教育上之所感

(明治三十二年九月牛込區教育會に於て)

會長並に會員諸君、此度當牛込區に於て教育會を設立せられたのは本區に取つて誠に喜ぶべきの至りのみならず、東京府、東京市に取つても實に喜ぶべき事と思ひます。

本日此會に於きまして——此總會に於きまして我輩にも一言述べるやうにと云ふ事の御依頼が、先日小島區長閣下からございました、當時私は其御依頼に或は應じまいかと思ひました事もありません、私は素より本區に永く住居して居ります者で、教育にも多年従事して居ります者であります、此の如き御依頼と云ふものは素より喜ぶ次第で……且つ聊か意見を陳べる機會を得ますと云ふことは、此上もなく喜ぶ次第なのでありますから、是非御受を致して宜い筈でありますけれども、扱又他方に於て考て見ますると云ふと、御受を致さぬ方が宜からうかと云ふ考も起したのであります、それはどう云ふ次第であるかと申しますると、私は元來多年教育に従事して居ります者で、私が教育の事に就てお話をする

と矢張教育事業擴張と云ふやうな事に説き及ばさなければならぬのであります、然るに我が東京市の人民を代表して居られるところの名譽職諸君東京府の府民を代表して居られるところの名譽職の方々の是れ迄の教育上のお考と云ふものは我輩の考とは随分反對して居るところがあります、當牛込區の是迄の成り行きから考て見ましても我輩の考とは反對して居ることがありますからして、夫故に私が此の如き教育の事を諸君諸子に對してお話をすると云ふ事でありませう、ば必ず是迄のお考に反したやうな事を随分言はねばならぬのであります、然らば却つて諸君の御不興になるやうな事も起りはせぬか、當區の有志諸君に對して、却つて不愉快と認められるやうな事を言ひはせぬかと云ふ、斯う云ふ恐れがありますのであります、併し又考て見ますると云ふと、昨今に至つては、本區に於ても頗る教育の事に注意せられるお方が多くなつて來たので、即ち此の如き教育會と云ふやうなことも設けられる事になつた次第なのであります、據つて今日の機運と云ふものは、却つて我輩等の多年希望して居るところの傾向に傾いて來た次第であらうか、殊に御親切に我輩の意見をお聴き下さると云ふことであるならば、其御親切に對しても卑見を述べなければならぬことと思ひました、此牛込區民に對

して盡すべき義務と思ひます

然し乍ら有志者なるお方には、特に或る有志者には或はお氣に入らぬ事を云ふかも知れぬのであります、今日御臨席下さつた諸君に於ては我輩の説に御賛同下さる事が多いことであらうと思ふのであります、或は悉く御賛成下さる事と私は思ひます、さう云ふ考で、今日は諸君の清聴を煩はす事と致したのであります、

凡そ動物と云ふものが此世界に於ては大切なる地位を占めて居る者であります、一方には植物と云ふものがあり、他方には動物と云ふものがあるが、動物の方が植物よりは高等なる者である、植物は無生物よりは高等なものであるが、動物と云ふ者は植物よりも高等なものである、斯る事は今更喋々するには及ばぬことでもあります、扱て動物と一概に言ひましても、其中には非常に種類が多いのであります、下等なる者もあるし、高等なる者もある、其種類と云ふものは夥しいことでもあります、極く下等なる者に至りますると云ふと、水の中に動いて居る殆んど形もないやうな者杯がありますが、段々進みますると、遂には萬物の靈たるところの吾々人間の如き優等なる者にもなつて來ます、このことでもあります、それで、下等なる段階に於ける動物の働らきを見ますると云ふと、其働きと云ふも

のが——範圍が極めて小さいのであります。下等動物の働きを見ますると云ふと、如何なる事に於きましても、極く範圍が狭いのであります。只現在の事僅かに其身邊に直接に起る事に對して働きをするに止まるのであります。即ち空間の上から考て見ましても、此作用と云ふものが極めて狭い間に行はるゝ。少し距離の過ぎたものに應ずると云ふ事は出來ないのである。己れの身體に對して直接に働きかける者がある場合に於て、之れに對して應ずる事をやると云ふやうなことであります。例へば、我が食物となるものが我が身體に觸れるやうなことがあると、其の觸れた部分に臨機に口のやうなものが出來て、其體內へ吸入して仕舞ふと云ふやうな事である。少し空間を隔つたるものに對しては應ずると云ふ事は出來ないのである。隔た物の爲めに感覺の生ずる事もなければ、之に對して作用を爲すことも行はれぬのであります。それが段々と動物が發達して來まして、高等なる者になるに従つて空間の判らぬ度が段々と遠ざかつて來るのであります。そこで餘程一足飛びに飛んだ所を申しますと、既に幾分か眼と云ふやうなものが出來ますと、どんな悪い眼でも幾らか遠距離の所の物が判るやうになる。それが爲に離れたる所の存在を此方から察する事が出來ると云ふやうな事が起つて、僅か乍らも反動と云

ふやうな事をやるのである。其れで段々と眼で見るとか、耳で聞くとか、鼻で嗅ぐとか云ふ様な外感が離隔した者の爲めに生ぜらるゝ様になるのである。其爲めの機關が次第に發達して來るのである。而して遠距離の物を最も能く認る機關は眼であるが、其の眼も素より動物の極く下等なる者に在ては僅かに明りが少し分る位な事である。種々な物を其々判然と認めること云ふやうな事は出來ぬのである。然るに、段々と高等なる動物になるに従つて、遠くの物でも判然と認めるやうなことが出來て、遂ひには鳥の如き者になると非常に遠距離のものを認むることの出來るやうになるのであります。鶯であるとか、鷹であるとか云ふ動物になると云ふと、人間よりはもつと遠くの物を認める事が出來ると云ふに至るのであります。耳と云ふものに於きましても、始めは己れの邊境の音のみがぼんやりと聞こへるのであるが、段々と發達して來ると、遂には非常に遠距離の音を聞く事が出來る様になる。種々な音を聞き分けるやうになる。又美術上の音杯を聞き分けることが出來て、耳と云ふものが非常に高尚になつて來る。斯く耳や眼が發達して來るに従つて人間も高尚になつて、空間の上に於ける精神の作用が頗る廣く成て來るのであります。

それで、人間杯に成りますと、素より動物の一番上に立ちます者であります。依つて、其種々な點に於て非常に發達して居るのであります。それだからして、只空間の上に於て遠くの物を認めることが出来るのみならず、時間の上に於ても内外の物を能く考へる事が出来る、長い時間に亘つて能く思考することが出来る、犬杯に於きましても、食物を地下に貯めて置くこと云ふやうなことをやります。又蟻の如き者でも食物を蓄へて置く事を知つて居りますから、物を永く保存すると云ふことを知つて居るのであります。

それから鳥杯になりますと、巢を作つたり何かして、永い間の計畫を段々やるが儲て人間に至つて其事が非常に進歩して來たのであります。さうして、人間と云ふ者は長い後迄の計畫をやるのである、それが人間の實に人間たるどころのゑらいどころである、只一時の事だけを思慮せんて將來の長い時間に亘る事項を豫想する、長い時が経つてからして、其必用のあるやうな事を準備すると云ふのが、人間の人間たるところで、之が人間の最も誇るべきところ、人間の最も大切なるところであらうと思ひます。そこで、人間が種々な事を計畫するが、一家の必要なる義務として、兒童の教育と云ふものがある、兒童の教育と云ふものは、之を兒童に與へるか與へ

ぬかで將來の我が子弟の如何と云ふ事も決定せられるのであります。又己れが如何にならうかと云ふ事も夫に依つて決定せられるのであります。そこで、子弟を教育するのが愉快であると云ふ事も、子弟を教育する人にはありますけれども、其愉快に依つて教育するだけでは中々いかぬのであります。愉快の爲めに教育をするると云ふことだけではあらば、それは下等動物が自分の子供を養成する上に於て愉快を感ずると殆んど同じ事である、親は子の爲め、兄は弟の爲めに、其爲めを思つて教育をするやうにならなければならぬ、亦成長の後には、己れが世話になるところの子弟であるから、教育すると云ふやうなこともあるであらう、斯ういふ様に精神がなつて段々教育を施こして行くことになるのであります。夫故に、教育を施こす中は己に徳と云ふ事はない、往々自から艱難辛苦をしなければならぬ、自分の愉快、快樂と云ふものは却て之を犠牲にして、子弟の教育をやるのである、否やらなければならぬのである、そこが人間の人間たるどころの尊き一つの點である、下等なる人類の間に於きますると云ふと、教育と云ふものを親が自ら直接に子弟を教育するのであつて、教師と云ふやうなものに之を施こさすと云ふことは中々やらぬのであります。で、自分達ち自から之に與つて教育をするると云ふやうなことでありま

す、それから稍々社會が發達して参りますと云ふと、社會に頭主と云ふ者が出來て來る——社會を統轄するところの君主と云ふものが出來て來て、其君主が教育の必要と云ふことを認めるのである、下等なる社會に於ける下等なる頭主は、己れの團體に屬する所の人民を教育するの必要など云ふことは、殊更に認めることがないのである、社會が稍々發達して來ると、其社會の統治者——君主と云ふものが教育の必要と云ふことを認めて參るのであります、故に、其君主と云ふ者が先んじて自分の社會に行ふ教育の方針杯を定めるやうになつて來る、其處迄に人間が達すると云ふと、實にゑらひものである、實に人間の本當の性質が現はれて來るのであります。

君主が意志を用ひて——意識を用ひて、さうして人民の教育といふものをやらなければならぬ、と云ふ事が主義となつて君主が教育をするやうになる、其時代に於ては、随分教育と云ふ事は必要であると認めて居る如き見識が社會の上に立ちて居る、一般社會と云ふものはまだ教育の必要な事を其れ程認めないのである、然るに、それを必要と認めるやうな者が社會にあれば、其社會に取つては非常に幸福なことであるが、往々は頑愚にして君主の教育上の計畫に反對するやうな者が人

民中にあるのである、折角國の爲めを思て親切にやるのに、それに反對する、かう云ふことが何處の國にもある、さう云ふやうな社會と云ふものはまだ中々いかぬ、君主のみいくら切に思つても、人民が一所にやらんでは、其社會と云ふものはまだ甚だ危険なものであります、それで詰局、此教育と云ふものを、君主が之を必要と視るのみならず、亦一般人民も之を必要と認るといふやうになつて來なければ社會はまだ中々ためである。

そこで、我が國の社會はどの位な程度に居る社會であるかと云ふて見なければならぬ、昔日でも、今日でも進歩して居る社會と云ふものは治者も、一般人民も共に教育の必要な事を認めて居る、國民の教育の爲めには如何なる儉約をもすると云ふ決心を以て、奮發之れ勵むと云ふ様な精神を以て、國民の教育、子弟の教育をやつて行くのである、最も高等なる社會に於ては、皆さう云ふ風になつて居る、只卓見なる一二人の政治家が主として教育上の大計畫をやると云ふやうな次第ではない、それは我輩が今此處で多辯を要するには及ばぬことである。

社會の教育と云ふものは、即ち文明の尺度である、社會の教育熱と云ふものは文明の尺度である、其國が如何なる文明の程度に達して居るか、と云ふことは、其社會教

育の熱が高いか低いかと云ふことで之れを認めることが出来る、又禽獸に如何に遠いか近いかと云ふ事が其標準である。

一つの社會があつて目前の利益だけに走つて、教育の必要杯を認めぬやうなものがあらば、是れは余程禽獸に近いのであります、天下には随分斯う云ふことを言ふ人があります、教育の事杯はどうでも宜しい、少しでも費用の要ぬ様にするのが、國に對しての忠義である、市に對しての忠義である、府に對しての忠義である、市に對しての忠義である、と云ふやうに心得て、無智なる人民の耳だけを喜ばして居つて、教育事業を蹂躪する如き者が名譽職の人等杯にも中々多いのである(拍手)

教育熱の多いか少ないかと云ふことは、文明の程度の尺度である、標準である、吾々の住んで居るところの東京府下の人民と云ふものは、此尺度から云ふと、如何なる程度に居る者であるか、其れを是れから審査しやうと思ふのであります。

凡そ教育事業と云ふものは、己れを現在益するものでない、社會將來の骨になるものであります、社會に義捐の精神がなければならぬのであります、愛國心と云ふものがなければならぬのであります、公共的の精神と云ふものがなければならぬのであります、是等種々の精神を要するところの事業であります、斯う云ふ精神が社

會に在つて、始めて教育事業と云ふものが盛に行はると云ふ事になるのであります、是等の精神を有して居るものは、其精神の結果として、又教育事業を盛に起すと云ふことになるのである、夫故に、特に愛國心があつて、又其精神の結果として、其教育事業が起り、其結果として、社會の精神を一新すると云ふ事になるのであります、斯くて社會は必ず隆盛になつて來るのであります。

昔から何處の社會でも、學問を奨励した事なく、教育を起したことの無い社會で隆盛を極めた社會は一つもないのであります、若しさう云ふ社會がありますならば、どうかお指示を願ひたいが、我輩はさう云ふ社會は幾ら考ても何處にも認める事が出来ぬ、如何なる社會でも、盛大を極めた社會と云ふものは、國の東西を問はず、必ず學問を尊び、教育と云ふものを起して居るのであります、非常に戦争杯を盛にしたと云ふ大將であつても、其戦争の結果として、大きな社會を作れば、必ず學問を奨励すると云ふことである、それでは、其社會を維持することも出来ぬのである、今日でも其通りである、素より其筈でなければならぬのである、教育の振はぬやうな社會と云ふものは、即ち今言ふたところの禽獸的の社會なのであります、さう云ふ社會で隆盛を爲したのは未だないのである、日本の今日の社會に於ても、其理

屈と云ふものは立派に證明されて居る、我輩の證明出来る所である、今日我邦の社會の中にも斯くの如き考を持つて居る者がある、悲しむ可き事には我々が住んで居る東京府下の如きは、斯の如き教育反對の精神の者が全國中最も多いのである、是れから東京府の教育熱の事を少しお話しやうと思ふのであります。

教育にも種々の種類がある、段階がある、先づ義務教育の事からして調べて往かうと思ふのであります、義務教育に於ては東京の有様はどう云ふものであるかと云ふ事を考て見ませう、三十一年末の調べに據つたところをお話申しませう、義務教育に於ては、全國四十七道府縣の平均數は百人中六九、八八人である、是れが一番新らしい調べであります、全國の平均斯様であるが、ところで東京府ではどうであるかと云ふと、まだ平均迄に達して居らぬ、前年間の調べに據ると、まだ平均迄に達して居らぬ、この位の處に居るか云ふと、六六、六である、即ち六十六人六分である、ただ、奮發しなければいかぬのである、されば東京府と云ふ所は義務教育の度に於ては、他府縣に及ばぬのである、どう云ふところに及ばぬかと云ふと、先づ第一に、近所であるところの神奈川縣に及ばぬ、——東京府と云ふ所が神奈川縣に及ばぬ、何故及ばぬかと言ひますと、神奈川縣は百人に就て七十六人の割合になつて居る、

千葉縣にも及ばぬ、何故及ばぬかと云ふと、千葉縣は六十九人九分になつて居る、茨城縣にも及ばぬ、何故及ばぬかと云ふと、八十三人五分一厘である、それから群馬縣にも及ばぬ、何故及ばぬと云ふと、群馬縣は七十四人三分九厘である、栃木縣にも及ばぬ、六十九人である、静岡縣にも及ばぬ、七十五人一分である、長野縣にも及ばぬ、長野縣は七十四人一分七厘である、宮城縣にも及ばぬ、六十八人七分四厘である、山形縣にも及ばぬ、六十七人七分一厘である、京都にも及ばぬ、七十七人一分二厘である、大阪にも及ばぬ、七十四人八厘である、兵庫にも及ばぬ、六十七人八分六厘である、奈良にも及ばぬが、何故及ばぬ、奈良は八十八人一分四厘である、三重にも及ばぬ、何故及ばぬか、三重は七十七人五分二厘である、愛知にも及ばぬ、幾らであるか、七十九人九分六厘である、滋賀にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十八人五分七厘である、福井にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十八人六分一厘である、石川にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十三人八分五厘である、富山にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十七人五厘である、島根にも及ばぬ、八十一人八分一厘である、岡山にも及ばぬ、七十六人八分五厘である、廣島にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十八人一分である、山口にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十八人である、香川にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十四人五分一厘である、愛媛にも及ばぬ、何故及

ばぬか、六十九人二分四厘である、福岡にも及ばぬ、何故及ばぬか、七十五人である、佐賀にも及ばぬ、佐賀は六十八人六分四厘である、熊本にも及ばぬ、七十三人一分一厘である、是れにも及ばぬ、彼れにも及ばぬ、何れの處にも及ばぬ、何處に東京府より劣つた所があるか、實に優つた所計りである、義務教育に於ては、吾々東京府民と云ふものは實に冷淡極まるのである、吾々東京府民と云ふものは、殘念ながら、他府縣に比べると、大いに禽獸に近いのである、唯々眼前の利益にのみ走つて居るのである、未來の東京府民の害であるとか、日本社會の未來の幸福とか云ふことには、それ程構はぬところの人民である、東京府民と云ふものは、夫だけ禽獸に近いのである、次には中學教育に於ては如何であるか、生徒の數杯は幾らになつて居るか、と云ふ事を是れからお話しやうと思ふのである。

中學教育に至つては、學校も非常に多ければ、亦生徒の數も非常に多いのである、何程學校があるか、本校が二十四個あつて、分校が一枚である、それから生徒の數は幾らであるか、七千百七十四名である、東京府の中學生徒の數は八千に垂んとして居るのである、非常に盛な事である、されば、千人に就いて、四六と云ふ割合である、大變ある、四六と云ふものである、他府縣には決して在りはせぬ、東京は實に盛なもので

ある、他の府縣では學校の數も非常に少ない、一番多いのが何處でありますかと云ふと千葉邊りが一番多い、千葉は本校が六校あり、分校が二校ある、各府縣では本校が六校杯と云ふのは外には在りはせぬのである、又之れに次では大阪の六校である、——大阪は中學を六校持つて居る、又生徒の數に至つては、一番多いのは何處であるかと云ふと、福岡である、福岡は幾人あるかと云ふと、二千三百七十四人である、大阪が二千二百五十五人斯う云ふのが一番大多數なのである、中々八千人杯と云ふ生徒を有して居る所の府縣は他にはありませぬ、學校もこんなにある所はありませぬ、五つか六つか七つか其邊が一番多いのである、然れば、千人に就いての比例の如きも、一番宜いのが大分であるが、大分は千人に就いて二人二分である、是れが東京府以外各府縣の中で一番宜いのである、各府縣の中學教育は斯くの如き有様であるが、我輩が少し有つて居る意見、我輩が下さうと思ふ斷定があるのである、東京府の中學教育は實に盛なものであるやうに見える、去り乍ら、中學教育は盛であると言つて誇りたいけれども、決して東京府民が誇る譯にはいかないのである、東京府民を贊譽する譯にはいかないのである、何故と云へば、此位東京府の生徒の數が多いのに、東京府の中學教育に關するところの設備と云ふ者は、全國一番不完